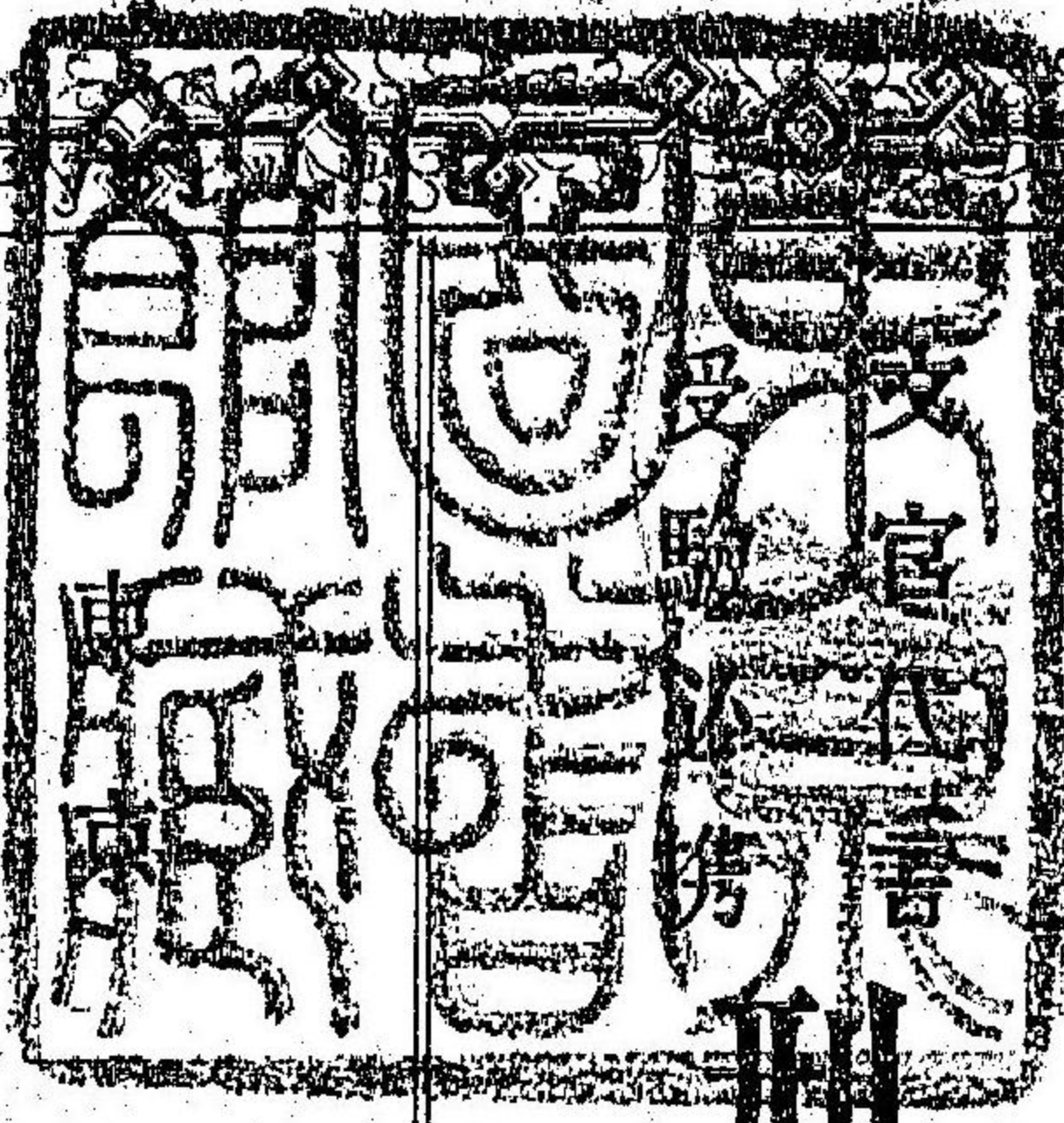


8-423

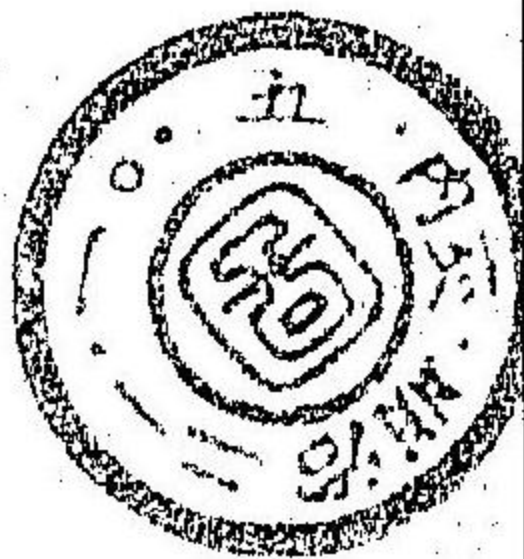
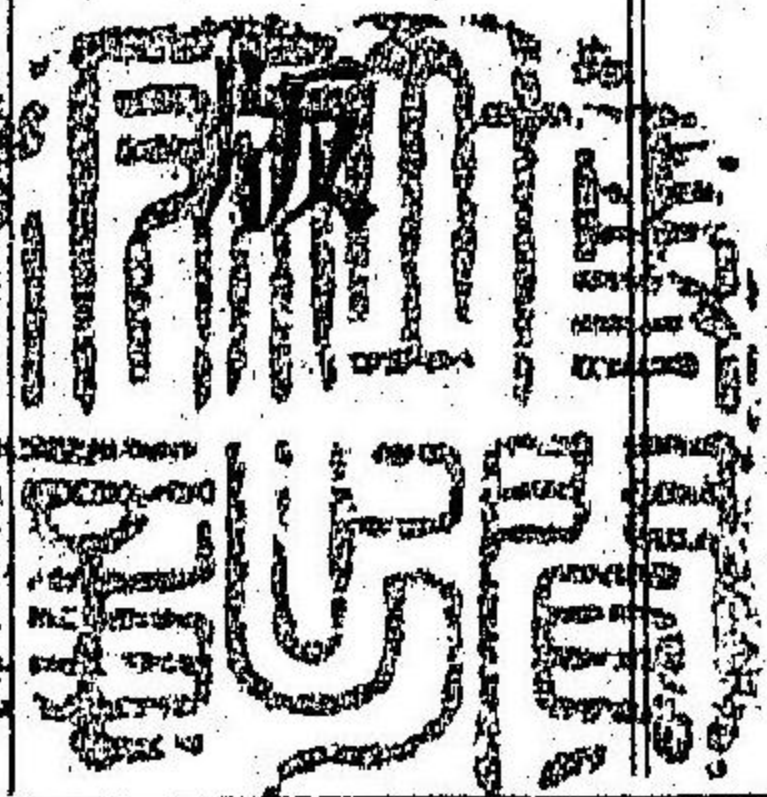
No 1227  
17-52



檢事 中村健三 校閱  
岡田俊太郎 著

刑法治罪法要訣

博聞社藏



## 例言

- 一 本書ハ余カ嚮キニ明治法律學校ニ在ルノ日現行刑法治罪法ニ付本邦并ニ佛國法律博士學士諸氏ノ講義及著書中最モ正理ナリト信スルモノ及判事代言試験問題ヲ集纂シテ之ニ答案ヲ付シタルモノニシテ敢テ管見ノ臆說ニ非サルナリ
- 一 本書ハ理由原則例外差別利益ニ分チ且一々問題ノ体裁ニ倣ヒタルモノハ讀者ヲシテ一讀瞭然タラシムル爲メニシテ他ニ趣旨ノ存スル者ニ非サルナリ
- 一 本書ハ素ヨリ世ニ公ケニスルノ目的ニテ編輯セシモノニ非サレモ友人ノ勸メニ據リ公ケニスルニ至リシモノニシテ問題ノ体裁并ニ順序モ一樣ナラサレモ活版匆卒ニ出テ訂正ニ充分ノ違モアラス隨テ誤字脱字ノ恐ナキニ非ス看者幸ニ之ヲ諒セヨ

編者識

跋

三人相會スレハ拔山蓋世ヲ説キ吞海回天ヲ談スルハ  
書生社會ノ状態ナリ然レ氏之ヲ行ヒ之ヲ全フスルモ  
ノニ至テハ寥々晨星モ甞ナラス是レ其望ム所大ニシ  
テ其爲ス所高キニ過クレハナリ佛氏ノ諺ニ曰ク地藏  
菩薩ヲ稱シテ千年菩薩ト云フ菩薩嘗テ衆生ヲ濟度シ  
盡サスンハ成佛セスト誓言セリ然ルニ幾千百年ノ今  
日ニ至ルモ未タ悉ク衆生ヲ濟度シ盡シ能ハサルヲ以  
テ其身終ニ佛界ニ入ル能ハスト是亦過キタルハ猶及  
ハサルカ如シノ謂カ夫レ然リ世ニ立チ業ヲ行ヒ名ヲ  
遂ケント欲スルモノハ能ク其事物ノ輕重ヲ考ヘ又能  
ク自己ノ能力如何ヲ知ラスンハ半途ニシテ挫折シ則  
チ山ヲ積ミ九仞ナルモ一箕ヲ欠ク片ハ遂ニ其結果ヲ

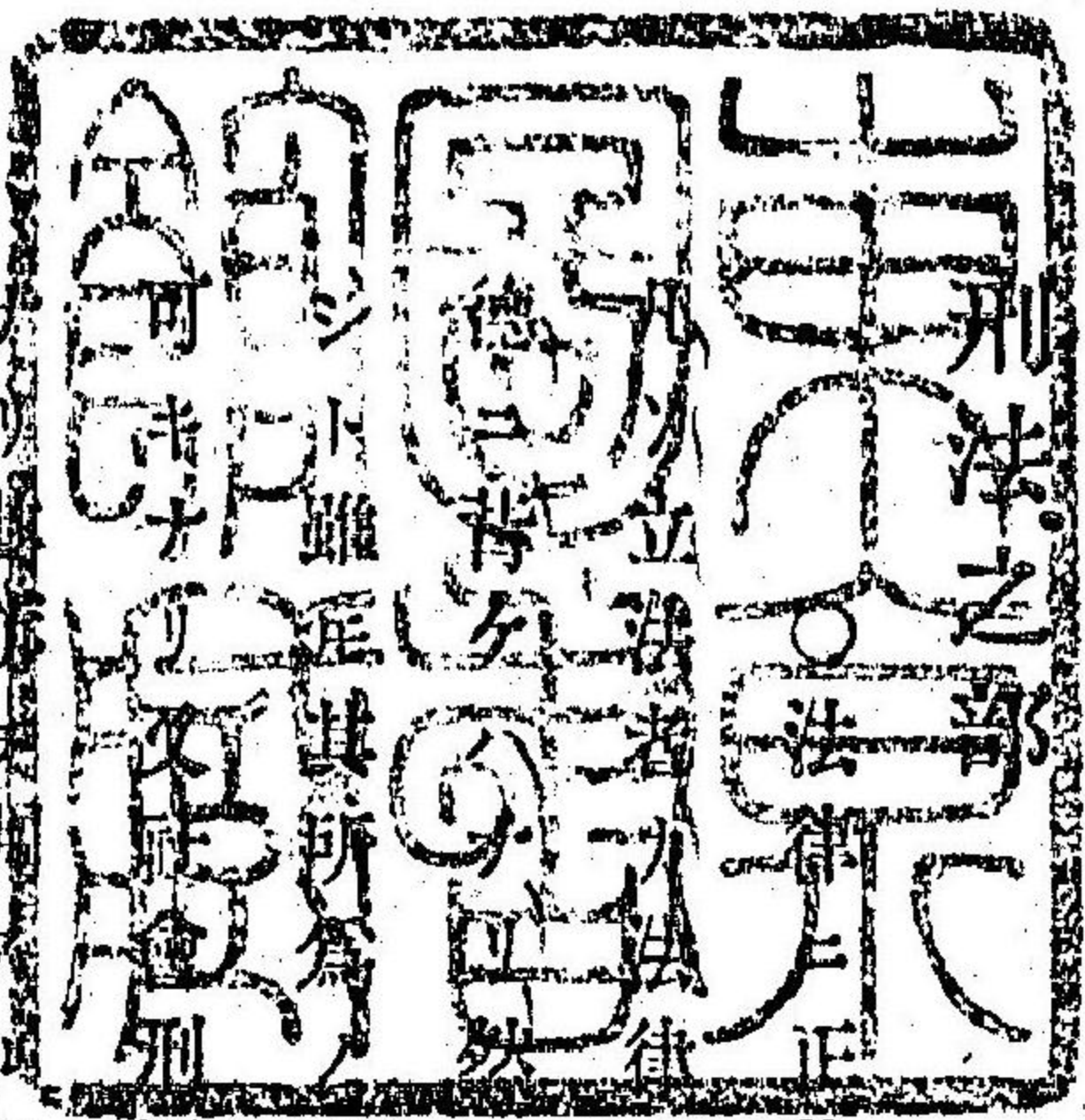
見ル能ハサルナリ故ニ孫子ニ曰ク知、彼、知、己、百、戰、不、危、  
ト法海ハ深ク法山ハ高シ之ヲ探リ之ヲ極ムルト實ニ  
容易ノ業ニ非サルナリ然ルヲ世ノ法律ヲ修ムル者自  
ラ己ノ力ヲ知ラス又法律ノ何物タルヲ量ラスシテ直  
チニ其源ヲ究メント欲スルモノ多シ是ヲ以テ其業ヲ  
遂ケ其名ヲ全スル能ハサルモノ天下比々是ナリ可憐  
亦可歎哉岡田氏夙ニ茲ニ感アリ乃チ龍門ニ攀チ台閣  
ニ登ラント欲スル者ヲシテ徒ラニ蚊足ノ勞ヲ取ラシ  
メサラン事ヲ謀リ多年刑法治罪法ノ藎ヲ拔キ要ヲ摘  
ミテ遂ニ此書ヲ編ス世ノ法學生タル者反覆翫味シ科  
目ニ應スル時ハ其便益豈鮮少ナランヤ矣

栗原政三識

文官代官 刑法治罪法要訣  
受驗必携

檢事 中村健三校閱

岡田俊太郎 著



條ヲ要スル理由

ナリ立憲者ヲ法律ヲ設ケテ犯罪者ヲ罰スルハ其所爲ノ社會ヲ害シ道  
ルニ道德ニ背クノ點ハ吾人ノ心裡ニ豫メ知り得可  
社會ヲ害スルノ點ニ至リテハ豫メ論定ヲ俟テ知ル  
罰權ヲ行フニ當リ其罪アリトシテ訴フル者ハ社會  
ナリ其議者判スル者モ社會ナリ故ニ社會ハ自ラ訴ヘ自ラ判スル者ニ  
シテ原被兩質ヲ兼有ス故ニ刑モ苛酷ニ失スルノ患アリ又甚シキニ至  
リテハ爲メニ無辜ヲ罰スルノ恐レナキニ非ラス又法律ニ正條ナキモ

刑法

裁判官ハ自由ニ之レヲ罰スルヲ得ルトスレハ吾人ノ生命自由財産ハ  
 擧テ判官ノ意中ニ在ル者トセサル可ラス然ラハ吾人ハ片時モ安堵ス  
 ルヲ能ハサル可シ又自然ノ法理ニ從テ事ヲ判スルハ成文法ヲ設ケテ  
 之ニ據ルヨリ正當ナルカ如シト雖モ人心ノ同シカラサルハ面ノ如シ  
 故ニ吾人一般ノ感覺ヨリ視レハ善ナリト雖モ天下還タ專横ノ判官ナ  
 キニモアラス爲メニ善良ノ吾人ヲ罰スルヤモ知ル可ラス故ニ正理ニ  
 據リ公道ニ基キ罪ト刑トヲ定メ之ヲ明示シテ嚴ニ其區域ヲ遵守スル  
 ニ非サレハ或ハ是ヨリ量ヲサルノ弊害ヲ生スルニ至ラン是レ其正條  
 ヲ設ケ明示セサル以上ハ罰スルヲ得サルノ所以ナリトス

○法律ノ効力既往ニ及ハサルノ理由及其例外

刑罰ヲ適施ス可キ刑法上ノ犯罪ハ道德ニ背キ併セテ社會ヲ害スルノ  
 所爲ナリ然ルニ如何ナル所爲カ社會ヲ害シ且道德ニ反スルヤ職者ト

雖モ之レカ判別ニ困ム況ンヤ通常人ニ於テチヤ故ニ立法者ハ豫メ法  
 律ヲ頒布シテ某々ノ所爲ハ犯罪トシテ刑罰ヲ施ス可キ旨ヲ定メ之ヲ  
 人民ニ知ラシメタル后ニ非ラサレハ如何ナル惡所爲ト雖モ罰スルヲ  
 得ス蓋シ法律上禁制ナキ所爲ハ如何ニ社會ヲ害シ且道德ニ反スル  
 モ人民ノ自由ニ爲シ得可キナリ唯其所爲ニ因テ害ヲ他人ニ生シタル  
 ルハ民法上ノ責任即チ損害ノ賠償ノ義務ヲ生スルノミニシテ之ニ刑  
 罰ヲ適用ス可ラス若シ然ラストセハ即チ法ノ禁セサル所人民自由ニ  
 爲シ得可キ所爲ニシテ己ニ之ヲ爲シ其后ニ制定シタル法律ヲ以テ之  
 チ罰スルヲ得ルトスルルハ人民ハ何事ヲ爲スニ當テモ常ニ安穩ノ思  
 ナク實ニ人民ノ自由安寧ヲ妨害スル僅少ニ非サルナリ故ニ法律ハ効  
 チ已往ニ及ホサスシテ之ヲ制定頒布シ人民ノ之ヲ知り得タリト見做  
 ス可キ期限後ニ係ル所爲ニ適用スヘキ者トス然レモ左ノ例外アリ

第一頒布以前ニ係ル所爲ニシテ舊法ニ因テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊法ヲ比照シ輕キニ從テ之ヲ處斷ス可シ此場合ニ於テ新法ニ定ムル處ノ刑舊法ノ刑ヨリ輕キハ新法ノ効ヲ既往ニ生シ其頒布以前ニ係ル所爲ヲ支配ス可キ者トス是レ犯人ノ既得權ヲ害セサル故ナリ

第二治罪ノ手續ヲ定メタル法律ハ効ヲ既往ニ生シ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ之ヲ適用スヘキモノトス何トナレハ治罪ノ手續ハ刑罰ノ有無輕重ヲ定ムルモノニ非サルヲ以テ之ヲ變更スルモ犯人ノ害トナルモノニ非ラス又犯人ノ既得權ヲ害シタリト云フ可ラサレハナリ

○刑ノ目的

刑ハ痛苦ナリ此痛苦ヲ犯罪者ニ科シ果シテ如何ナル必要アリヤ曰ク

願テ以テ國家ノ安寧ヲ維持スルノ必要アリ如何スレハ能ク國家ノ安寧ヲ維持シ此必要ヲ満足スルヲ得ルヤ曰ク再ヒ罪ヲ犯スモノト新ニ罪ヲ犯スモノトナ無ラシメハ能ク國家ノ安寧ヲ維持シテ此必要ヲ満足スルヲ得然ラハ則チ刑トハ必ス將來ノ犯罪者ヲ警戒スルト再犯ヲ防止スルトノ結果ナカル可ラス此結果ヲ生セシメンニハ始メヨリ其目的ナカル可ラス故ニ刑ノ目的ハ罪惡必罰ノ例ヲ示シ將來ノ犯人ヲ警戒シ犯罪者ヲ悔悟セシメテ以テ再犯ノ患ヲ遏ムルニ在リ

○刑罰ノ宜シク具有ス可キ性質

刑罰ハ寬ニ失セス酷ニ過キス能ク其度ニ適セシメ其生スヘキノ結果ヲ生シ以テ達セント欲スル所ノ目的ヲ達スルニ至テハ善良ナル性質ヲ具有スル所ノ刑ニ非スンハ能ハサルナリ仍テ其具有スヘキノ性質ヲ揭クレハ

第一刑ハ身体ニ及フヲ要ス

第二刑ハ一身ニ止ルヲ要ス

第三刑ハ平等不偏ナルヲ要ス

第四刑ハ犯者ヲ懲戒シ悔悟セシムルヲ要ス

第五刑ハ標式トナリ他人ヲ警戒スルニ足ルヘキヲ要ス

第六刑ハ分割シ得可キヲ要ス

犯罪ノ外狀ト内情トノ差異ハ實ニ無限ナルヲ以テ從テ刑モ輕

重ヲ設ケサル可ラス又有形ノ刑及罰金ノ如キ其最多額ト最少

數トノ差アルカ故ニ各々其間ニ於テ取捨斟酌シテ罰ト刑トノ

權衡ヲ得セシメサル可ラス故ニ分割シ得可キ刑ニアラサレハ

其目的ヲ達スル能ハサルナリ

第七刑ハ宜シク補償シ若クハ取消スヲ得ルノ性質ヲ有ス可シ

裁判官モ鬼神ニアラサレハ或ハ誤リナキヲ保シ難シ故ニ其錯

誤ヲ發見スレハ速ニ之ヲ取消サ、ル可ラス彼ノ死刑廢止論者

ノ論據トスルモ最モ此點ニ勢力ヲ借レリ

○有意犯無意犯ノ區別及其利益

有意犯トハ之ヲ爲スノ意思アルヲ以テ犯罪成立ノ一原素ト爲シタル

モノニシテ若シ此原素ヲ缺ク時ハ罪ヲ以テ論セサル者是レナリ

無意犯トハ之レヲ爲スノ意思ナキ場合ト雖モ其所爲法律ヲ犯シタル

モノナレハ意思ノ有無ヲ問ハス只其形跡上ヨリシテ犯罪ノ成立スル

モノヲ云フ

此有意犯ト無意犯トヲ區別スルノ利益ハ意思ノ有無ニ因テ犯罪ノ成

立スルヤ否ヲ判スルヲ得ルニ在リ

○國事犯非國事犯ノ區別及其利益

刑法

國事犯トハ國体政体ヲ變更シ政府ヲ轉覆シ政權ノ一部ヲ滅殺シ或ハ施政ノ針路ヲ改革シ或ハ國憲ヲ以テ定メタル國民ノ位置ヲ變更セんとスル等ノ目的ヲ以テ社會組織上ニ直接ニ害ヲ加フル者ヲ云ヒ非國事犯トハ社會組織ニ關係セサル犯罪ニシテ背徳加害ノ者ナリ故ニ國事犯ニハ政府ノ敵ナルカ如シ以之刑法上尋常ノ犯罪ヨリ優待ヲ受ケ特ニ高等法院ヲ開設シ之ヲ審判シ科スル所ノ刑モ亦異ナレリ今其區別スルノ利益ハ

- 第一 此二者各刑ヲ異ニスルカ故ニ從テ加減例ヲ異ニス
- 第二 裁判管轄ヲ異ニス(治罪法八十三條)
- 第三 國事犯ノ輕罪ニハ必ラス監視ヲ付スト雖モ非國事犯ノ輕罪ニハ特ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ之ヲ付セス(刑法三十八條百二十條百三十五條)

○即時犯繼續犯ノ區別及其利益

即時犯トハ罪ヲ犯スヤ其所爲直ニ終ル者(謀殺故殺ノ如キ罪)ヲ云ヒ繼續犯トハ之ニ反シ犯罪ノ所爲永ク繼續スル者(入ヲ監禁スル罪ノ如キ)ヲ云フ今之ヲ區別スルノ利益ハ即時犯ハ一回毎ニ一罪ヲ爲スヲ以テ數回ニ及フ時ハ數罪俱發ヲ以テ論シ繼續犯ハ所爲ノ繼續スル間ハ一罪ナルヲ以テ性質ニ依テノ繼續犯ハ幾許ノ永キニ及ヒ方法ニ依テノ繼續犯ハ幾許ノ多數ニ及フモ常ニ一罪ヲ以テ論ス故ニ公訴期滿免除ノ起算点ニ差アリ又確定裁判ノ場合ニ於テ繼續犯ナレハ一度裁判確定シテ第一ノ所爲罪トナラサル時ハ最終ノ所爲モ確定裁判ノ効ニ依リ罪トナラサルナリ然ルニ今其所爲ヲ即時犯トスル時ハ第一所爲ノ罪トナラサルモ第二ノ所爲ニ付公訴ヲ起スヲ得ルナリ

○軍事犯ト常事犯トノ區別及其利益



軍事犯トハ軍人軍屬ノ犯罪ニシテ所犯軍事ニ關シ陸海軍刑法ヲ以テ處斷ス可キ事件ナル事ヲ要ス今之ヲ區別スルノ利益ハ

第一 軍事犯ハ刑罰甚タ嚴ナレテ常事犯ハ否ラス

第二 軍事犯ハ軍衙ノ管轄ナリ常事犯ハ普通裁判所ノ管轄ナリトス

第三 治罪ノ手續裁判官ノ資格辨護等ニ差異アリ

○犯罪ヲ重罪輕罪違警罪ノ三種ニ區別セシ理由及其利益

此區別ハ犯罪ノ性質自然ニ出テタル者ニアラスシテ立法者カ實際上ノ便益ヨリ爲セシ區別ナリ而シテ之ヲ三種ニ區別シタルハ如何ナル理由ニ基クヤ是レ他ナシ是ヲ區別スル其數多キニ過クレハ煩雜ヲ生シ少ナキニ失スレハ實際上便益ナラス故ニ立法者ハ中庸ヲ秉リ三個ニ區別セシナリ今之レヲ區別スルノ利益ハ

第一 三罪各管轄ヲ異ニス(治罪法三十八條)

第二 三罪各付加刑ヲ異ニス(刑法三十二條)

第三 假出獄ハ重罪ノミニ用ユ(刑法五十三條)

第四 違警罪ハ十六年以上二十年以下ト雖モ法律上ノ宥恕ヲ與ヘス

(刑法八十三條)

第五 再犯ノ時三罪ヲ犯スノ前後ニ依リ加重スルト否トアリ(刑法九十一條)

第六 三罪中二罪以上俱發シタル片一ノ重ニ從フ

第七 違警罪ノ激峻者及從犯ハ之ヲ罰セス(刑法百五條)

第八 重罪ノ未遂犯ハ常ニ罰スト雖モ輕罪ノ未遂犯ハ各本條ニ記載アル時ハ之ヲ罰シ違警罪ノ未遂犯ハ常ニ罰スル事ナシ(刑法百十三條)

第九 刑ノ期滿免除ニ付年限ニ差アリ(刑法五十九條)

刑法

第十 公訴ノ期滿免除ニ付キ年限ニ差アリ(治罪法十一條)

第十一 三罪各科スル所ノ刑ヲ異ニス(刑法七條八條九條)

○罰金ト禁錮トノ比較

社會一般ヨリ見ル時ハ身体ノ自由ハ一旦之ヲ失ヘハ復償フ可ラス財產ハ再ビ得ルモ難キニ非ラス故ニ禁錮ハ重ク罰金ハ輕キカ如シト雖此二刑比較ノ如キハ到底判然セサルモノトス何トナレハ十一日ノ禁錮ヲ以テ數千圓ノ罰金ニ比スレハ孰レカ重キヤ故ニ罰金ノ刑ハ禁錮ヨリ輕シト云フヲ得ス時トシテハ罰金ハ禁錮ヨリ輕キ場合アリト雖モ立法者ハ此二刑ニ付テ輕重アル者ト思量セシ事ナキナリ罰罪俱發ノ場合ニ於テ輕罪ノ刑ハ其所犯情狀重キニ從テ處斷スト規定セシモ立法者ノ精神此二者輕重ノ判然セサルノ証ナリ

○刑罰ニ主刑附加刑アル所以

主刑トハ何ソヤ罪ト相對スル獨立ノ刑ナリ付加刑トハ字ノ如ク主刑ニ付屬スル刑ナリ或論者ハ此二刑ヲ科スルハ恰モ一罪ニ二刑ヲ科スルモノナリト決シテ然ラス何トナレハ刑ノ目的ヲ達セントスルニハ犯者ヲ懲罰シ將來ヲ警戒セサル可ラサルハ刑ノ原則ナリ然ルニ若シ主刑ノミヲ科シテ付加刑ヲ科セサルハ此目的ヲ達スルヲ能ハス例スレハ重輕罪ニ處セラレタルモノニシテ獄中公權ヲ行ヒ又財產ノ處分ヲ爲シ得ルモノトスレハ自ラ愉快ヲ取ルヲアル可シ又出獄ノ時ト雖モ之ニ直チニ公權ヲ與エテ良民ト同等ナラシムルハ大ナル危險ヲ生ス可ク且決シテ犯人ヲ懲戒スルヲ能ハサルナリ故ニ主刑ノミニテハ其刑ノ寬ナルニ付キ付加刑ヲ加シテ主刑ノ不足ナル處ヲ補フモノニシテ此二刑相須テ完全ナル一刑ヲ爲スモノナリ

○常事犯者ヲ服役セシメテ國事犯者ヲ服役セシメサルノ理由

刑法

國事犯ト常事犯トハ大ニ其性質ヲ異ニスル者ニシテ國事犯ハ直接ニ政体ニ關スル政敵ナリ人ヲ殺シ物ヲ盜ムカ如キ野蠻陋劣ノ罪トハ同視ス可ラサル所アリ社會ノ之ヲ遇スルモ敵ノ俘虜ニ對スル如キ思ヒナキ能ハス故ニ刑法ハ破廉耻甚シキ常事犯罪者ヲ耻辱セシムルニハ服役ヲ以テシ國事犯者ニハ服役ヲ付セサルナリ若シ之ニ反シ國事犯者ヲ常事犯者ト同役ニ服セシメントセンカ其處分ハ殊ニ惡ム可キ結果ヲ生スルニ至ラン即チ爲メニ公衆ノ感覺ヲ害シ其反動力ハ遂ニ被刑者ヲ愛憐スルノ念ヲ起サシムル如キ又ハ國事犯者ト常事犯者ト同等ニスレハ常事犯者ノ位置ヲ高カラシムルニ至ル如キ是レナリ

○抗拒ス可カラサル強制ニ出テタル所爲ト正當防衛ニ出テタル所爲トノ差異

抗拒ス可ラサル強制トハ人力ノ以テ支ヘ能ハサル變災ヲ想像シタル

モノニシテ或ハ遠洋ヲ航スル際破レテ沈没セントスルニ臨ミタル時或ハ烈火家ヲ燒キ遁路ヲ塞グノ際ニ處スルカ如キ或ハ白刃身ニ迫リ此ヲ避ケンカ爲メニ或ル不正ノ所業ヲ爲セシカ如キ良心ノ命令ニ從ヒ活動スルノ餘裕ナキ場合ニ於テ不得止法律ノ禁スル處ノ事ヲ行ヒタル場合ナリトス此場合ニ於テハ法律ハ其所爲ヲ責ムル能ハス何トナレハ彼レハ己ニ法律上ノ人タル可キ境界ニ在ラサルヲ以テナリ何トナレハ能力ト自由ト有セサレハナリ苟クモ能力ヲ有セサラシカ形而上ニテハ人タルノ觀アリト雖モ法律上ヨリハ之ヲ以テ人ト看做ス能ハス故ニ此レニ責任ヲ命スル能ハス苟モ自由ヲ有セサランカ能力アリト雖モ能力タルノ働キヲナス能ハス抑モ能力ノ價値アル所以ノモノハ正ト思ヘハ之ヲ爲シ不正ト思ヘハ之ヲ爲サハルノ點ニ在リ彼レ己ニ能力アラサランカ彼レハ正ト思フモ不正ト思フコトナシ

故ニ彼レハ正ヲ蹈ムノ責任ヲ負フ能ハス彼レ已ニ自由ヲ有セザラン  
カ彼レ正ト信スルモノアリト雖此レヲ行フヲ得ス又不正ト信ス  
ル處モ行ハサルヲ得ス彼レ未タ能力ナキニアラス彼レノ動作ヲ支配  
スル能ハス故ニ彼レハ此場合ニ於テハ能力ヲ有セサルト一般ナリ己  
ニ同一ノ境界ニ臨メリトスレハ彼レハ法律上責任ヲ負フ可キモノニ  
アラス之レ其抗拒ス可ラサル強制ニ出テタル所爲ヲ法律上罪トシ論  
セサル所以ナリトス

正當防衛トハ何ソヤ蓋シ人ハ自己ノ身体ヲ保全スルノ責任アリ自己  
ノ性命ヲ保護スルノ職分アリ故ニ若シ直接ニ害ヲ身体生命ニ被ラン  
トスルヤ必ラス之ヲ防衛セサル可ラス生命ヲ防衛スルハ其責任ナリ  
而シテ之レヲ防衛スル爲メ其加害者ヲ傷ケ或ハ又此レヲ害シタルト  
アリトスルモ其ノ盡ス可キ職分ヲ盡シタルモノニシテ固ヨリ斯ル所

爲ハ有形上罪ニ類スル形跡ヲ生スルモ決シテ法律ハ罪トシテ此レヲ  
俟ツヲ得ヘキモノニ非サルナリ之レ正當防衛ノ本質ナリ

以上ノ如ク分界シ來ルルハ得テ知ル可キナリ一ハ法律上責任ヲ負フ  
可ラサル地位ニ立チシカ故ニ其罪ナク他ハ法律上責任ヲ付スヘキ性  
質ノモノニ非ラス一ハ自己ノ自由ヲ失ヒ此レ得ンカ爲メ行ヒタルヲ  
以テ其罪ヲ論セス他ハ其權利ヲ正當ニ行使シタルモノナルカ故固ヨ  
リ罪トナラス已ニ其性質ニ於テ此ノ如キ差異アリ故ニ民事損害賠償  
ノ點ニ於テモ差違ナキ能ハサルナリ

× ○ 犯人自ラ扣訴シテ敗訴シタルニ上告シテ減刑ヲ得タル場合

ニ於テノ刑期起算點

犯人自ラ敗訴ヲ不當トシテ上告シ勝ヲ得タル場合ニ於テハ前判宣告  
ノ日ヨリ起算スルモノトス

犯人上訴ニ係ルルハ其結果ノ正否ニヨリ刑期起算ノ點ヲ異ニセリ是レ上訴正當ナルルハ其曲ハ前裁判ニ在リ法律ノ許シタル上訴ノ權ヲ行ヒ前裁判ノ曲ヲ訴ヘタルカ爲ニ刑期起算ノ點ヲ后ニ延ハス可ラサレハナリ然レモ上訴ノ不當ナルルハ其曲ハ犯人ニ在レハ後判宣告ノ日ヨリ起算セラル、モ自業自得ニシテ即チ己レカ過チナレハナリ

× ○附加刑刑期ノ起算點ヲ明示スヘシ

附加刑ハ名ノ如ク主刑ニ付屬スルモノナレハ主ニ從テ其刑期起算ノ點ヲ定ムヘキモノナリ故ニ禁治産、剝奪公權、停止公權ハ主刑ノ起算ト同一ニ起算スヘシ監視ハ第四十條ニ規定セルカ如ク主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス又主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタルルモ常ニ其裁判確定ノ日ヨリ起算シテ第五十一條ノ例ニ據ルナシ罰金ハ第二十七條ニ沒收ハ第五十一條ニ據ルヘキモノトス

○罪ノ消滅ト刑ノ消滅トノ差異

罪ノ消滅シタルルハ刑モ共ニ消滅スル者ナレモ刑ノ消滅スルモ罪ノ消滅スル者ニ非ス故ニ二者差異ナキヲ得ス今其差異ヲ掲グレハ一罪ノ消滅シタルルハ后チ再ヒ罪ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論スル事ヲ得ス即チ大赦ハ罪ヲ消滅セシムルモノニシテ刑ヲ消滅セシムルモノニ非ラサレハ再ヒ罪ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論セサルナリ  
二罪ノ消滅ハ其罪ノ一部ヲ消滅セシムルコトナシト雖モ刑ノ消滅ハ其刑ノ一部分ヲ消滅スルコトアリ即特赦ノ場合ニ於テ主刑ノミチ消滅セシメ公權剝奪ノ附加刑ヲ消滅セシメサルコトアルノ類ナリ

○竊盜犯構成ノ原素

第一 竊取スルコト

他人ノ物品ヲ取ルヲ云フ而シテ單ニ取ルノ所爲ヲ云フニ非ス

刑法

シテ他人ノ承諾ヲ得サルカ又ハ覺知セサルニ乘シテ之ヲ取ル  
ノ謂ナリ

第二 惡意ナルコト

即チ故意ニ竊取スト云フ義ナリ其意思ノ原因自己ノ利益ノ爲  
メナルト他人ノ利益ノ爲メナルトヲ問ハス故意ニ竊取スルヲ  
云フ

第三 他人ノ所有物ニ係ルコト

竊取ノ物品他人ノ保管内ニ在ルヲ要ス

●未遂犯ト已遂犯トノ分界

犯罪ハ其起念ノ始メヨリ實行ニ至ルマテ其經過スル所ニ長短ノ差ア  
リト雖モ其間各種々ノ所爲アリテ而後初メテ其結果即チ罪ヲ構造ス  
ルニ至ル者トス今其所爲ヲ分ツト左ノ如シ

第一 豫謀

先ツ初メニ罪ヲ犯スノ思想ヲ起シ進テ希望トナリ又進ンテ定  
案トナリ更ニ進ンテ決心トナル者ニシテ專ラ智力ノ働キヲ云  
フ

第二 豫備

豫謀ノ后ニ起ル所爲ニシテ例エハ犯罪ヲ爲ス場所ヲ撰ミ又ハ  
殺サント欲スル人ヲ求メ或ハ犯用ノ器具ノ如ク專ラ体力ニ係  
ル働キヲ云フ

第三 着手

豫備ニ繼テ起ル所ノ体力ノ働キニシテ此所爲ニ依テ其目的タ  
ル結果ヲ生スル者トス故ニ未遂已遂ヲ分界スル標準ハ着手ニ  
在ルナリ即チ着手中止ハ未遂犯トシ着手ヲ終リタル片ハ已遂

刑法

犯ナリトス

○盜罪ト受寄財物費消罪トノ差異

盜罪ハ其盜取シタル他人ノ物件金額他人ノ保管内ニ在ル者ナリト雖  
 モ受寄財物費消罪ハ他人ノ金額カ己レノ保管内ニ在ル者ナリ  
 盜罪ハ他人ノ物件金額ヲ自己又ハ他人ノ有ト爲サントスル者ナリト  
 雖モ受寄財物費消罪ハ之ヲ所有セントスルニ非スシテ却テ之ヲ費消  
 スル者ナリ即チ盜罪ハ奪取ノ所爲カ罪ト爲ル者ナリト雖モ受寄財物  
 費消罪ハ費消ノ結果カ罪トナルモノナリ  
 盜罪ハ其性質吾人ノ財産ヲ侵害スル者ナリト雖モ受寄財物費消罪ハ  
 委托者ノ信任ニ背ク者ナリ

○正犯者刑罰ノ責任ナキ時ハ從犯者ノ責任ハ如何  
 凡ソ從犯ナルモノハ其人ニ從タルニ非ラスシテ其所爲ニ從タルモノ

ナリ故ニ正犯者其人ニシテ責任ナキモ其所爲ノ罪トナル可キ事柄ナ  
 レハ則チ從犯タルノ制裁ヲ免ル、ヲ得ス蓋シ瘋癲人幼者等ノ如キ者  
 ト雖モ法律ニ禁止シタル事ヲ爲スハ罪ト爲ル可キ所爲ニ相違ナキモ  
 是非ノ識別心ナキ故ヲ以テ其制裁ヲ免ル而已然ラハ則チ瘋癲人幼者  
 カ法律ニ於テ罰ス可キ事柄ヲ爲スヲ知リテ器具ヲ給與シ又ハ誘導  
 指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ其事ヲ爲スヲ容易ナラシメタル者ハ正  
 犯者ノ受ク可キ相當ノ刑罰ノ責任ヲ負フ可キモノトス

○脅迫罪ト強盜未遂罪トノ區別

脅迫罪ト強盜未遂罪トハ寔トニ相似タルモノナレモ一定ノ標準トス  
 可キ區別ナキニ非ラス則チ犯人ノ目的是ナリ犯人財物ヲ奪掠スルノ  
 方法トシテ脅迫ヲ加ヘタル者ハ強盜未遂ニシテ單ニ恐喝畏懼セシム  
 ル目的ヲ以テ脅迫シタル者ハ脅迫罪ナリトス

○教唆者ヲシテ正犯ト同一ノ責ヲ負ハシムルニハ如何ナル條

件ヲ要スルヤ

第一 正犯者ニ犯罪ヲ爲スヘキ決心ヲ與フルニ足ルヘキ教唆ヲ爲シタル事

第二 其教唆ニ因リ正犯者カ犯意ヲ決定シタルヲ

第三 正犯者カ犯シタル罪ハ教唆者ノ指定シタル範圍内ナルヲ

第四 重罪輕罪ヲ教唆シテ犯サシメタルヲ

第五 正犯者ノ身分ニ因リ刑ヲ加重減輕セサルルル

以上列擧スル條件ヲ具備スルヲ要ス

○特別ノ不論罪トハ如何理由ヲ付シ説明ス可シ

夫レ智能ト自由トハ犯罪ヲ構造スルニ必用ノ條件ニシテ若シ此二能力ヲ兼有セサルルルハ法律ニ觸ルル所爲ヲ作スモ犯罪トシテ罰スルヲ

得ス是レ一般不論罪ノ由テ來ル所ナリ夫ノ所謂特別ノ不論罪トハ智能自由ノ二要件ヲ具備シ已ニ犯罪成立スルモ他ニ理由ノアル有テ之ヲ全免スル者ニシテ即チ第三百十四條ト三百十五條ノ如キ是ナリ何トナレハ正當防衛ノ場合ニシテ已レノ權利ヲ行フタル者又義務ヲ行フヨリ出レハナリ故ニ之ヲ無罪トス此身体ヲ防衛スルハ天賦固有ノ權ニシテ立法者ノ之ヲ與ヘタルモノニ非ルナリ

○未遂犯ト不能犯トノ區別及其性質

未遂犯ハ犯罪着手以上ニ係ル所爲ニ屬シ已ニ犯罪ニ着手シ之ヲ行ト

雖モ其目的ヲ遂ケサル場合ヲ云フ未遂犯ニ三種ノ場合アリ

第一 犯罪ニ着手セシモ犯人ノ好意ニ因リ之ヲ中止シタル時

第二 罪ヲ犯スト雖モ犯人意外ノ障礙ニ因リ其罪ヲ遂ケサル時

第三 罪ヲ犯スト雖モ犯人意外ノ舛錯ニ因リ其罪ヲ遂ケサリシ時

刑法



右第一ノ場合ハ犯人悔悟シタルカ若クハ恐怖ノ爲メ中止シタル者ナレハ刑罰ヲ適施ス可キ事跡ヲ存セス故ニ犯人ハ全ク罪ヲ免ル、ヲ得ルモノトス

第二ノ場合ハ犯人ノ爲ニ防止セラル、カ如ク其意ニ非スシテ其罪ヲ遂ル能ハサル者ナリ此等ハ有形ノ所爲ヲ行ヒ遂クルト否トハ間髪ヲ容レザル危険ノ位地ニ進ミタリ故ニ其罪ヲ遂ケサルハ實ニ幸ナリ因テ犯人ハ既ニ刑法上ノ罪ハ免ル、事ヲ得サルナリ

第三ノ場合ハ犯人其目的ヲ貫徹シ其所爲ヲ終了シタリト雖モ一モ其効ヲ生セサル時ニシテ之ヲ無効犯ト云(無効犯ハ道理或ハ方法ニ由テ罪トナルト爲ラサルトアリ)

不能犯ト未遂犯トハ其性質ヲ異ニス犯人自ラ中止シタルニ非ス意外ノ舛錯碍礙ニ因テ罪ヲ遂ケサルニ非ス犯罪ノ目的物若クハ犯罪ノ方

法ニ因リ法律ノ豫防シタル害ヲ生スル事能ハサル性質ノ存スル場合ナリ

要スルニ未遂犯ハ犯人意外ノ舛錯若クハ障礙ニ因リ罪ヲ遂ケサル者ナリ若シ犯罪ノ目的物若クハ罪ヲ犯スノ方法ノ罪ヲ犯シ能ハサル性質ヲ有スルハ即チ不能犯ナリトス不能犯ハ犯人ニ充分ノ惡意アリ道德上ノ責任ヲ構成スル者ナレハ法律ノ干涉スヘキ所ニ非ス而シテ其有形ノ所爲ニ至テモ亦他人ニ害ヲ生スル能ハサルヲ以テ法律ノ干涉ス可キ區域ヲ脱去シタル者ニシテ之ヲ犯罪ト爲ス可ラサル者タリ

○正從犯ノ區別及其間ニ如何ナル差異アリヤ  
一人又ハ數人ニテ現ニ罪ヲ犯シタル者之ヲ正犯ト云ヒ一人又ハ數人其犯罪ニ間接ニ干與シ正犯ヲ補助シタル者之ヲ從犯ト云フ之ニ因テ觀之正犯ノ所爲ハ刑罰ヲ以テ待ツ處ノ夫ノ所謂犯罪着手以上ノ所爲

ヲ爲シタル者ニシテ從犯ハ犯罪豫備ノ所爲ヲ爲シタル者ナルヲ知ル可シ故ニ正犯從犯ヲ識別センニハ先ツ其加擔シタル所ノ所爲如何ヲ彈究セサル可ラス而シテ其差異ハ左ノ如シ

第一 正犯ト從犯トハ其科セラル、處ノ刑ニ輕重ノ差異アリ抑モ正犯從犯ニ於テ其刑ニ輕重アル所以ノモノハ其所爲ノ道德ニ反キ社會ヲ害スル二者ノ間自ラ大小ノ差異アリ故ニ隨テ其罪ノ輕重モ亦異ナラサルヲ得サレハナリ

第二 正犯ハ重罪輕罪違警罪ノ三罪共ニ之アリト雖モ從犯ハ重罪輕罪ノ二罪ニノミアル者トス今違警罪ニ從犯ナキ所以ヲ掲レハ違警罪ハ尤モ輕微ナル犯罪ナルヲ以テ從テ從犯タルノ所爲ハ一層輕微ナルヲ以テ刑法ニ於テハ之ヲ問ハサルナリ

第三 正犯ノ多數ナルニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ情狀トナシタル時

從犯ヲ算入シテ多數トナスヲ得ス

○罰金ノ効力

罰金ノ刑ハ充分ニ刑ノ目的ヲ達スル能ハサル者ナリ先第一ニ罰金ハ財産上ヨリシテ一時犯人ヲ痛苦セシムルニ過サルノ刑タルヲ以テ懲治ノ目的ヲ満足スルヲ能ハス故ニ罰金ハ犯人ノ心ノ矯正ヲ要セサル犯罪ニ該テ効アル可クシテ之ヲ其良心ノ敗壞ヲ見ハス所ノ犯罪ノ種類ニ適用ス可ラサルヤ明ナリ又第二ニ罰金ハ刑ノ責罰ノ目的ヲ満足スル能ハス勿論或ル犯罪ニ關シテハ大ニ其効ヲ現スヲナキニ非ラズ例エハ犯人ハ法律ノ罪人トナルモ寧ロ其罰ス可キ所業ヨリ利益ヲ得ント欲シ若干日ノ禁錮ヨリ若干圓ノ罰金ヲ恐ル、場合ノ如キ此類ノ犯罪ニ對シテハ其責罰ノ効果却テ禁錮ニ優レルニ由ル

○刑ノ期滿免除ハ如何ナル理由ニ基クヤ

刑法

オルトラン曰ク立法者ノ公訴及刑ノ期滿免除ヲ設クル所以ハ遠ク社會刑罰權ヨリ出ツ凡ソ事ヲ變化シ物ヲ消滅スル源ハ時日ナリ時日ノ經過久シキニ涉レハ人ノ記念力ヲ消滅ス故ニ犯罪事件ノ記念ヲモ消滅セサルヲ得ス若シ夫レ犯罪事件ノ記念已ニ消滅スルハ更ニ公訴ヲ起シ刑ヲ執行スルノ必要何レニ在ルヤ已ニ其要ナシトス是レ社會ニ刑罰權ナキナリ抑モ社會ノ刑ヲ施スヤ所業ノ道德ニ背キ社會ヲ害スルヲ以テナリ今此ニ社會ヲ害スルノ所業アリシト雖時日久キニ涉リ人ノ記念已ニ消滅シ刑ヲ加フルノ必要ナシ是レ刑罰權ヲ構成スル第二ノ元素ヲ缺ク者ナリ此時ニ當リテ何スレソ更ニ公訴ヲ繼起シ又ハ刑ヲ執行スルヲ得ンヤ是其刑事期滿免除ノ因テ起ル所以ナリト吁盡セリト云フヘシ探テ以テ理由トス可シ

○再犯加重ハ一事再理セストノ格言ニ抵觸セサルヤ

再犯加重ノ法ハ先キノ所爲ヲ后ノ所爲ニ加ヘテ罰スルニ非スシテ先キノ行狀ヲ斟酌シ犯人ノ執拗ヲ治センカ爲メ後ノ所爲ニ適用スヘキ刑ヲ加重シタル者ナリ之ヲ換言スレハ犯罪ハ后ノ犯罪ニ適用スヘキ刑ヲ加重スル情狀ノ理由トナルニ外ナラス故ニ再犯加重ハ一事再理セストノ格言ニ抵觸スル者ニ非ラサルナリ

十〇刑法七十五條一項ト七十七條一項トノ區別

兩條共ニ意ニ非サル所爲意ナキノ所爲ト云テ殆ンド同種ノ語ヲ用イタリト雖モ此義理ニ至テハ大ニ同シカラス宜ク其區別ス可キ標準ヲ分ツ可キナリ

第七十五條ノ其意ニ非サルノ所爲トハ其本心ニ非サルノ所爲ト云フノ義ニシテ學問上ノ語ヲ以テ譯スレハ爲スト爲サ、ルノ自由ナキヨリ出テタル所爲ト云フ義ナリ即チ自由ノ失却ニ因リ犯意ナキ者ナリ

第七十七條ノ罪ヲ犯スノ意ナキノ所爲トハ人ヲ殺スニ關シテ全ク之ヲ斬ルノ意ナク家ヲ燒ニ關シテ全ク火ヲ放ツノ意ナク徹尾徹頭其意ナキヲ云フナリ即チ事實ノ不知ニ因テ犯意ナキモノナリ

○正當防衛權ノ起因及要件

正當防衛權ハ神聖ノ法ニシテ不文法ナリ即チ人ト其生時ヲ共ニシ制法ニ先ツモノニシテ天賦固有ノ權利ナリ而其要件ハ左ノ如シ

- 第一 暴行ヲ受ケ避ク能ハサル
- 第二 腕力ヲ用イサレハ防衛スル能ハサル
- 第三 加エラル、暴行ト加フル暴行ト同時ナル
- 第四 不正ノ所爲ニ因リ招キタル暴行ニ非ル

○自首減刑ヲ與フル場合及其理由

我刑法ノ自首減刑ヲ設ケタルノ理由ハ社會ノ公益上ヨリシテ止ム可

ラサル理アリテ存スレハナリ今其自首スルニ付テノ利益ヲ掲クレハ

- 第一 犯罪ヲ容易ニ知り得可キ
  - 第二 犯罪ヲ探索スルノ勞ヲ省ク
  - 第三 有罪ヲ罰セサルノ患ナキ
  - 第四 不辜ヲ罰スルノ恐レナキ
- 又其自首シテ減等ヲ得ル場合ハ
- 第一 未タ發覺セサル
  - 第二 官ニ自首スル

○普通犯ト特別犯ノ區別

普通犯トハ刑法ニ定メタル所ノ罪ヲ云ヒ特別犯トハ新聞出版條例印紙貼用規則等ノ如キ特別ノ法律規則ヲ以テ定メタル罪ヲ云フ  
通常開明國ニ於テ普通犯トシテ罰スル所ノ罪ハ稍刑ニ寬嚴ノ差アリ

ト雖モ其罪ト爲ス所爲ハ大畧相同シ特別犯ニ至テハ各邦其人情風俗ノ異ナルニ因リ刑ニ寬嚴ノ差異アルノミナラス之ヲ罰スルモ亦全ク之ヲ罰セサルノ蓋異アリトス

特別規則ニ總則ナキハ刑法ノ總則ニ從フ者トス若シ兩法ノ總則相抵觸セルハ頒布ノ前後ニ因リ后ニ頒布セシモノニ從フ可キ者トス

○共犯ノ場合ニ於テ加重減輕ノ影響ヲ他ノ共犯者ニ及ホス

ト及ホサルハ片アリ詳細ニ示スヘシ

刑ヲ加重スルノ原因種々アリテ其異ナルニ從ヒ他ノ共犯者ニ及フヤ否ヤノ點モ亦異ナリト雖モ之レヲ概別シテ左ノニケトス

第一 犯者ノ有罪ノ度ヨリ來ル

第二 事實ノ度ヨリ來ル

第一ノ場合ハ其加減ノ原因犯者ノ有罪ノ度ニ在ルヲ以テ其犯者而已

ニ限り他ノ共犯者ニ及ホス能ハズ故ニ再犯或ハ強姦ノ故ヲ以テ加重スルニ當リ他ノ初犯或ハ不強姦者ヲ加重スル能ハズ又幼者或ハ宥恕自首等ノ故ヲ以テ減輕スルニ當リ丁年者及ヒ自首セサルモノヲ減輕スル能ハサルナリ

第二ノ場合ハ其加減原因事實ノ有罪ノ度ニ在ルヲ以テ犯者ノ如何ニ拘ハラス一般ニ加減シ他ノ共犯者ニモ及ホス可キモノナリ

○再犯加重ノ理由

夫レ立法者ノ罪トシテ罰スルヤ道德ニ背キ併セテ社會ヲ害スルノ所爲ヲ以テス然ラハ其道德ニ背キ社會ヲ害スルノ大小ニ因テ刑ニ輕重アルヤ言テ俟タサルナリ今再犯者ヲ以テ初犯者ニ比スレハ再犯ハ其惡意大ニシテ道德ニ背ク甚シク又社會公衆ノ之ニ畏懼スルヲ甚シクシテ社會ヲ害スル事大ナリトス故ニ其罪初犯ヨリ重ク隨テ其刑

ナ同等ナラシムル能ハサルヤ明ナリ之レ再犯加重ノ起ル所以ナリ而シテ之ヲ適用スルニハ左ノ條件アルヲ要ス

第一 前後二罪ナルヲ

第二 前後二罪同一ナルカ又ハ前罪ハ后罪ヨリ重キヲ

第三 前罪ノ確定裁判ヲ經タルヲ

○數罪俱發ノ場合ニ於テ新舊法ニ付キ刑ノ輕重ヲ比照スル方法

數罪ノ舊法施行ノ際判決ヲ經スシテ新法ニ際會セシキハ其數罪ノ刑ヲ舊法ニ從テ重キニ處シ而シテ又其數罪ノ刑ヲ新法ニ從テ重キニ處シ於是舊法ノ刑ト新法ノ刑ト比照シテ輕キニ從テ處斷セハ犯人ノ已得權ニ害ヲ及ホサハルナリ

○刑ノ期滿免除ノ起算點

刑ノ期滿免除ハ刑ヲ執行スルノ權利ヲ消滅セシムルモノナルヲ以テ刑ヲ執行シ得可キ日ヨリ其期限ヲ起算スルヲ原則トス刑ヲ執行シ得可キ日トハ即チ通常上訴期限ヲ經過シ裁判官渡ノ確定シタル日ヨリ刑ヲ執行シ得可キカ故ニ刑ノ期滿免除ハ裁判確定ノ日ヨリ其期限ヲ起算スルモノナリト謂フ得可シ然レモ裁判確定ズルモ直チニ刑ヲ執行スルヲ得サル場合アリ即チ死刑ハ裁判確定スルモ司法大臣ノ命令アルニ非サレハ之ヲ執行スルヲ得ス而シテ刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シテハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ起算ス罰金科料ニ關シテハ裁判確定ノ日徴収スルモノトス然レモ主刑罰金ト附加罰金ノ期滿免除ノ期限ニ大ナル差異ヲ生ス即チ主刑罰金ハ七年ヲ以テ期滿免除ヲ得ルト雖モ附加刑ノ罰金ニ於テハ主刑ト共ニ期滿免除スルニ依リ屢々中斷セラレテ其期限大ニ長キニ至ルヲアリ

○一般ノ不論罪及其理由

一般ノ不論罪トハ特別不論罪ニ對スル稱ニシテ特別不論罪ハ或特別ノ事情アル場合ニ限り之ヲ適用スルモ一般不論罪ハ廣ク一般ノ場合ニ適用スル者ナルカ故ニ此一般ノ名稱ヲ冒ス者トス今茲ニ刑法ニ規定セル一般不論罪ノ場合ヲ掲クレハ

第一 抗拒ス可ラサル強制ニヨリ其意ニ非ルノ所爲

第二 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲タル所爲

第三 辨知力ナクシテ爲シタル所爲

第四 罪ヲ犯スノ意ナキノ所爲

第五 罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ爲シタル所爲

第一ハ刑法第七十五條ニ規定スル處ノ者ニシテ其強制ニハ有形ノ者ト無形ノ者トアリ有形ヨリ來リタル時被強制者ハ其所爲ノ惡事ナル

事ヲ了知スルモ之ヲ拒ムノ力ナク止テ得スシテ其事ヲ爲シタル者ニシテ全ク自由ヲ缺キ恰モ一ノ機械ニ供セラレタルニ過キサレハ素ヨリ刑罰ヲ以テ抑制スル能ハサル所ノ者トス而シテ無形ヨリ來ル強制トハ火災洪水等ノ爲メ他人ヲ殺傷スルニ非サレハ自己ノ生命ヲ犧牲ニ供セサルヲ得サルカ如キ危急存亡ノ場合ニ於テ其難ヲ免ル、爲メ止テ得ス他人ヲ殺傷シタル時ノ如キ是ナリ亦其身自由力ヲ欠クカ故ニ其責ヲ負フナシ

第二モ亦自由力ナキニ職由スル者トス蓋シ長官ノ命令ヲ遵奉セサレハ自己ニ禍害アランヲ慮リタルニ因ルモノナレハナリ

第三ハ刑法第七十八條以下ニ記載スル所ニシテ知覺精神ヲ喪失シタルモノ或ハ幼者瘖瘂者等是ナリ是等ハ皆辨智力ナキニ因リ刑罰ノ責ヲ負フナシ

第四八第七十七條ノ場合ニシテ意思ハ過失殺傷罪違警罪ノ如キ或場合ヲ除クノ外犯罪構造ノ元素ナルヲ以テ意思ナケレハ其罪成立セサルナリ

第五ハ幼者ヲ丁年者ト確信シ之ヲ姦淫シタル如キ是レ亦犯罪ヲ構造スルニ必要ナル原素タルハ意思ヲ缺クヲ以テ前項ト同一ノ理由ニ依リ不論罪ナリトス

復権ノ性質之ヲ與フ可キ場合及其効果

復権トハ一旦剝奪セラレタル公權ヲ回復スルモノヲ云フ而シテ剝奪公權ハ素ト重罪ノ附加刑ナルヲ以テ復権ハ重罪ノ犯人ニ適用ス可シ凡ソ剝奪公權ハ終身ノ附加刑ナレハ若シ復権ノ制ナクンハ犯人ハ愼悔反正ノ實アルモ終身公權ヲ行フヲ得ス却テ犯人ヲシテ反正ノ念ヲ絶タシムノ弊アリ然ルモ懲戒ヲ旨トシタル刑ノ主意ニ反スルナ

リ是レ復権ノ法律ヲ設ケタル所以ナリ故ニ復権ハ行政上ノ處分ニシテ救裁アルニ非サレハ之ヲ得可ラス而シテ復権ヲ與フ可キ場合四個アリ

第一 主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過シタル事

第二 監視ニ附シタル日ヨリ五年ヲ經過シタル事

第三 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル片

第四 特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者赦狀中特ニ記載シアル片

第一第二ノ場合ハ共ニ三個ノ條件ヲ包含ス即チ第一主刑ノ終リタルヲ若クハ期滿免除ヲ得タルヲ第二五年ヲ經過シタルヲ第三復権ヲ與フ可キ情狀アルヲ是ナリ

右三條件ヲ具備スル片ハ將來ノ公權ヲ復スルヲ得故ニ已往ニ溯リテ公權ヲ復スルヲニ非スシテ將來ニ向テ嘗テ處刑ニ因テ失ヒタル權



118  
42  
75  
38

ヲ復スルナリ

○文書偽造罪構成ノ原素及其理由

偽造罪ナルモノハ社會ノ信用ニ背戾シ以テ詐偽ヲ行フ者ナリ今文書偽造罪ノ原素ヲ列擧スレハ

第一 文書ヲ以テ現ニ事實ヲ偽ル

第二 害ヲ醸生スルノ意アル

第三 損害ヲ生シ又生シ能フ

第四 行使スル

第一ハ若シ其事實ニ違ハサルコトヲ書スルハ偽造ニ非ス故ニ他人ノ義務ヲ負フコトナキニ義務アル証書ヲ作為スル如キハ事實ヲ偽ル者ナルヲ以テ偽造罪成立スル者ナリ

第二偽造罪ハ有意ナルヲ以テ意思アルコトハ最モ緊要ナリ故ニ縱令文

書ヲ偽造シ事實ヲ偽リ損害ヲ生スルコトアルモ其意人ヲ害スルニ非スシテ全ク其人ノ利益ヲ圖ラン爲メ偽造シタル如キハ偽造罪ニ非ルナリ

第三ハ唯損害アリシ時ノミナラス損害ヲ生シ能フ片ハ偽造罪ナリトス

第四ハ我刑法ニ於テ官文書タルト私文書タルトナ別タス証書ヲ偽造シタル而已ニテハ未タ犯罪トナラサルモ之ヲ使用シテ始テ偽造罪成立スル者ナリ之ヲ行使セサレハ損害ヲ生セス故ニ証書ヲ偽造シ筐中ニ藏置スルモ罪トナラザルコトナリ

然レモ我國ノ刑法ハ獨リ詔書ハ縱令行使セサルモ偽造ノミヲ以テ犯罪成立ストセリ然レモ唯例外トモ稱スヘキモノニシテ此ヲ除クノ外ハ皆以上ノ要件ヲ必要トスル者ナリ

○誣告罪ヲ構成スル原素及誣告ノ誹毀偽証ト異ナル事

誣告トハ人ヲ罪ニ陥ル、ノ目的ヲ以テ不實ノ事ヲ告訴告發スルヲ云フモノニシテ此罪ヲ構成スルニハ左ノ三元素ヲ要ス

第一 人ヲ罪ニ陥ル、ノ惡意アル

第二 告訴又ハ告發ヲ爲シタル

第三 其告訴告發ノ事實ニ違フ

第一ハ人ヲ害スルノ惡意アルニ非レハ其罪成立セス是レ此罪ノ性質ニシテ善意ヲ以テ爲ス、ハ到底爲シ能ハサル處ナリ

第二ハ治罪法第九十三條以下ニ於テ其之ヲ受理スヘキ官吏ヲ規定シアルニ因リ此規則ニ循ヒ爲シタルニ非レハ此罪ヲ構成スルニ足ラス

第三ハ不事實ニ非スシテ眞實ノ事ナル時ハ罪トサラス而亦其事不實ナレハ必ス罪トナルニ非ス其不實ノ、ノ刑法若クハ他ノ法律規則ニ依リ制裁ヲ加フ可キ事ナラサル可ラス

○誹毀ト誣告トノ差異

第一 誹毀ハ被害者ノ身分ニ因リ其名稱ヲ異ニス即チ皇室ニ對シテハ不敬トナリ官吏ニ對シテハ侮辱トナリ人民ニ對シテ誹毀トナルモ誣告ハ其名稱一定不變ニシテ人ノ身分ニ依リ異ナル者ニ非ス

第二 誹毀ハ被害者又ハ死者ノ親族ノ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論スルモ誣告ハ否ラス

第三 誹毀罪ノ公訴權ハ被害者ノ棄權又ハ私和ニ依リ消滅セシムルヲ得ルト雖モ誣告ノ公訴權ハ被害者ノ自由ニ消滅セシムルヲ得ル者ニ非ラス

第四 誣告ハ告訴告發ヲ以テスルニ非レハ其罪成立セスト雖モ誹毀ハ公然ノ演說書類圖書ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作為シ誹毀スルニ非レハ其罪成立セズ

第五 誣告ハ事實ノ有無ヲ問フカ故ニ不實ノ事ヲ以テ告訴告發スルハ此罪ヲ構成スルニ付キ必須ノ要件ナリト雖モ誹毀ニ至テハ事實ノ有無ニ拘ハラズ其罪成立スル者ナリ

○誣告ト偽証トノ差違

第一 偽証ハ証人タルノ宣誓ヲ爲シタル後問ヲ受ケテ不實ノ事ヲ述ルモノナリト雖モ誣告ハ是等ノ事ヲ爲サス自ラ進ンテ不實ノ事ヲ告グルニ在リ

第二 偽証ハ事件ノ未タ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ其刑ヲ免ス誣告ハ一旦惡意ニメ告訴告發シタル上ハ裁判ノ

ノ宣告ニ至ラザル前ニ於テ自首スルモ尙ホ本刑ヲ免ル、ヲ得ス

第三 偽証罪ハ曲庇又ハ陷害ヲ以テ目的トスレモ誣告罪ハ陷害ノ一ヲ以テ目的ト爲ス者ナリ

○遺失物贓匿罪ノ元素

遺失物トハ自ラ其遺失スル事ヲ覺ラス及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨ンテ物主其場ニ就テ其主タル事ヲ証明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スル事ヲ得スト故ニ若シ其拾得物ヲ物主ニモ返還セス官ニモ届ケス隱匿スル時ハ有形無形ヲ問ハス之ヲ遺失物贓匿罪トス其元素ハ左ノ四個トス

第一 遺失物タル事

第二 他人ノ所有物タル事

第三 拾ヒ得タル事

第四 隠匿シタル事

○窃盗ト遺失物贓匿罪トノ區別

本來遺失物贓匿罪ニ關スル罪ハ盜罪ト異ナルノ間髪ヲ容レス例エハ路上ニ在ル物ヲ取り來ル時若シ其物ハ人ノ遺失シタル者ニ係ラサルハ其所爲直チニ竊盜トナルヲ看テモ其然ルヲ知ル可シ

第一 遺失物ニ關スル罪ハ拾フ時ハ取ルノ意ナク拾得テ后隠匿シ始メテ此罪ヲ生ス竊盜ハ之ニ反シテ最初ヨリ盜ムノ意ヲ有シテ以テ已レヲ利スルノ心アルナリ

第二 遺失物ニ關スル罪ハ拾ヒ得テ而シテ後惡意ヲ生スル者ニシテ其情狀輕ケレハ竊盜ハ自ラ進テ他人ノ物ヲ取り以テ已レヲ利スルノ惡意アリテ其情狀重シ是レニ罪ヲ分別シタル第二ナリ

第三 其所持權即チ占有權内ニ在ルハ必ス看守スルノ任アル者ナルニ之ヲ持來レハ竊盜ナリ所持權内ニ在ラサル時持來テ隠匿スレハ遺失物贓匿罪ナリ

○誤殺ト過失殺トノ差異

刑法第二百九十八條ノ誤殺トハ犯罪ノ目的タル事實ヲ錯誤シタル者ナリト雖モ過失殺ハ事實ノ錯誤ニ非スシテ所爲ノ結果ヲ知ラサルモノナリ假令ハ誤殺トハ甲ナリト思量シテ銃殺セシニ其銃殺セシハ乙ナリシ如キ其甲乙ノ事實ヲ錯誤シタルナリ過失殺ハ之ニ反シテ例エハ暗夜ニ發銃セシニ圖ヲサリキ其銃丸人ヲ貫キ死ニ致シタルカ如キ其發銃スルノ所爲ナリト雖モ人ニ當ルノ結果ヲ知ラサルナリ如此差異アルカ故ニ左ノ結果ヲ生ス

第一 誤殺ハ有意犯ナリト雖モ過失殺ハ無意犯ナリ

第二 誤殺ハ殺人ノ點ヲ以テ罰スルト雖モ過失殺ハ疎虞懈怠等其過

失ノ點ヲ罰スル者ナリ

○賭博犯ト富籤興行ノ罪トノ差異

何レモ社會ノ風俗ヲ害スルノ罪ナリ不實ノ命運ヲ僥倖シテ奇利ヲ爭ヒ良民ヲシテ怠惰ノ風ニ導キ破産傾倒ノ憂ヲ生セシムル者ナリ故ニ何レモ社會ヲ害スルノ點ニ於テハ同一ナリ然レモ其罪質即チ罪トナル處以テ性質ニ付キテハ異ナル處アリ賭博ニ在テハ現行犯ノ場合ニ而已刑法ノ制裁ヲ受クヘキモノナレモ富籤ニ至テハ非現行犯ノ場合ニ於テモ罪ヲ以テ論スルモノナリ而シテ賭博ハ相互ニ行ヒシモノハ何レモ共犯人トシテ盡ク其責任ヲ受ケ富籤ニ在リテハ其發起人興行者而已制裁アリテ此レヲ買取リタル者ニ就テハ責任ヲ命セサル如キハ二罪ノ重ナル差異ナリトス蓋シ后段ノ區別ハ他ナシ富籤ニ於テハ

其僥倖ノ命運ヲ發意シ其事ニ着手シ此ヲ實行スルモノハ只其興行者ノミニシテ買取人ノ如キハ偶然其興ヲ買フニ過キサルモノニシテ決シテ惡意アルニアラス危險甚タ多キニアラス賭博犯ト同一ニ論スヘキ者ニ非ラサルナリ

○貨幣偽造ト變造トノ區別

偽造トハ新ニ撰造シ又ハ異質ノ眞貨ヲ粧飾改描シタル者ヲ云ヒ變造トハ同質ノ眞貨ヲ改描シ價額ヲ増減シタル者ヲ云フ假令ハ銀貨ヲ粧鍍シ金貨ニ模擬スルカ如キハ偽造ニシテ變造ニ非サルナリ之ニ因テ之ヲ觀レハ偽造ト變造ト異ナル點ハ同質ノ眞貨ヲ改描シタルト異質ノ眞貨ヲ改描シ又ハ新造スルトニ在リ

○假出獄ト特赦トハ其性質上如何ナル區別アリヤ又假出獄及特赦ハ確定裁判ノ効力ヲ破ル者ナルヤ

假出獄ト特赦トノ結果ノ區別ハ種々アリト雖モ性質上ノ區別ハ唯二アルノミ即チ假出獄ハ刑ノ幾分ヲ執行シタル後チ犯人情狀ノ改良ニ對シ施ス可キ者ナリト雖モ特赦ハ犯罪情狀ノ恕スヘキ者ニ對シ施ス者ナリ

假出獄ハ假リニ就役ノ幾分ヲ免スル者ナリト雖モ特赦ハ刑ノ執行ヲ假リニ免スル者ニ非ス

二者性質上ノ區別ハ右ノ如シ而シテ此二者共ニ確定裁判ノ効力ヲ破ル者ニ非サルヤト云フニ決シテ之レカ効力ヲ破ルモノニ非ス蓋シ確定裁判ノ効力ヲ破ルハ事件ヲ覆審シ再ヒ法律ノ適用ヲ爲ス場合ナラサル可ラス然ルニ假出獄及特赦ハ己ニ言渡サレタル刑ノ執行ヲ免除スルニ止リ事件ヲ覆審シ再ヒ法律ノ適用ヲ爲シ以テ他ノ刑ヲ科スルモノニ非ラサレハナリ

○詐偽取財ノ構成ノ元素及其理由

詐欺取財ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ三元素ヲ要ス若シ其一ヲ缺クハ此罪ヲ構成スル事ナシ

第一 欺罔又ハ恐喝スルコト

第二 財産若クハ証書類ヲ騙取スルコト

第三 惡意ナルコト

第一ノ欺罔トハ人ニ信用ヲ置カシメテ其信ニ背ク所爲ヲ云フ有ルコトヲ無シト云ヒ無キコトヲ有ルト云ヒ以テ人ヲ騙欺スル事ナリ恐喝トハ恐怖セシムルコトニシテ例ヘハ云々ノコトヲナサレハ危險ノ來ル可キヲ説キ金錢ヲ騙取スル如キヲ云フ

第二ノ財産トハ動不動産ヲ含蓄スル者ニシテ有形無形ヲ問ハス財産ヲ形容スル者ハ總テ入ル可キ者ナリ此証書類ヲ騙取スルトハ欺罔恐

喝ヲ以テ証書類ヲ記セシメテ騙取スル場合ニシテ被害者カ義務者トナルノ場合ヲ想像シタルナリ換言セハ犯人ハ債主トナリ被害者カ義務者トナルノ義ナリ

第三ノ惡意トハ有意犯ニ避ク可ラサル條件ナリ若シ此惡意ナカリセハ罪ノ性質ヲ變スルナリ

○第百十六條ノ罪ト通常ノ罪ト比較シテ其異ナル點ヲ示ス可シ

第一 通常ノ罪ハ未遂犯以上ヨリ罪トシ論スレモ本條ノ罪ハ豫備決心ヨリ之ヲ罪トシ論ス

第二 通常ノ罪ハ未遂犯ノ時ニ於テ刑ヲ減等スト雖モ本條ノ罪ハ減等スルコトナシ

第三 通常ノ罪ハ豫備決心ヲ罪スル場合第百二十五條ニ於テ刑ヲ減

等スト雖モ本條ノ罪ハ刑ヲ減等スルコトナシ

第四 通常ノ罪ハ決心ヲ罰スル場合第百二十五條第二項ニ於テ二人以上通謀シタルコトヲ要スト雖モ本條ハ發議アリタル時ヨリ之ヲ罰ス

第五 通常ノ罪第三篇一章ハ其種類ニ依リ刑異ナレモ本條ノ罪ハ刑常ニ同一ニシテ一ノ死刑アルノミ

○内亂ノ已遂罪ト他ノ已遂罪ノ差異及其理由

内亂ノ罪ハ法律ニ於テ已遂罪ト認ムルノ點他ノ罪ニ異ナル所アリ例エハ謀殺故殺ノ如キ犯人其目的ヲ達シタル時即チ被害者ノ生命ヲ絶チテ復タ生カス可ラサルニ致シタル時ニ非サレハ已遂罪ト云フコトナシ故ニ此例ヲ推ス時ハ内亂ノ罪犯モ人其目的ヲ達シタル時即チ内國戰爭ノ手段ニ依リ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ潛竊スル如キ事實現出シ

タルキニ非レハ已遂罪ト云フ可ラサルカ如シ然レモ法律ハ内亂ノ罪ニ限り其目的ヲ達シタル時ヲ俟テ已遂罪トセスシテ目的ヲ達スル手段ナル内亂ヲ起シタル時ヲ以テ已遂犯トセリ是レ内亂ノ罪ハ内亂ヲ起シタル時ヲ以テ極度ニ達シタル者ト爲セハナリ之ヲ換言セハ内亂ノ罪ハ其目的ヨリ見レハ決シテ達シ得可ラサル者ニ係ルニ因リ内亂ヲ起シタル時ハ乃チ其結局ニ至リタル者ナレハナリ

×○第三百三十九條ト第四百一條ノ罪ノ差異  
兩條何レモ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪ノ節中ニアレモ其差異アル點ヲ掲クレハ

第一、百三十九條ハ有形的ニ官吏ノ身体ニ對シテ害ヲ加フル者ニシテ第四百一條ハ無形的ニ官吏ノ榮譽ニ對シテ害ヲ加フル者ナリ  
第二、百三十九條ハ官吏ノ爲ス所ニ抗拒スル場合ニシテ第四百一條

ハ自ラ進ンテ妨害ヲ加フル者ナリ

第三、百三十九條ハ單ニ執行官吏ニ對スル者ヲ認メタルモノニシテ第四百一條ハ一般ノ官吏ニ對スル者ナリ

第四、百三十九條ハ官吏職務ヲ行フノ際ニ限ル者ニシテ第四百一條ハ官吏職務ヲ行フ際ノミナラス又其職務ニ關シテ害ヲ加フルトナ包含ス

○外患ニ關スル罪ハ國事犯ナルヤ

國事犯トハ我國々体政体ノ組織ニ直接ニ害ヲ及ホス者ヲ云フ然ルニ外患ニ關スル罪ニ付キ詳カニ之レカ觀察ヲ下セハ直接ニ社會ノ組織ニ害ヲ及ホサントスル者ニ非ラス即チ本邦政府ヲ顛覆シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスル特別ノ目的ヲ有スル者ニ非サルナリ勿論歐洲諸國ノ例ヲ見ルニ外國ノ兵力ヲ借リテ自國現在ノ政府ヲ倒サントシ又ハ外



國人ヲ以テ自國ノ君主ト爲サントスル如キアリテ是等ハ國事犯ノ性質ヲ有スル者ナリト雖モ一般ニ外患ニ關スル罪ヲ見レハ自國ニ對シテ怨ヲ抱クカ又ハ利ノ爲メニ父母ノ國ヲ忘ル、カ或ハ私ニ外國ト戰端ヲ開キ本國ニ禍ヒスル如キ直接間接ノ差異アリト雖モ總テ之カ爲メニ本國ノ組織ヲ變更スル事ナキニ非ラス故ニ我刑法ノ外患ニ關スル罪ヲ尙國事犯ト爲シタルハ此理由ニ因レルナラン

○官文書偽造罪ノ原則

官文書偽造罪ヲ構造スル原則ハ左ノ如シ

- 第一 信實ニ違フ
  - 第二 人ヲ害スルノ意アル
  - 第三 損害ヲ生スルヲ又生シ能フ
- 第一信實ニ違ハサルヲ記載シタル時ハ文書偽造ニ非ラサルナリ例

エハ甲者アリ乙者ニ對シテ金圓ヲ貸與ヘリ然ルニ乙者之ヲ返還セス又証書モ出サス因テ甲者ハ自ラ其証書ヲ記シ乙者ノ印ヲ奪フテ之ヲ押捺シ或ハ強テ乙者ノ手ヲ執リテ之ヲ記セシメ且之ニ押捺セシメタル如キアレハ其貸借ハ實際アリタルヲナレハ信實ニ違フト云フ事ヲ得ス

第二此偽造罪ニハ唯偽造スルノ意ノミニテハ不可ナリ尙一步ヲ進メテ其目的タル他人ヲ害スルノ意ヲ以テ偽造シタルヲ要ス否ラスシテ假令信實ニ違ヒ且損害ノ生スルモ其意全ク偽造サレタル人ノ利益ヲ圖ラン爲メ偽造シタル如キハ偽造罪ニ非ルナリ  
第三唯リ損害アルノミナラス損害ヲ生シ能フ時ハ偽造罪ナリ此條件ニシテ具ハラサレハ文書偽造罪ト爲ス可ラサルナリ

○毒殺罪ニ故殺ノ場合アリヤ

毒殺トハ猛惡卑劣ノ所爲ヲ運ラス謀殺ノ一部分ナレハ故殺之場合ナ  
 キニ非ラス佛國ノ「ロシー」氏ノ例ヲ舉示センニ曰ク藥品ニテモ過度ニ  
 用ユルハ害トナリ適度ニ用ユレハ藥トナルモノアリ今主人苦ムニ  
 當リ僕婢藥ヲ與ヘントスル際主人ノ苛責ヲ受ケ一時ノ憤怒ニ乘シ其  
 藥ヲ多量ニ與ヘ爲メニ主人ヲ死ニ致シタル如キハ決シテ謀殺ト云フ  
 ナ得ス乃チ其僕婢一時ノ怒リニ乘シテ直チニ爲シタル者ナルヲ以テ  
 故殺ト云フ可キナリト

④ 正當防衛ト特別宥恕トノ差異

特別宥恕ノ場合ハ正當防衛ニ似タリト雖モ決シテ混同ス可ラス特別  
 宥恕ハ暴行ヲ受ケ怒ヲ發シ其怒ヲ報ユル爲ノ所爲ナリ故ニ彼正當防  
 衛ニ必要ナル條件中暴行ヲ受ケ避ケル能ハサルヲ要セス是レ其異  
 ナル所ナリトス

⑤ 偽證罪構成ノ元素及理由

偽証ノ罪タルヤ自ラ重大ナル性質ヲ有ス是レ此罪ハ証人タルノ誓ニ  
 反キ裁判官ヲ欺キ社會ヲ害スルノ三害アルヲ以テ其關係ヲ明カニシ  
 且其元素ヲ説明セサル可ラス

第一 惡意アルヲ

第二 眞實ニ違フヲ

第三 害アルヲ

第一人必スシモ誤リナキ能ハス是レ人類ノ免ル能ハサル所ニシテ目  
 ニ見耳ニ聞クモ心茲ニ在サレハ見テ視エス聞テ聽エス故ニ現場ノ事  
 件モ其見聞ヲ誤ルヤ知ル可ラス是ヲ以テ裁判所ニ於テ誤見ヲ陳述ス  
 ルモ惡意ナキ以上ハ罪トナラサルナリ

第二治罪ノ手續ニ從テ宣誓ヲ爲シタル者ハ裁判官其言ヲ確眞スルヲ

得可ク且充分事實ヲ陳述スルノ義務ヲ負テ以テ之ヲ違フハ其罪ナ  
 カル可ラス然レモ如何ナル偽言ト雖モ偽証ノ罪ナリト云フニ非ラス  
 其事件ノ本案ニ關シタルハ偽証ヲ以テ論スレモ附從トハ何ソヤ犯罪ノ  
 偽言スルモ偽証罪ヲ以テ論スルヲ得サルナリ附從トハ何ソヤ犯罪ニ  
 時或ハ其場所ニ關シテ陳述スルカ如キヲ云フ但シ時及場所ノ犯罪ニ  
 必要ナル條件トナル場合ハ此限りニ非ラス  
 第三凡ソ惡意アリテ事實ニ違フヲ陳述スレハ必ス損害ヲ生スル者  
 ナリ然レモ時トシテ損害ナキトアリ例スレハ証人ニシテ氏名ヲ詐リ  
 或ハ身分ヲ詐リタル如キハ裁判官ノ心意ニ幾分カ障礙ヲ來スナキ  
 ニ非サレモ其害タル僅少ナルヲ以テ罪トナラス是附從ノ事件ナレハ  
 ナリ

○特別宥恕罪ノ元素及其場合

特別宥恕罪ヲ構成スルニハ左ノ要件ヲ具備セサル可ラス

- 第一 暴行ヲ受クル
  - 第二 自己ノ身体ニ暴行ヲ受クル
  - 第三 暴行ノ不正ナル
  - 第四 受クル暴行ト加フル殺傷ト同時ナル
  - 第五 不正ノ所爲ヨリ暴行ヲ招キタルニ非ル
- 我刑法ノ特別宥恕ヲ與フル場合五個アリ左ノ如シ  
 自己ノ身体ニ暴行ヲ受クルニ因リ直ニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル  
 場合(三百九條)

毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ前後ヲ知ル能ハサル場合(三百十

條)

木夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直ニ姦婦ヲ殺傷シタル場合(三百

十一條

晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入ラントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル場合(三百十二條)

身休財産ヲ防衛スルニ出ツルト雖モ已ムトヲ得サルニ非ラスシテ害ヲ暴行人ニ加フル時ハ情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照ス場合(三百十六條)

①強姦罪ト認め得可キ場合

強姦罪ニハ未遂犯アリ即チ男女交接器相接スルト否トニ因テ已遂未遂ヲ區別スヘキモノナリ強姦ノ證據ヲ擧グルハ最モ難事ニシテ古昔學者ノ説ニ因レハ凡ソ強姦ト認め得可キ場合ハ數要件アリ採テ以テ答案トセン

第一 其姦セラル、婦人ハ始終抵抗スルヲ要ス故ニ若シ初メハ抵抗

スルモ終ニ之ヲ默許スルカ如キハ強姦ニ非ス

第二 男女力量不同等ナルヲ要ス故ニ若シ女子ニシテ其力量男子ト同等ナルカ若クハ男ニ勝ルアラハ強姦ニハ非ス

第三 人ノ助ヲ乞ヒ得可キ時例エハ人家ノ近傍ニ於テ爲シタル如キハ婦女ハ救援ヲ叫ブヲ得可キ者ナレハ若シ聲ヲ發シテ救援ヲ乞ハサル片ハ強姦ニアラス

第四 暴行脅迫アルヲ要スルナリ

①姦通罪ノ要件及其理由

姦通罪ニハ左ノ三原素ヲ要ス

第一 交合ノ事實アル

第二 結婚アリタル

第三 犯意アル

第一此事實ナキ片ハ罪トナラス故ニ假令猥褻ノ所行アルモ交合ナキ片ハ姦通トナラス姦通ノ一ハ證明スルニ難キヲ以テ佛國ノ如キハ現行犯ノ場合カ又ハ非現行犯ノ場合ナレハ證書等確實ノ證據アルニ非サレハ罪セス証人ノ如キハ證據トナスニ足ラサルモノトセリ  
第二結婚成立セザル片ハ姦通トナラス故ニ結婚ヲ行フモ無効タル片ハ姦通罪ヲ以テ論スルヲ得ス

第三犯意ナキ片ハ假令事實アルモ姦通罪トナラス例エハ我夫ナリト思ヒ交合シタル時ノ如キ是ナリ

○兇器トハ如何ナル者ナルヤ

兇器ノ解ハ學者間大ニ議論アル處ニシテ未タ一定ノ說アルヲ聽カサレト之ヲ二個ニ區別シ解釋ヲ下セハ可ナリト信ス

第一 性質ニ因テノ兇器是レ其性質自ラ人ヲ害シ又ハ自己ノ身体ヲ

防衛スル爲メ製造シタルモノニ即チ刀劍鎗銃ノ類是トナリ

第二 用方ニ依テノ兇器例エハ庖丁小刀ノ如キ其性質人ヲ害シ又ハ

吾カ身ヲ防衛セシ爲メ製造シタル者ニ非スト雖モ其用法ニ因テ兇器ト稱スルヲ得ル者是ナリ

斯ク兇器ノ區別ヲ爲ス事ハ甚タ緊要ノ一ナリトス何トナレハ第一種ニ屬スル性質ノ兇器ヲ携エ竊盜ヲ爲シタル片ハ其用ユルト否トヲ問ハス兇器ヲ以テ論スル一ヲ得若シ犯人罪ヲ犯ス片偶然之ヲ所持シタル者ニシテ竊盜ヲ犯サン爲メ携帯シタルニ非サレハ被告人ニ於テ其證據ヲ舉示セサル可ラス之ニ反シ第二ノ用法ニ因テノ兇器ハ被告人ニ於テ竊盜ヲ犯ス片使用セント欲シテ携帯シタル一ヲ檢察官ヨリ証明セサル可ラサレハナリ然レト之ヲ證明スル一ハ甚タ易シ何トナレハ竊盜ヲ爲スニ當リ出刃庖丁ヲ携フル片ハ其犯罪ニ用ユル爲メタル

「自ラ明カナレハナリ

○免幽閉中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタルハ其免幽閉ヲ取消シ得

可キヤ

本問ハ正條ニ明文ナキヲ以テ免幽閉ノ恩典ハ一旦之ヲ與ヘタル以上ハ復タ之ヲ取消シ得サル者ナリト論スル者アレトモ免幽閉ハ之ヲ受ケタル者更ニ重罪輕罪ヲ犯シタルハ取消シ得可キノミナラス假令更ニ罪ヲ犯サ、ル時ト雖モ尙ホ之ヲ取消シ得可キモノトス何トナレハ免幽閉ハ元ト是レ行政上ノ處分ナレハ之ヲ與フルト與ヘサルト一旦之ヲ與ヘテ取消ストハ行政官ノ隨意ニシテ行政官ハ此事ニ關シ毫モ他ノ規則ノ爲メニ箝制セラサル、所ナケレハナリ

○酌量減輕設定ノ理由

酌量減輕設定ノ理ハ二個アリ

第一 凡ソ犯者ニ對シテ刑ヲ科スルヤ宜シク罪ト刑トヲシテ權衡ヲ得セシメサル可ラス而シテ其權衡ヲ得セシメンニハ事實ノ有罪ノ度ト犯者ノ有罪ノ度トヲ計リ適當ノ刑ヲ科スルニ在リ然リ而シテ事實ノ有罪ノ度ヲ計ルハ甚タ容易ニシテ例エハ謀殺ハ故殺ヨリ重ク竊盜ハ強盜ヨリ輕キノ類ニシテ這ハ立法者自ラ計テ之ヲ法律上ニ明定スルヲ得ルト雖モ犯者ノ有罪ノ度ニ至テハ之ヲ豫知スル能ハス如何トナレハ人ノ罪ヲ犯スヤ假令罪名ハ同一ナル時ニ於テモ其情狀ニ至テハ千差万別ニシテ或ハ教育不充分ノ人アルコトアリ或ハ他人ヲ救フノ爲メナルコトアリ或ハ貧窶ノ爲ナルコトアリテ其人ノ異ナルニ從ヒ同シカラサルモノナレハナリ夫レ如此ナルニヨリ犯者アリテ後有罪ノ度定マル者ニシテ立法者ノ豫知シ得可キモノニ非ラス故ニ立

法者其權ノ一部ヲ殺テ裁判官ニ與ヘ裁判官ヲシテ時ニ臨ンテ此權ヲ左右セシメ以テ罪ト刑トノ權衡ヲ得セシム是レ酌量減刑ノ設ケタル第一理由ナリ

第二 有期刑ハ犯者ノ情狀如何ニ因リ其刑ノ長短期ノ間ニ於テ斟酌スルコトヲ得ルト雖モ死刑及ヒ無期刑ハ之ヲ爲ス能ハサルニヨリ止ヲ得ス本刑ヲ科セサル可ラサルコトアリテ罪ト刑トノ權衡ヲ得ル能ハス故ニ酌量減輕ヲ用キテ其權衡ヲ得セシム是レ酌量減輕ノ設ケアル第二理由ナリ

○再犯加重ハ期限ノ經過ヲ問ハサル者乎  
再犯ノ故ヲ以テ加重ス可ラス何トナレハ時日ヲ經過スルコト久シキニ至レハ人ハ皆前罪ヲ遺忘スルニ因リ再犯ノ故ヲ以テ后罪ヲ加重スルモ社會ニ益スル所ナケレハナリ然ハ之ヲ處スル如何曰ク刑ノ期滿免

除ノ年限ヲ以テ再犯加重ノ年限トセハ或ハ其當ヲ得ルニ庶幾カラン乎

○被刑者罰金ヲ完納セスシテ死去シタル時相續人ヨリ追徴スルコトヲ得可キ哉

○罰金ハ財産ニ及フノ刑ニシテ之ヲ宣告スルヤ直ニ國庫ヲ以テ被刑者ノ債主ト爲ス者ナレハ被刑者本人死去スルモ猶ホ其遺產ニ係リテ相續人ヨリ追徴スル事ヲ得可キ筈ナリ然レモ我刑法ニ於テ完納セサルト禁錮ニ換フト爲シタル以上ハ相續人ヨリ追徴スル事ヲ得ス何トナレハ本人若シ存在セハ或ハ禁錮ニ換ヘタルヤモ知ル可ラス又相續人完納セサレハトテ之ヲ禁錮ニ換ントスルハ能ハサルコトナレハナリ

○國民ノ特權ト官吏ト爲ルノ權トノ區別  
國民ノ特權トハ選舉權并ニ一切ノ公權及ビ政權ニシテ假令國人ナリト雖モ老幼男女ノ別ナク人民一般ニ有スルヲ得可キ者ニ非ス又之ヲ

有スル者ハ法律ニ從テ之ヲ行フ者ニシテ政府ノ命ヲ俟テ之ヲ行フ者ニ非ス然ルニ官吏トナルノ權ハ之ト異ナリ凡ソ國民タル以上ハ老幼男女ノ別ナク之ヲ有スルヲ得可ク之ヲ行フヲ得可シ且ツ此權ハ之ヲ有スルハ法律ニ因ルト雖モ之ヲ行フニ至テハ任免ハ政府ノ權内ニ在ルヲ以テ法律ニ依リテ自ラ行フ者ニ非ス則チ政府ノ命ヲ待テ之ヲ行フ者ナリ是レ其國民ノ特權ト官吏トナルノ權ト異ナル所ニシテ法律ノ之ヲ特書シタル所以ナリ

○免幽閉ト假出獄ノ性質及其差異  
免幽閉ハ素ト行政上ノ處分ニシテ國事犯ノ流刑人ニ與フル特赦ナリ而シテ其目的ハ永ク獄舎ニ幽閉シ外部ト交通ヲ爲スヲ許サ、ルヨリ狂疾ヲ發シ或ハ出獄ノ希望ナキヨリ自暴自棄ニ至ルノ恐アル爲メニ社會ニ出ルヲ得ルノ門戸ヲ開キ改過遷善ヲ獎勵セサル可ラサル所以ナリ

假出獄ヲ許ス所以ハ一旦野卑陋劣ノ所爲ヲ行シ者ナレモ悔悟ノ狀顯ハレタルヲ以テ特ニ社會ニ出ルヲ得ル是赦典ナリ

第一 無期流刑ハ五年ノ后幽閉ヲ免セラルレモ無期徒刑ハ十五年ノ後假出獄ヲ得又有期流刑ハ三年ナレモ有期徒刑ハ刑期四分三ナリ

第二 免幽閉ヲ取消ス時ハ其出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入スルモ假出獄ニ於テハ刑期ニ算入セズ

○假出獄保釋責付ノ差異  
假出獄ト保釋及責付トハ其形狀相類スト雖モ各異ナル者ナリ假出獄ハ受刑ノ後ニ於テ爲ス者ニシテ保釋及責付ハ受刑前即チ豫審若クハ



上告中ニ於テ爲ス者ナリ而シテ保釋ニハ保証金又ハ保証人ヲ要スト  
雖モ假出獄ニハ保証ヲ要セス又保釋責付ハ裁判上ノ處分ナリト雖モ  
假出獄ハ行政上ノ處分ナリトス

○大赦特赦ノ區別及其結果

大赦トハ人ノ如何ニ關シテ之ヲ行フニ非ス事件ノ如何ニ關シテ之ヲ  
行フ者ニシテ已ニ處斷ヲ經タル者ニ對シテハ刑ノ執行權ヲ放棄シ未  
タ處斷ヲ經サル者ニ對シテハ公訴ヲ起スノ權ヲ放棄シテ犯罪事件ノ  
消滅シタルヲ想像スル者トス故ニ大赦ハ必ス左ノ結果ヲ生ス

- 第一 犯人ノ刑ヲ免スルノミナラス其罪ヲ免シテ問ハス
- 第二 大赦ハ之ヲ國事犯若クハ特別犯罪事件ニ適用ス可クシテ常事  
犯罪ニ適用スルヲ得ス
- 第三 大赦ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論セス又已ニ刑

ヲ受ケタル片ハ此刑消滅シテ復權ヲ得

特赦ハ大赦ニ反シ其用法ニ於ケルヤ犯人ヲ目的トシテ事件ヲ目的ト  
セス從テ其刑ヲ免シ若クハ之ヲ減等スルニ止マリ其罪ヲ免サス故ニ  
其結果ハ左ノ如シ

- 第一 特赦ノ典ハ必ス裁判確定ノ後ニ在リ
- 第二 其國事ニ係ルト常事ニ係ルトヲ分タス
- 第三 特赦ヲ得タル者再ヒ罪ヲ犯セハ再犯ヲ以テ論ス
- 第四 特赦ニ因テ免刑ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復權  
ヲ得ス

○冒認罪ト受寄財産費消罪トノ區別

此兩犯ハ最モ類似シタル者ニシテ何レモ他人ノ物件ヲ冒認シタルノ  
所爲タルニ過キス然レモ之レカ區別ノ存スル所ナキニ非ス乞フ左ニ

其區別ヲ述ン

凡ソ冒認罪ハ己レノ物件ニ非ルヲ己レノ物件ナリト欺隠シ其買主又ハ抵當典物ノ取主ヲ詐僞シ金圓ヲ騙取スルヲ罰スル者ナリ他語ヲ以テ之ヲ謂ヘハ買主抵當典物取主ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スル所爲ヲ罰スルナリ之ニ反シテ受寄財産費消罪ハ委託ノ信用ニ反キ以テ其財物ヲ消却スルヲ罰スルナリ然ラハ即チ冒認罪ハ其性質物件ノ所有ニ對スル犯罪ニ非スシテ買主又ハ抵當典物ノ取主等其欺騙セラレタル者ニ對スル犯罪ナリ故ニ冒認罪ノ被害者ハ常ニ物件ノ所有者ニ非ス受寄財産費消罪ハ委託シタル所有者ニ對スル犯罪ニシテ其財物ヲ買受ケ又ハ請取リタル者ニ對スル犯罪ニ非ス故ニ受寄財産費消罪ノ被害者ハ常ニ所有者ニ在リ之ヲ要スルニ二罪ノ區別ノ存スル所ハ其性質被害者ノ所有者ニアル否ヤニアリトス

○刑ノ期滿免除ト公訴期滿免除ノ精粗アル理由

刑法五十九條ノ刑ノ期滿免除ト治罪法十一條ノ公訴期滿免除ノ年數ト正面ニ於テ異ナルノミナラス公訴期滿免除ハ檢察官ヨリ起訴ノ手續ヲ爲シ又豫審若クハ公判ノ手續アリタルニヨリ期限ノ中斷ヲ爲シタル時猶右第十一條ニ定メタル期限ニ貳倍ヲ超過スルヲ得スト雖モ刑ノ期滿免除ノ經過ニ至テハ刑法六十二條ニ從ヒ逮捕ノ令狀ヲ發シテ常ニ之ヲ中斷スル事ヲ得ルヲ以テ其幾數十年ニ至ルコトアル可キヤ知ル可ラサルナリ然リ而シテ其此ノ如ク此ハ精ニ彼ハ粗ニ此ハ長ク彼ハ短キハ何ソヤ蓋シ其理由ナキニ非ス犯罪一度公判ニ係リ刑ノ宣告アリタル片ハ事確乎トシテ明瞭ナルヲ以テ從テ人ノ記憶スル久シキニ耐ユ可ク且刑定マルニ因リ其輕重ニ從ヒ細カニ人ノ之ヲ遺忘スルノ度ヲ斟酌スルヲ得可シ是レ刑ノ期滿免除期限ノ長シシテ且

ツ精シキ所以ナリ然ルニ犯罪未タ公ケニ刑ノ宣告ヲ受ケサルハ事  
總テ模糊トシテ人之ヲ遺忘シ易ク又其何等ノ刑ニ該ル可キヤ知ル事  
ヲ得可ラス是レ公訴ノ期滿免除ハ短クシテ且ツ細方ニ年限ヲ區別セ  
ル所以ナリ

○刑ノ消滅之原因

刑法第三十五條ニ主刑ノ終ル迄トアリ主刑ノ終ルトハ其刑消滅スル  
ノ謂ナレモ刑法中ニハ之ヲ明記シタル者ナシ然レモ草案第六十八條  
ニ之アレハ茲ニ其原因ヲ示ス左ノ如シ

- 第一 刑ノ執行ヲ終リタル時
- 第二 本犯者死去シタル時  
但シ已ニ宣告シタル罰金科料沒收ハ此限ニ非ス
- 第三 數罪俱發一ノ重キニ從フタル時

- 第四 將來ノ新法ヲ以テ刑ヲ廢止シ及ヒ減輕シタル時
- 第五 治罪法ノ規則ニ從ヒ再審ヲ以テ前判ヲ廢シタル時
- 第六 復權ノ許可ヲ得タル時
- 第七 赦典ヲ以テ刑ヲ減輕シタル時
- 第八 大赦常赦特典ヲ以テ刑ヲ免シタル時

○公權及監視ノ期滿免除ヲ得サル理由

凡ソ期滿免除ニ因テ消滅スル所ノ者ハ刑ノ執行權ナリ則チ死刑ニ處  
セラレタル者ニ關シテハ其生命ヲ絶チ又自由ヲ剝奪スルノ刑ニ處セ  
ラレタル者ニ關シテハ之ヲ拘禁服役スルカ如キ有形上ノ執行ヲ爲ス  
可キ時ニ當リ之ヲ執行セス此ヲ以テ此權消滅シ從テ被刑者免除セラ  
ルハナリ然ルニ剝奪公權及監視ノ刑ノ如キハ單ニ法律ノ威權ヲ以テ  
犯者ノ權利ヲ剝奪シ無形的ノ喪ニ於テ終身無能力者ト爲ス所ノ刑ニ

シテ毫モ有形上ノ執行ヲ要スルコトナシ故ニ人ノ耳目ニ觸ル、所ノ執行アルコトヲ得ス已ニ執行アルコトヲ得サル時ハ執行セサルノ理由ニ因テ此權消滅スルノ理アルヲ得ス又有ルコトヲ得サル所ノ執行ヲ遁ル、ト云ヘハ語意ヲ成サス數ノ許サ、ル所ナリ是レ剝奪公權監視ハ期滿免除ヲ得ザル所以ナリ

○有意ヲ以テ犯スモ意外ノ結果ノ生シタル時ハ其處斷法此場合ニ於テハ左ノ三個ニ區別シテ處分スヘシ

第一 生シタル事件所爲ノ避ク可ラサル結果ナル時ハ其事件ニ付犯スノ意ナシト爲ス事ヲ得ス例エハ人ノ首ヲ斬ル片ハ其人ノ死スルハ自然ノ結果ナルヲ以テ首ヲ斬ルノ意アリシモ之ヲ殺スノ意ナシト爲スヲ得サルカ如キ是ナリ

第二 生シタル事件所爲ノ偶然ノ結果ナルトハ其事件ニ付犯スノ意

アリト爲ス事ヲ得ス例エハ人ノ住居セサル家屋ナリト信シテ放火セシニ適々其中ニ人ノ在ルアリテ之カ爲メ死シタル時ノ如キ是ナリ

第三 生シタル事件所爲ノ豫想シ得可キ結果ナル片ハ其事件ニ付犯スノ意ナシト爲スコトヲ得ス例エハ人ノ群集スル處ニ向テ發砲シタル如キ場合ニ於テハ如何ナル結果ノ生スルコトアルモ皆其責ニ任せサル可ラス何トナレハ其結果ノ生スル事ハ初メヨリ豫想シ得可ケレハナリ

○不論罪ト減刑ノ區別

不論罪ト減輕トハ大ニ混シ易キ者ナレトモ大差異アリ即チ不論罪トハ善惡正邪ヲ辨別スルノ智識ヲ失ヒ動不動ヲ決定スルノ自由ヲ缺クヲ要ス元來人ノ責任アルハ智識ト自由アルカ故ナリ若シ其一ヲ缺ク時

ハ責任アルコトヲ得ス己ニ責任アルコトヲ得サルハ假令如何ナル所爲ト雖モ罪トナル事ヲ得サルノ場合アラサルヲ得ス是レ不論罪ノ性質ナリ

輕減トハ智識ト自由アリテ隨テ罪ヲ構成スル責任アレモ他ニ止ム可ラサル理由ノアルアリテ其刑ヲ減輕スルナリ而シテ其減刑ニハ法律上ニ於テスルト裁判上ニ於テスル者トアリ裁判上ニ於テスル者トハ酌量減輕是ナリ法律上ニ於テスル者トハ宥恕減刑自首減輕是ナリ今其場合ヲ大別シテ二トナス

第一 道理上減刑スルコト  
第二 公益上減刑スルコト  
第一ハ其減輕ス可キノ理由犯罪ノ前又ハ犯罪ノ時迄ニ生スル者ニシテ其場合六個アリ

- 一 幼者ノ罪ヲ犯シタル片
  - 二 暴行ヲ受ケ直チニ怒ヲ發シテ暴行人ヲ殺傷シタル片
  - 三 本夫ノ姦夫婦ヲ姦所ニ於テ殺傷シタル片
  - 四 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入ル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル片
  - 五 親屬相容隱シタル片
  - 六 親屬相盜ム片
- 第二ハ其減輕スヘキ理由犯罪ノ后ニ生スル所ノ者ニシテ其場合六アリ即チ内亂ノ隱謀等貸弊ノ偽造等偽証ノ罪等幼者ヲ誘導セシ罪証告ヲ爲シタル罪等ヲ自首セシ場合是ナリ
- 酌量減輕適施ノ心得
- 夫レ酌量減輕トハ犯罪ノ情狀原諒スヘキ場合ニ於テ用ユ可キ者ナリ

然リト雖モ之ヲ用ユルト否トハ裁判官ノ權内ニ在ル者ナレハ假令ヒ原諒スヘキノ理由ナキモ之ヲ用ユルテ得可シ於是乎遂ニ濫用ノ弊ヲ生スルニ至ル故ニ裁判官タル者常ニ注目ヲ怠ル可ラサルハ左ノ二件ニアリトス

第一、酌量減輕ハ刑法規定ノ刑ノ嚴酷ナル故ヲ以テ用ユ可ラス元來犯罪ニハ事實ノ度ト犯人ノ罪ノ度トノ二個アリ而シテ事實ノ罪ノ程度ハ立法者豫メ知ル事ヲ得ルヲ以テ之ヲ計テ其刑ヲ定ムル者ナリ然ルニ犯罪ノ罪ノ程度ニ至テハ犯罪者ノ異ナルニ從テ同シカラサル者ナレハ立法者豫メ之ヲ知ル能ハス之ヲ知ルハ裁判官ナリトス故ニ裁判官ハ此犯罪者ノ有罪ノ度ヲ計ルニ付テ酌量減輕ヲ用ユ可クシテ事實ノ有罪ノ度ニ關シテ用ユル能ハサルナリ

第二、酌量減輕ヲ行フニ付テハ裁判官其理由ヲ明示スルノ義務ナク又之ヲ明示ゼサルヲ以テ本則トス故ニ裁判宣告書ニハ所犯情狀原諒ス可キカ故ニ減輕スルノミ職セテ其何故ニ原諒ス可キヤヲ明記セサルナリ然リト雖モ裁判官ハ其理由ヲ其心ニ明記セスンハ其酌量減輕ハ偶然ノ結果ニシテ裁判ニ非ス寔ニ裁判官ノ眞面目ヲ汚スモノト云フ可シ

○再犯ト數罪俱發ノ區別

再犯トハ一罪又ハ數罪ヲ犯シ已ニ判決ヲ經テ更ニ一罪又ハ數罪ヲ犯シタル場合ヲ云ヒ數罪俱發トハ初犯タルト再犯タルトヲ分タス數個ノ罪發覺スル場合ヲ云フ故ニ犯罪者一度判決ヲ受ケスシテ數罪俱發スル片ハ是レ初犯ノ數罪俱發ナリ又已ニ判決ヲ經テ其后ニ犯シタル數罪俱發スル片ハ是レ再犯ノ數罪俱發ナリ此ノ再犯ト數罪俱發トノ區

別ハ法律上實ニ著シキ差異アル者トス即チ再犯ノ場合ニ於テハ已ニ判決ヲ經タル罪ノ刑ト再犯ノ罪トノ二刑ヲ科スト雖モ數罪俱發ノ場合ニ於テハ止タ一刑ノミヲ科スル事是ナリ

○再犯ノ故ヲ以テ加重セサルノ場合アリヤ理由ヲ附シテ答フヘシ

刑法第九十一條乃至九十三條ニ依テ見ルルハ再犯ノ故ヲ以テ加重スルノ場合四アリ

- 第一 初犯重罪ニシテ再犯重罪ナル時
  - 第二 初犯重罪ニシテ再犯輕罪ナル時
  - 第三 初犯輕罪ニシテ再犯輕罪ナル時
  - 第四 初犯違警罪ニシテ再犯違警罪ナル時
- 右四個ノ場合ノ外ハ再犯タルノ故ヲ以テ加重スル能ハス即チ左ノ

場合ナリ

- 第一 初犯輕罪ニシテ再犯重罪ナル時
  - 第二 初犯重輕罪ニシテ再犯違警罪ナル時
  - 第三 初犯違警罪ニシテ再犯重輕罪ナル時
- 第一ノ場合ハ已ニ輕罪ノ刑ニ處セラレ其懲戒ヲ受ケタリト雖モ未ダ重罪ノ刑ノ何ノ物タルヤヲ知ラスシテ犯シタルノミナラヌ重罪ノ刑ハ自ラ重キヲ以テ自然ニ加重アルニ當レハナリ然レモ前ニ輕罪ノ刑ニ處セラレタル以上ハ初犯ノ者ニ比スレハ其惡念多クシテ且社會ノ危險モ大ナレハ裁判官ハ酌量減輕ヲ施スナク且刑ノ長期ニ處ス可キヲ以テ其刑自ラ重カル可キナリ
- 第二ノ場合ハ前ノ理由ニ依テ然ルニ非ス違警罪ハ土地風俗等ニ基キ規定シタル者ナルニ因リ土地ノ異ナルニ隨テ同シカラサル者ニシテ

重罪輕罪トハ自ラ其性質ヲ異ニシ相關係セサルヲ以テナリ而シテ違警罪ハ一年內ニ再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄內ニ於テ犯シタル時ニ非サレハ加重セス是レ此罪ハ至テ輕キヲ以テ時日ヲ經過スルニ隨ヒ世人ノ是ヲ遺忘スルヲ速カニシテ且土地風俗ニ基キ規定スル者ナルヲ以テ土地ノ異ナルニ隨ヒ其罰スル所ノ事モ亦同シカラサルカ故ナリ

○數罪俱發ニ際シ之ヲ罰スル方法

單ニ理論上ヨリ論スレハ左ノ一言ニ歸着ス曰正當ニシテ且必要ナル刑ヲ科セヨト然レ此論理ヲ満足スル事甚易キニ非ス現時歐洲諸國ノ立法者ハ苦心シテ種々ノ方法ヲ案出スレ也今ニ至テ未タ充分ナル目的ヲ達シタルニアラサルナリ而シテ茲ニ最モ簡單ニシテ且行ヒ易キノ方法ヲ舉レハ左ノ二個ナリトス

第一 各犯罪悉ク其刑ヲ科スルノ方法

第二 數罪中最モ重キモノノミ科スルノ方法

第一 方法ハ數罪ハ數刑ヲ來タスト云フ淡泊ナル理ニ依リ一罪ナレハ一トシニ罪ナレハ二トシ其罪ノ増加スルニ隨テ刑ヲ增加セントスル者ニシテ不正當不必要ノ刑ヲ科スルノ方法ナリ本來二罪ヲ犯シタル者ハ一罪ノ者ヨリモ惡念ノ大ナル固ヨリ論ヲ俟タスト雖モ因テ以テ惡念ニ倍セリト云フヲ得ス是レ不正當ノ刑ヲ科スルノ法タルヲ免レス故ニ採ルニ足ラス

第二 方法ハ一ノ重キ罪ハ他ノ輕キ罪ヲ吸收スト云フノ說ニ基キ數

罪俱ニ發スル片ハ一ノ重キ罪ノミヲ科シ一罪ヲ犯シタルト同一ニ罰スル者ニシテ亦前ニ所謂ル理論ヲ満足スル能ハサルナリ然リト雖モ我刑法ニ於テ不完全ナカラモ此法ヲ採リタル所以乎蓋シ嚴ニ失スルヨリハ寧ロ寬ニ失セヨトノ格言ニ基キシ



モノナラン

○助言ハ教唆トナルヤ

世ノ學者ハ助言ニ付大ニ議論ヲナスニモ拘ハラス助言ハ教唆トナリ  
 又ハ教唆トナラサルコトアル可キモノト信ス  
 抑モ教唆者ヲ正犯トシ罰スル所以ハ其罪ノ原因トナルヲ以テナリ然  
 ルニ助言ハ犯罪ノ一原因即チ教唆トナラサルコトアリ例エハ貧窶ノ人  
 ニ向テ汝ハ其貧乏ニ嘆カンヨリハ寧ロ竊盜ヲ爲ス可シト云フカ如キ  
 ハ是レ未タ教唆者ナリト謂フ事ヲ得サルナリ何トナレハ教唆者ハ必  
 ラス被教唆者ノ精神上ニ勢力ヲ及ホスヲ要スルモノナルニ今例示セ  
 ルモノ、如キハ毫モ其勢力ヲ及ホサストハ云フコトヲ得サル可キモ其  
 助言ヲ受ケタル人ハ善惡是非ヲ識別スルノ能力ヲ有スルモノニシテ  
 是等ノ一言ニ由テ道理アル精神ヲ攪亂セリト云フ事ヲ得サルナリ故

ニ一般ノ場合ニ於テハ助言ハ教唆トナラサルナリ

然リト雖モ若シ其助言ニシテ被教唆者ノ精神ヲ刺撃スルニ足ル者ナ  
 ラシメハ亦タ以テ教唆ト云フヲ得可シ彼ノ家ハ黄金家ナリ入テ以テ  
 竊盜ヲナスヘシト云ヒ加之其貨財ノ所在ヲ告ケ之ヲ取ルノ方法ヲ教  
 ヘタルカ如キハ則チ被教唆者ノ精神ヲ聳動スルニ足ルノ勢力ヲ與ヘ  
 タルモノナレハ何如ソ之ヲ教唆者ト謂ハサルヲ得ンヤ由之觀之助言  
 ハ教唆者トナリ或ハナラサルノ場合アルモノナリ

○教唆者ヲ多數中ニ算入セサル理由及其効果

教唆者ヲ其犯數中ニ算入スル能ハサル理由ヲ辨ヘンニ元來教唆者ハ  
 智力ノ働キヲ爲シ被教唆者ハ体力ノ働キヲ爲スモノナレハ互ニ相繫  
 疊シテ離レサルコト恰モ一人ノ如シ是レ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲サ  
 ル所以ナリ例エハ第三百七十九條ノ場合ニ於テ甲者乙者ヲ教唆シ

テ強盜ヲ犯サシメタル如キ其發意決定ハ甲者ニシテ之ヲ決行シタルハ乙者ナルヲ以テ其所行一人ニテ爲シタルト同一ナルニ因リ甲者ヲ算入シテ二人ト爲サ、ルナリ  
之ニ反シテ二人以上ナルハ罪ヲ犯スニ容易ニシテ之ヲ防禦スルニ難シ從テ社會ノ畏懼心ヲ生スル多シ故ニ刑罰モ重カラサルヲ得ス

○刑ノ因テ起ル原因

凡ソ事因アリテ果アルハ自然ノ數ニシテ犯者アリテ被害者アリ被害者アリテ後刑罰アルナリ是ヲ以テ犯者ナケレハ被害者アル事ナク被害者ナケレハ犯罪者アルコトナシ犯罪ナケレハ以テ刑罰アラサルヤ明ナリ故ニ刑ノ原因ハ人ノ惡所爲即チ道德ニ反キ社會ヲ害スル所爲ナリ然レモ加害ノ點ノミヲ以テ刑ノ起因トナルコトアリ是レ理由ナキニ非ス人ノ社會ヲ成スヤ事ヲ未發ニ注意スルハ互ノ義務ナリ然ルニ

疎虞懈怠ヨリ大害ヲ生スルハ心ニ快キカ焉ソ良心ニ耻ツル所ナラシヤ由之觀之冥々裡ニ道德ニモ背ク所爲ト云フ可シ

○確定裁判ノ後犯シタル者ハ總テ再犯加重ノ例ニ從フ可キヤ再犯トハ同質異質ノ所爲ニ拘ハラス初犯己ニ確定裁判ヲ經テ而シテ再犯シタルハ凡テ再犯ヲ以テ加重スルモノナレモ茲ニ變則アリ即チ囚徒逃走罪ノ如キ是ナリ刑法第百四十三條ニ已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セスト此條ハ人之チ一見シテ或ハ怪ムコトナキヲ保セス何トナレハ其逃走シタル囚徒ハ己ニ犯罪ノ處刑ヲ受ケ爲ニ獄舎ニ繋カレタルモノニシテ更ニ犯罪ヲ犯セルニ依リ必スシモ再犯者タラサルヲ得サルカ如キヲ以テナリ然レモ此再犯ニシテ刑ヲ加重スルノ情狀トナラサルモノハ犯者己ニ捕ニ就キ牢獄ニ入り自由ヲ束縛セラレ其位變更シテ後チ犯シタルモノニシテ此罪ヤ囚人ニ

非ルヨリハ決シテ常人ノ犯シ能ハサル罪ニシテ犯者ハ已ニ非常ノ位  
置ニ在ル者ナリ囚人ハ常ニ此非常ノ位置ヲ免レ自由ヲ得ンヲ求ム  
ルハ人情止ム可ラサル所ニシテ乃チ犯罪ヲ構成スル所爲中ノ一ナル  
カ故ニ加重セサルナリ然レモ囚人ニシテ盜ヲ爲スカ如キ人情止ム可  
キ他罪ヲ犯シタル片ハ再犯ヲ以テ加重スルナリ

○犯罪ノ原素ハ如何ナルモノナルカ理由ヲ付シテ答フ可シ  
此原素ヲ知ラント欲セハ法律博士ナルトラン氏ノ説ニ從フニ若クナ  
キナリ其説ニ曰ク凡ソ犯罪ノ原素トナルヘキモノ五個アリ

- 第一 事實
- 第二 方法
- 第三 時
- 第四 場所

第五 結果

第一事實トハ人ノ財物ヲ盜ミ或ハ人ヲ殺シタル等ノ如キ是ナリ此等  
ノ事實タル其類甚タ多ク隨テ亦種々ノ犯罪アリ即チ第二編以下ニ掲  
クル所ノモノ、如シ然リ而シテ此事實ハ必ス外面ニ現ハル、ヲ要ス  
若シ其事實ノ未タ外面ニ現ハレサル者ハ法律上ノ事實ニ非サルナリ  
如何トナレハ人ヲ殺サント思慮シ或ハ人ノ財物ヲ盜マント欲スルカ  
如キ内部ノ發動ハ唯道德ニ反スルノミニシテ未タ社會ヲ害スルノ點  
ニ達セサルヲ以テ犯罪ト云フ可ラサレハナリ  
第二方法トハ豫備ノ所爲ナリ此方法モ第一ノ事實ト同ク犯罪ヲ構成  
スルノ一原素トナルモノナリ此方法ノ如キハ千態萬狀實ニ枚擧ニ遑  
アラサルヲ以テ之ヲ豫見スル能ハサルナリ故ニ立法者ノ明識ト雖モ  
一々之ヲ法律上ニ明示スル能ハス唯其概畧ヲ掲ケ他ハ裁判官ヲシテ

其情狀ニ因リ刑ノ長短期ノ間酌量減輕等ニ於テ輕重セシム而シテ立法者ノ律ニ明記シタル者ハ方法中最モ著シキ者ニシテ豫メ認知シ得タルモノナリ

第三時トハ之ヲ二様ニ解釋スルコトヲ得例エハ人ヲ殺スニ直チニ殺スト豫メ謀テ殺ストヲ問ハス何レモ幾分ノ時ヲ要スルモノニシテ即チ人ヲ殺シテ生キサル時或ハ人ノ家屋ヲ燒燬シテ其家ノ現存ナキ時ノ如キ是ナリ立法者ニ於テ罰スルハ第一段ニ在リテ第二段ノ時ニ非ルナリ然レモ或ハ場合ニ於テハ犯罪ノ一原素トスルコトアリ第三百二十二條ノ監禁ノ場合ノ如キ是ナリ殊ニ最モ著シキハ但書ニ於テ監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フトアリ是故ニ時亦犯罪ノ一原素トナルモノナリ

第四場所トハ内國ナルカ或ハ外國ナルカ又人家ナルカ若クハ公然タ

ル所ナルカ等ノ如キ是ナリ此等ハ犯罪ノ一原素トナルモノニシテ又裁判管轄ヲ定ムルニ最モ必要ナリ場所ハ唯リ刑ヲ加減スル一原素トナルノミナラス犯罪ヲ構成スルニ緊要ナルモノニシテ場所ナケレハ或ハ犯罪ヲ構成セサル事アリ例エハ公然猥褻ノ所業ヲ爲ス罪ノ如キ其場所ノ公然タルニ非サレバ罪トナラサルナリ

第五結果トハ惡結果ノコトニシテ惡結果ノ生セサル片ハ罪トナラサルナリ而シテ直接ト間接トノ別アリ直接ノ結果トハ財物ヲ盜ミ取ラレタルカ或ハ人ノ殺サレタル等ノ如ク直ニ生スル者ヲ云フ間接ノ結果トハ犯罪アリタルカ爲メ之ニ因テ世人ノ畏懼心ヲ生スル如キ間接ニ來ル者ヲ云フ所謂社會ノ害トハ則チ此間接ノ結果ニシテ刑ノ基礎ハ專ラ此點ニ在リ然レモ刑名ヲ附スルハ直接ノ結果ニ因ルモノナリ又犯罪ノ結果ニ因テ其刑ヲ減輕シ或ハ加重スルモノハ是皆直接ノ結果ニ

因ルモノナリ

◎曲庇ノ偽証ト陷害ノ偽証ニ付刑ノ異ナル理由

夫レ惡心ノ程度ニ至テハ曲庇ノ偽証ハ陷害ノ偽証ヨリモ其惡遙カニ鮮少ナリ何トナレハ人ヲ曲庇セントスルノ偽証人憐愍又ハ愛恤ノ感心ヨリ發スル者最モ多クレハ人ヲ陷害セントスルノ偽証人ハ怨望又ハ復讐ノ念ヨリ發スル者ヲ以テ尤モ多シトスレハナリ  
良シヤ二者ノ心底ハ共ニ慾情ヨリ發セル時ト雖モ人ヲ曲庇セントスルノ罪ハ人ヲ冤罪ニ陷レントスルヨリ常ニ輕ク視サル可ラス亦社會ノ害惡ノ評議ニ於ケルモ均ク第一ノ場合ハ第二ノ場合ヨリ淺少ナリ何トナレハ有罪ノ人ヲ曲庇シテ刑罰ヲ免レシムルハ無罪ノ人ヲ冤罪ニ陷ルヨリモ社會ノ人心ヲ動搖スルト鮮ケレハ從テ刑モ異ナラサル可ラサルナリ

◎賄賂罪ノ要件

賄賂罪ヲ構造スルニハ左ノ三原素ヲ要ス

第一 官吏タルヲ

第二 現ニ賄賂ヲ收受スルヲ

第三 職務中ノ一處置ヲ爲スニ關シ賄賂ヲ受クル事

賄賂罪ニハ先ツ官吏タルヲ必要トス故ニ官吏ニ非スシテ賄賂ヲ收受セハ詐欺取財トナリ或ハ罪トナラサルヲアリ假令ハ醫師鑑定人鑑定事件ニ付賄賂ヲ收受スルモ官吏ニアラサルヲ以テ此罪ニ非ラス故ニ此罪ヲ構造スルニハ官吏ニシテ其職務中ノ一處置ヲ爲スニ關シ賄賂ヲ收受スルヲ要ス假令其處分ヲ枉ケサルモ罰セサル可ラス何トナレハ官吏タル者常ニ職務ヲ行フカ爲メ政府ヨリ其給料ヲ受ケ人民ヨリ贈物ヲ受ケ二重ノ利益ヲ得ルノ理ナシ豈如此不正ノ所爲ヲ罰セスシ

テ可ナランヤ

○貨幣偽造ト變造ニ付キ刑ノ異ナル理由

刑法第百八十二條ノ一項ト二項ト其刑ヲ異ニスルハ理由ナキニ非ス此犯罪タル道德ニ悖戾スルノ度ハ同一ナリト雖モ社會ノ損害ニ至テハ甚異ナレリ偽造ハ其鑄形ヲ製シ得タル上ハ一舉シテ許多ノ偽貨ヲ製造スルヲ得可シト雖モ變造ニ付テ其貨幣一個毎ニ各々多少ノ時間ト製作トヲ要スレハナリ

○婦ノ姦罪ヲ罰シ夫ノ姦罪ヲ罰セサル理由

我國刑法第三百十一條第三百五十三條ヲ看ルニ婦ノ姦罪ヲ罰シテ夫ノ姦罪ヲ罰スルナシ夫婦ノ間待遇ノ差異如此ハ理由ナキニアラス抑モ夫ノ姦罪ハ其適正ノ婦ニ其血統ニアラサル相續人ヲ與フル事決シテコレナク然ルニ婦ノ姦罪ハ之ニ反シテ他ノ血統ヲ宿シ其夫ニ著

大ナル危險ヲ附スルモノナリ其他夫ノ女妾ヲ貯フルト婦ノ男妾ヲ貯フルトハ夫婦ノ權利及品位ニ影響ヲ及ホス甚々差異アリ是レ其理由ノ基ク所ナリ

○重婚罪ヲ構成スル條件及其理由

重婚罪ハ簡單ナル左ノ三條件ヲ以テ構成ス

第一 前婚ノ消滅セサルコト

第二 前婚ノ成立ヲ知了スルコト

第三 適正ノ式ヲ用イタルコト

第一已ニ離婚シテ他所ニ結婚スルモ前夫ト更ニ關係之レナク故ニ前夫ノ權利及品位ヲ害スルコトナシ然レモ前婚ノ未タ消滅セサルニ再婚スル時ハ前夫ニ大害ヲ附スルニ由ルナリ

第二夫ノ一時ノ憤怒ニ因リ三行半ノ離縁狀ヲ受ケ以テ眞ニ離縁サレ

タルコト、思考シ更ニ他家ニ再婚スルモ未タ其罪ヲ構造セサレトモ若シ夫ノ憤怒ヲ幸ヒニ逃走シテ他家ニ再婚スルハ其罪免カレサルナリ  
第三前夫ヲ棄テ、他家ニ再婚スルモ未タ三々九度ノ正式ヲ行ハサ  
ルハ姦通罪トナルモ此罪ヲ構造セス故ニ千秋万歳ノ正式ヲ要スルナ  
リ

○猥褻ト姦淫トノ區別

猥褻ノ所業ト姦淫トハ區別アリテ猥褻ノ性質ハ立法者モ豫メ之ヲ定  
ムル能ハス一ニ裁判官ノ認定ニ委ス夫レ姦淫ハ交合ヲ目的トスレハ  
男女相俟ニ非サレハ行フ能ハサレテ猥褻ノ所業ハ男ヨリ男ニ對シ女ヨ  
リ女ニ對スル時ト雖モ爲シ得キナリ改定律例ニ於テハ鷄姦罪アリ  
シカ此刑法ハ之ヲ規定セサルヲ以テ或ハ之ヲ廢セシカヲ疑フ者アレ

テ決シテ然ラス猥褻ノ所行中ニ含有スル者ナリ

○刑法管轄區域

- 第一 刑法ノ問フ所ノ事如何
  - 第二 已往將來ニ付刑法ノ管スル時如何
  - 第三 刑法ノ管スル處内外ノ別ナキヤ如何
  - 第四 刑法ニ管スル人内外人ノ別ナキヤ如何
- 第一ハ刑法第一條第二條ニ記載セリ即チ背徳加害ノ所爲ニシテ正條  
ニ適應スルモノハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルナリ  
第二ハ刑法第三條ニ掲載セリ即チ刑ノ効力ハ將來ニ及ホスヲ目的ト  
スレトモ又犯人ノ已得權ヲ害セサル上ハ已往ニ及ホス者ナリ  
第三第四ハ未タ一定セス是レ治外法權アルニ職由スルナリ條約改正  
ノ後ハ必然是レカ一定ノ規矩アル可キナリ然レテ今日ハ唯其時ノ摸

様ニ由テ之ヲ定ムルニ過ス

○罰金ハ裁判確定ノ後直チニ徴収セスノ猶豫ヲ與フルノ理由凡ソ刑ハ裁判確定シタル后即チ上訴期限ヲ經過シ又ハ上訴ヲ爲シテ其裁判アリタル後ニ非サレハ執行ス可ラサルハ是レ刑法ノ原則ナリ而シテ罰金ハ他ノ刑ト異ナリテ裁判確定スルモ亦直チニ徴収スルコトナク尙三十日ノ猶豫ヲ與ヘテ之ヲ完納セシム是亦刑ハ一身ニ止マラシムコト欲スルノ意ナリ若シ即時ニ完納セシムルニ於テハ貧困者ハ己レ一人究迫スルノミナラス此金額ヲ調達センカ爲メ其家族ヲシテ或ハ活路ヲ失フニ至ラシムルノ恐アリ且多少ノ資産アルモノト雖モ常ニ金圓ハ貯藏スルモノニ非ス是レ世間自然ノ情勢ニシテ就中商家ノ如キハ金圓ニテ若干ノ猶豫期限ヲ與ヘザルヲ得サルナリ

### ○禁治産

禁治産トハ財産ニ關スル私權ノ施行ヲ停止スルノ謂ナリ即チ契約賣買贈與貸借等總テ財産ヲ處分スル權利ノ執行ハ一切之ヲ禁シタル者ナリ然シテ其之ヲ禁シタル所以ハ蓋シ理由アリテ存ス夫レ被刑者ヲシテ自ラ財産ヲ治ムルコトヲ得セシムルハ事已ニ被刑者ノ位置ト矛盾シ又刑ノ効用ニ害アリ何トナレハ被刑者ハ常ニ獄舎ニ在ル者ニシテ財産ノ處分ハ必ス外人トノ關係ヲ要シ且財産施用ニ依リ屢々刑ノ嚴正ノ執行ヲ免レ其甚シキハ賄賂ヲ以テ脱獄ヲ圖ル等ノ恐アレハナリ

### ○剝奪公權

剝奪公權トハ身分並ニ能力ニ關スル權利ヲ剝奪シテ社會ノ門戸ヲ鎖シ他日良民タラント欲スル念ヲ拒絕シテ容レサル刑ナリ而シテ此權ニ二類アリ其一ハ天然ヨリ得ル所ノモノニシテ人生ト有無ヲ共ニシ

### 刑法



以テ人類ノ人類タル所以ヲ成サシムル者即チ父母ノ權子孫ノ權ノ如キ是ナリ其二ハ天然ヨリ得ルト雖モ社會ノ存スルニ因テ其成跡ヲ現ハスモノ即チ社會ノ組織ニ從テ多少ノ伸縮ヲ爲スモノ是ナリ其第一ハ奪フ可ラス其第二ハ奪フヲ以テ一刑ト爲スヲ得可シ我剝奪公權ハ即チ是ナリ

○刑法第四十七條ノ連帶義務ハ如何ナル理由ニ基クヤ  
連帶トハ二人相互ニ義務ノ全部ヲ負擔スルモノニシテ例エハ二人ニテ一千圓ノ金ヲ借用スル片債主ヨリ其中一人ニ係ルモ義務ノ全部即チ一千圓ヲ請求スルヲ得ル者ニシテ共犯ノ時ハ各人互ニ全部ニ付裁判費用贓物ノ返還及ヒ損害ノ賠償ヲ爲スヘキノ責ヲ有ス故ニ連帶ハ義務者互ニ代理ヲ托シ又互ニ代理ヲ爲シ連合團結シ數人猶一人ノ如キ者ナリ其一人ニシテ全体ノ爲メニ其責メニ任セサル可ラス故ニ其

一人義務ヲ盡ス時ハ各人皆其義務ヲ免カル可キナリ而シテ連帶ハ契約上ヨリ成立スル事ヲ得ル者ナレハ法律上ヨリ無論成立スルモノニシテ本條ハ即チ法律上ヨリ命シタル連帶ナリトス

○刑期限内ト刑期限外トノ區別

元來刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スルナリ故ニ裁判確定シ刑ノ執行ヲ始メタル以后已決囚徒ノ逃走シタル者ノミナラス裁判確定セス刑ノ執行ヲ受ケサル未決囚徒ノ逃走シタル者モ亦其逃走刑名宣告ノ日以后ニ係ル片ハ刑法第五十二條ノ例ニ據リ通算法ヲ用ヒサル可ラス刑期限内ト刑期限外トノ別ハ公訴ナキ場合ニハ常ニ刑名宣告ノ日ノ前後ヲ以テ之ヲ分ツ故ニ刑名宣告ノ日ヨリ一日二日ヲ經テ逃走シタル者ハ其實刑ノ執行ハ之ヲ受ケシコトナシト雖モ其一日二日ハ之ヲ受刑ノ日ト看做シ刑期中ニ算入スルナリ

○復権ヲ得タル片ハ特別法ノ權利モ回復スルヤ  
 復権トハ嘗テ失墜シタル權利ヲ勅裁ニ因テ回復スルモノナレハ之ヲ  
 得タル者ハ純然タル日本ノ良民ニシテ第三十一條ノ全公權ヲ有スル  
 而已ナラス特別法ニ從テ府縣會選舉人被選舉人タルヲモ得可ク代  
 言人タルヲモ得可キハ疑ヲ容レサルナリ辭ヲ換エテ之ヲ云ヘハ復  
 権ハ其勢力定トニ廣大ニシテ特別法ニ規定セル不能力ニモ其効果ヲ  
 及ホスヤ疑ヲ容レサルナリ

○加重減輕二等以上ニ及フ時ノ處分法  
 此問題ハ實際上極メテ重要ノ關係アリテ議論ニ派ニ分レリ其一ハ本  
 刑ノ刑期全額ノ四分ノ二若クハ四分ノ三ヲ加減スルノ義ナリト其二  
 ハ已ニ一等ヲ加減シタルモノヲ本トシテ更ニ一等ヲ加減シ順次常ニ  
 四分ノ一宛ヲ加減スルノ義ナリト然レモ立法者ノ意ハ其一ヲ採ルノ

義ナリシト云フ

○從犯罪ヲ組成スルニ必要ナル條件及其理由

- 從犯罪ヲ組成スルニハ左ノ五條件ヲ必要ナリトス
- 第一 正犯ノ行フタル所爲ノ重罪輕罪ナル事
- 第二 其情狀ヲ知ル事
- 第三 積極ノ所爲ヲ以テ幫助シタル事
- 第四 其幫助ハ犯罪ヲ行フ以前ニ在ル事
- 第五 犯意ヲ惹起シタルニ非サル事
- 第一法律ハ違警罪ニ從犯ヲ設ケス故ニ該罪ヲ犯スノ情實ヲ知テ之レ  
 カ幫助ヲ爲スモ從犯トシテ罰セス即チ從犯ハ重罪輕罪ニ限レハナリ  
 是レ第一條件ヲ要スル所以ナリ
- 第二從犯ノ責任ヲ負ハシムルニハ正犯カ罪ヲ犯スノ情實ヲ知ルヲ要

ス若シ夫レ然ラスンハ吾人ハ心ヲ安シテ物件ヲ貸與シ又ハ談話ヲナス能ハサルニ至ルヘシ蓋シ人ニ刀劍ヲ貸與シ又ハ其家ハ何處ノ戸締堅固ナラスト談話セシニ何ソ圖ラン其人其刀劍ヲ以テ強竊盜ヲ行ヒ又ハ其戸締ノ堅固ナラサル所ヨリ忍ヒ入り盜賊ヲ犯シタルカ如キ場合ニ於テモ猶刑罰ヲ受ケサルヲ得サレハナリ是第百九條ニ重罪輕罪ヲ犯スヲ知テトアル所以ナリ

第三犯罪ノ幫助ハ積極ナラサル可ラス消極ノ幫助ハ以テ從犯トナス可ラス茲ニ人ヲ殺サントスル者アリ之ヲ救フハ一舉手一投足ノ勞ナリト雖モ之ヲ殺サシメント欲シテ敢テ救ハス是等ノ場合ハ消極ノ幫助ナレハ則チ其救ハサルヲ以テ從犯ナリトスルヲ得ス是レ第三條件ヲ要スル所以ナリ

第四正犯カ己ニ其罪ヲ行フタル后ノ幫助ハ以テ從犯ト爲ス可ラス蓋シ從犯ハ正犯ノ罪ヲ行フヲ容易ナラシメタル所爲ヲ罰スル者ニシテ己ニ罪ヲ行フタル後ノ幫助ヲ罰スルニ非サレハナリ是第四條件ヲ要スル所以ナリ

第五正犯者ノ犯意ヲ惹キ起シタル者ハ教唆者ニシテ從犯ニ非ス蓋シ從犯ハ己ニ犯意ヲ決定シタル正犯ノ行フ罪ヲ幫助スルニ過キス是レ第五條件ヲ要スル所以ナリ

○罰金ハ其目的本犯者ニ痛苦ヲ與フル所ノ刑ナリ然ルニ刑法第二十七條ニ於テ代償ヲ許セリ其理由如何

刑法第廿七條ニ於テハ他人代リテ償ヒタル片ハ禁錮ヲ免ストアリテ實ニ奇ナルカ如シト雖モ抑モ亦其之レヲ許サ、ルヲ得サルノ理由アリ若シ代償ヲ許サ、レハ親類又ハ他人ヨリ借入レ亦ハ贈與ノ名義ヲ以テ之ヲ納ムルニ至レハ其名義異ナルノミニテ犯者自ラ納ムルモ親

族代リテ納ムルモ其結果ニ至リテハ異ナルヲ見サレハナリ然レモ義  
捐金ノ方法ニテ代償ヲ許サス何トナレハ罰スルモ社會ニシテ其募集  
ニ應スル者モ社會ナレハ道理上前后矛盾セルモノニシテ實ニ法律ノ  
尊嚴ヲ瀆スモノナレハナリ

○附加刑ノ性質

附加刑ハ本來主刑ノ及ハサル處ヲ補充シ主刑ト相俟テ完全ノ一刑ヲ  
爲スモノナルニ因リ之ヲ身體ニ及ブノ刑タラシメハ其設立ノ本旨ニ  
反キ一罪ニ刑ノ結果ヲ生スルニ至ル故ニ附加刑ハ必ス權利ニ及ブノ  
刑タラサラシメサル可ラス

○褫奪公權ヲ設ケシ理由

公權ヲ褫奪セラレタルモノハ生レナカラニシテ得タル權利ヲシテ行  
フヲ得サラシムルモノナリ而シテ此權利ヲ奪フ者ハ係ル重大ナル

罪ヲ犯ス者ニ重大ノ權利ヲ行ハシメハ此等ノ權利ヲ行フ義務トシテ  
罪ヲ働ク事ヲ得ルニ至ル可シ故ニ此權利ヲ褫奪シテ惡事ヲ働クノ道ヲ  
防キ且ツ痛苦ヲ感セシムルナリ然レモ是ハ分割ス可ラサルヲ以テ刑  
ノ性質上不都合ナルモノナリ又不同ナルモノナリ何トナレハ之ヲ奪  
フテ以テ大ニ耻辱トスル者アリ又何ノ感覺ヲ起サ、ル者アレハナリ

○監視中犯人ノ遵守スヘキ條件

- 一 毎夜兩度警察ニ至リ謹慎ナルヲ表シ監視表ヲ出シ官吏ノ認印  
ヲ受ク可シ
- 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スル事ヲ許サス
- 三 移轉セントスルニハ警察官ノ許可ヲ受ク可シ
- 四 猥リニ他地方ヲ旅行スル事ヲ許サス止ムヲ得サル事故アルハ  
警察署ニ具伸シ許可ヲ受ク可シ

○治外法權トハ如何

彼ノ我ニ對スル語ニシテ我ヨリ彼ニ對スルノ語ニ非ス即チ之ヲ換言セハ外國人ハ日本法律ヲ守ル可キノ責ナシト云フニ在リ而シテ此事ハ日本人原告ナルハ外國領事ニ之ヲ訴ヘ外國人原告ナレハ日本裁判所ニ之ヲ訴フル者トス故ニ刑事ニ在テハ君主權ノ一部ナル裁判權ヲ害セラレ民事ニ在テハ貴重ナル維持權ヲ害セラレ、者ナリ

○公使ノ治外法權ヲ有スル理由

公使ナルモノハ其國君主ヲ代表スルモノニシテ我國ノ爲メ好義ヲ全フシ平和ヲ維持スル爲メ其他種々委任ヲ負ヒタル者ナリ故ニ獨立シテ何人タリトモ犯スヲ得サルノ權利ヲ有セラレハ遂ニ非理ニ束縛セラレ其君主ヲ辱メ其目的ヲ達スル事ヲ得サルカ故ナリ

○君主權衝突ノ場合ニ於テノ所分方法

第一 一國ノ管轄内外ハ君主權ノ及フヤ否ヤヲ以テ之ヲ分ツ故ニ大洋ハ何國モ之ヲ所有スルヲ得サルモノナルヲ以テ先ツ差押ヘテレタル國ニ於テ之ヲ處分ス

第二 軍艦及其國ノ所有ニ係ル船舶ハ假令ヒ他國ニ至ルト雖ヒ君主權ノ延長セルヲ以テ治外法權ヲ得ルモノトス

第三 一私人ノ船舶ナレハ他國ノ管轄ニ屬スルハ原則ナリ然レヒ其國ノ直接ノ害ヲ受ケサルニ於テハ之ヲ罰スルノ限リニ非ス

○沒収物件ノ種類

第一 法律ニ於テ禁制シタル物件

個ハ製造産出私有ヲ禁シタル物件ヲ云フ而シテ是ハ明文ヲ以テ禁スルモノアリ又ハ暗ニ禁シタル者アリ即チ暗ニ禁スルトハ偽造貨幣ノ如キハ禁スルノ明文ナキモ暗ニ之ヲ禁スル者ト謂ハサルヲ得サルナ

刑法

リ

第二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

第三 犯罪ニ因テ得タル物件

○銃砲彈藥ハ禁制物ニ非サルヤ

銃砲彈藥ハ禁制物ニ非ス而シテ之ヲ罰スルハ只官許ヲ得スシテ密造シタル點ヲ罰スルナリ何トナレハ官許ヲ得シニハ製造若クハ販賣スルヲ得サレハナリ又ダイナマイトノ如キモ是ナリ

○罰金ヲ禁錮ニ代ユルニ付キ檢察官ノ全權ニアリト否トノ二說アリ何レカ適當ナルヤ

檢察官ノ要メニ依リテ之ヲ換ユル而已ニシテ若シ檢察官カ之ヲ請求セサレハ許サ、ルモノトス故ニ其被刑者ハ罰金ニ不足ヲ生スルハ檢察官ハ裁判所ニ其財産差押ヘテ請求シ裁判所ヨリハ其郡區長ニ照

會シ被刑者ノ財産ノ有無ヲ調へ普通ノ式ニヨリ差押ヲ爲シ檢察官ニ於テ猶ホ足ラサルハ則チ換刑ヲ請求スル者ナリ之レ現行ノ裁判實際ノ手續ニシテ法律諮問ニテ已ニ確定シ居レリト依之觀之檢察官ノ全權ニ在リト云フ可シ

○通常ノ禁錮ト罰金ヲ禁錮ニ代エシ時トノ差異

換刑ノ場合ニ於ケル禁錮ハ停止公權其他權利ニ影響ヲ及ス可ラス例スレハ特別法ニテ禁錮以上ニ處セラレタル者ハ府縣會議員トナル事ヲ得スト雖モ換刑ノ禁錮ニハ之ヲ適用ス可ラス何トナレハ資力アルモノハ禁錮ニ處セラル、ノ恐レナク從テ法律上ノ惡結果ヲ受ケスト雖モ資力ナキモノハ禁錮ノ刑ヲ受クル而已ナラス公權ヲ停止セラレテ無能力者トナルトスルハ實ニ不都合ノ極ト云フ可シ故ニ換刑ト禁錮ト通常ノ禁錮トハ同一ニ論スルヲ得ス換刑ノ禁錮ハ法律上公權

リ

第二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

第三 犯罪ニ因テ得タル物件

○銃砲彈藥ハ禁制物ニ非サルヤ

銃砲彈藥ハ禁制物ニ非ス而シテ之ヲ罰スルハ只官許ヲ得スシテ密造シタル點ヲ罰スルナリ何トナレハ官許ヲ得シニハ製造若クハ販賣スルヲ得サレハナリ又ダイナマイトノ如キモ是ナリ

○罰金ヲ禁錮ニ代ユルニ付キ檢察官ノ全權ニアリト否トノニ説アリ何レカ適當ナルヤ

檢察官ノ要メニ依リテ之ヲ換ユル而已ニシテ若シ檢察官カ之ヲ請求セサレハ許サ、ルモノトス故ニ其被刑者ハ罰金ニ不足ヲ生スル片ハ檢察官ハ裁判所ニ其財産差押ヘテ請求シ裁判所ヨリハ其郡區長ニ照

會シ被刑者ノ財産ノ有無ヲ調へ普通ノ式ニヨリ差押ヲ爲シ檢察官ニ於テ猶ホ足ラサル片ハ則チ換刑ヲ請求スル者ナリ之レ現行ノ裁判實際ノ手續ニシテ法律諮問ニテ已ニ確定シ居レリト依之觀之檢察官ノ全權ニ在リト云フ可シ

○通常ノ禁錮ト罰金ヲ禁錮ニ代エシ時トノ差異

換刑ノ場合ニ於ケル禁錮ハ停止公權其他權利ニ影響ヲ及ス可ラス例スレハ特別法ニテ禁錮以上ニ處セラレタル者ハ府縣會議員トナル事ヲ得スト雖モ換刑ノ禁錮ニハ之ヲ適用ス可ラス何トナレハ資力アルモノハ禁錮ニ處セラル、ノ恐レナク從テ法律上ノ惡結果ヲ受ケスト雖モ資力ナキモノハ禁錮ノ刑ヲ受クル而已ナラス公權ヲ停止セラレテ無能力者トナルトスル片ハ實ニ不都合ノ極ト云フ可シ故ニ換刑ト禁錮ト通常ノ禁錮トハ同一ニ論スルヲ得ス換刑ノ禁錮ハ法律上公權

ヲ停止スルノ權ナシト雖モ實際上ヨリ見レハ獄中ニ在ルヲ以テ公權  
ヲ行フ事ヲ得ス

以上ノ如クナレハ通常刑ノ如ク假出獄ノ恩典ヲ受クルコトナシ何トナ  
レハ假出獄ハ改悛ノ情アルカ爲ナリ然ルニ換刑ノ禁錮ノ場合ニ於テ  
ハ只一時財産上ヨリ被刑者ヲ苦ムルモノニシテ假令改悛ノ情アルモ  
眞正改ムルコトナカルヘシ又換刑禁錮ニ於テハ二年以上ニ上ル可ラス  
若シ金額ノ多キト共ニ或ハ數十年ノ禁錮ニ代エンカ輕キ犯人ニシテ  
却テ甚タ重キニ至リ大ニ權衡ヲ失スルニ至ラン故ニ如何ナル多額ノ  
金錢ナリトモ二年ヲ極點トシ二年ヨリ上ルコトヲ得サルモノト規定セ  
シナリ

## 治罪法之部

### ○公訴

公訴トハ私訴ニ對スル語ニシテ或官吏カ君主若クハ社會ノ名義ヲ以  
テ犯罪ヲ訴フル刑事訴訟ノ名稱ナリ而シテ其之ヲ公訴ト名クル所以  
ハ社會ノ爲メ及ヒ社會ノ名義ニテ行フカ故ナリ

### ○公訴ノ發生及其性質

社會ニ公訴權ヲ有スル所以ハ自己ノ秩序安寧ヲ保護スルカ爲メ必要  
ナル法律ヲ制定シ若シ之ヲ犯ス者アレハ之ニ對シテ制裁即チ刑罰ヲ  
要求スルノ訴ヲ生ス治罪法第一條及草案註釋ニ因レハ公訴ノ目的ハ  
犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スト恰モ其目的ニアルカ如シト雖モ公訴ノ直  
接ナル目的ハ專ラ刑ノ適用ニ在リトス其理由ハ刑ヲ適用スルニハ必  
ズ犯罪ナカル可ラス蓋シ犯罪ハ公訴ノ原因ニシテ犯罪無リセハ公訴

### 治罪法



發生スルノ理ナシ故ニ犯罪ヲ證明スルハ刑ヲ適用スルニ最モ必要ナル手續ニシテ其手續ハ治罪法ノ定ムル所ナレハ以テ治罪ノ目的ト爲スハイザ知ラス之ヲ以テ直チニ公訴ノ目的ト爲ス可キ者ニ非サルナリ

○公訴權ヲ行フ方法

犯罪トハ總テ社會ノ安寧秩序ヲ害スル者ナリ而シ社會ハ集合体ニシテ一ノ無形人ナリ故ニ躬自ラ犯罪ニ因リ生シタル公訴ヲ行フ事ヲ得ス抑モ公訴權ヲ實行スルニ付テハ獨立公平一體ノ三性質ヲ具備セサル可ラス或ハ之ヲローマ古代ノ如ク被害者ニ屬セシメンカ或ハ犯人ノ悍惡ヲ恐レ或ハ資力ノ爲メニ枉ゲラレ言フニ忍ヒサルノ弊害ヲ來サシ故ニ社會ノ秩序ヲ維持シ安寧ヲ保護スルノ任アル政府ヨリ檢察官ナル者ヲ設ケテ社會ニ代リ公訴權ヲ行ハシムル所以ナリトス

○公訴ノ提起及實行

公訴ノ提起トハ裁判官ヲシテ公訴ヲ受理セシムルノ手續ヲ云フ  
公訴ノ實行トハ公訴ノ目的ヲ達センカ爲メノ總テノ手續即チ犯罪者ニ對シテ刑ノ適用ヲ爲サシムルニ必要ナル總テノ手續ヲ云フ  
公訴ノ提起ハ刑罰權ノ實行ニ關スル最初ノ手續ニシテ此權ヲ行フ者ハ檢察官ノミナラス被害者或ハ豫審判事モ之レヲ爲スヲ得ルモノナリ實行ハ公訴ノ終局ニ至ルマテノ手續ヲ包含スル者ニシテ只々檢察官獨リ此ノ權ヲ有スルノミ佛法ニ依レハ稅關官吏モ公訴實行ノ權ヲ有スル者トセリ

○檢察官起訴ノ自由ト云フ原則ノ例外

第一 司法大臣ノ命令アル時

第二 檢事長ノ命令アル時

治罪法

第三 現行犯ノ場合ニ於テ豫審判事自ラ豫審ノ手續ヲ爲シタル時

第四 豫審判事被害者ノ民事原告人タルノ申立ヲ受理シタル片

第五 法廷内ノ犯罪

檢察官ニ於テハ假令其所爲ハ罪トナラサル者ト思料スルモ以上ノ場合ニ於テハ必ラス起訴ヲ爲シ實行ノ手續ヲ爲サ、ル可ラス(倘シ第一第二ノ場合ハ唯命令ノミニシテ未タ公訴ノ提起無キカ故ニ實行ト提起トヲ爲サ、ル可ラサルモ第三第四ノ場合ニ於テハ已ニ公訴ノ提起アリタルモノナレハ最早提起ヲ爲スニ及ハス實行ノ手續ヲ爲ス可キ而已)然レモ檢察官ハ公訴實行中有罪無罪ノ意見ヲ陳述スルニ方テハ長官ノ命令ニ踴躍スル事ナキナリ

○檢察官ハ公訴權ヲ有スルニ非ス只其權ヲ行フ而已ノ効果刑罰權ナル者ハ社會ノ有スルモノニシテ檢察官ハ社會ノ代理者トシ

テ其權利ヲ行フニ過キス故ニ左ノ結果ヲ生ス

第一 檢察官ハ公訴ヲ起スノ前或ハ公訴ノ審理中特ニ刑ノ言渡後ニ於テ其犯罪事件ニ付テ私和ヲ爲スノ權ナシ(佛國ニ於テハ稅官々吏ハ稅則ニ關スル犯罪ニ付テ和解ヲ許セリ)

第二 檢察官ハ公訴權ヲ他人ニ讓渡スノ權ナシ何トナレハ檢察官ナル者ハ自ラ此權ヲ所有セサレハナリ

第三 檢察官ハ已ニ起シタル公訴已ニ爲シタル上訴ニ付テ之ヲ停止スルノ權ナシ

第四 檢察官ハ其爲シ得可キ上訴ノ手段ニ付キ明暗ニ拘ハラヌ豫メ之ヲ抛棄スルノ權ナシ

○告訴告發

告訴トハ被害者又ハ其親族ヨリ司法警察官檢事又ハ豫審判事ニ犯罪

治罪法

ヲ通告スルヲ云フ

告發トハ被害者又ハ親族以外ノ人ヨリ司法警察官檢事又ハ豫審判事

ニ犯罪ヲ通告スルヲ云フ

○公訴權獨立ノ原則及其例外

公訴ハ被害者ノ告訴ヲ俟テ起ル者ニ非ス公訴權ハ社會ニ屬シテ檢察官ハ其代理トナリテ之ヲ行フ者ナレハ敢テ一個人ノ干涉ヲ受ク可キモノニ非ス故ニ風評告發相當官吏ノ調書等ニ依リ犯罪ノアル事ヲ認知スレハ被害者ノ告訴ヲ俟ツニ及ハス公訴ヲ起シ得可キナリ又公訴ハ告訴私訴ノ棄權ニ因テ消滅スヘキ者ニ非サルナリ然レモ左ノ例外アリ

第一 脅迫罪

第二 幼者ヲ略取誘拐スル罪

第三 猥褻姦淫ノ罪

第四 有夫姦ノ罪

第五 誹毀ノ罪

第六 牛馬外ノ家畜ヲ殺スノ罪

第七 公然人ヲ罵詈嘲弄スル罪

第八 他人ノ寫真版權ヲ侵ス罪

第九 他人ノ商標ヲ侵ス罪

第十 他人ノ專賣權ヲ侵ス罪

第十一 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ正誤ノ請求ニ應セサル罪

第十二 勅奏任官華族勳有位者ノ犯シタル罪

以上總テ被害者若クハ親族ノ告訴アルニ非サレハ公訴ヲ起ス事ヲ得

治罪法

今其理由ヲ述ンニ是等ノ犯罪ハ社會ヲ害スル大ナラスシテ専ラ被害者ノ利益ノ爲メニ罰スルモノナリ故ニ之ヲ罰シテ被害者ノ害トナル事アレハ爲メニ斟酌セサル可ラサルトアリ又被害者自分ニ非サレハ其犯罪ノ生立如何ヲ知ル能ハサルトアレハナリ

○被害者私訴ヲ爲サスシテ死去シタル時ハ私訴權ハ相續人ニ移ル可キヤ

本問ニ答ンニハ先ツ之ヲ左ノ三個ニ別チテ之ヲ述ン

第一 被害者ノ死去前ニ犯罪ノ生シタル場合ニシテ其犯罪カ被害者ノ財産上損害ヲ加ヘタルハ相續人ノ相續スル財産ニ關スルカ故ニ躬ラ直接ニ損害ヲ受ケタルト同一般ナレハ死者ノ名義ニアラストモ自己ノ名義ヲ以テ私訴ヲ記スヲ得可シ

被害者犯罪ニ因リ名譽ヲ損セラレタル場合ハ被害者本人自ラ私訴ヲ起シタル後死亡セシハ相續人ノ乏ヲ繼續スルヲ得ルハ勿論ナレモ先人私訴ヲ起サスシテ死去シタルハ法律ハ私訴權ヲ拋棄シタル者ト推測ス可キナリ又單ニ先人ノ名譽ヲ損シタル犯罪ニ依テ相續人ノ直接ニ損害ヲ蒙ルノ理ナシ是レ私訴ヲ起スヲ得ル所以ナリ

第二 犯罪ノ爲メ被害者死去シタル場合ハ相續人ハ私訴ヲ起シ得ルハ明カナリ何トナレハ人ノ生命ヲ奪フ所爲ハ常ニ其人ノ爲メニ回復ス可ラサル大害ヲ生スルナリ且假令其相續人ニ限ラス爲メニ損害ヲ蒙リタル者ハ私訴ヲ起スヲ得ヘシ例スレハ婦ハ夫ノ勞力ニ由リテ生活スル如キ或ハ人ヨリ余ニ向テ余ノ生存中ハ何年ナリトモ育費ヲ與フトノ契約アリシ場合ニ犯罪ノ爲

治罪法

メニ死去セシハ皆私訴ヲ起スヲ得若シ其犯罪ノ爲メ被害者數名アル時ハ各々私訴ヲ起スヲ得可キナリ

犯罪ノ被害者死去ノ原因ト爲リシ場合ニ於テ其近親故舊ハ爲

事

メニ愛情ヲ滅殺セラレ悲哀措ク能ハス之ヲ以テ理由トシ私訴ヲ起スヲ得トノ論者アレモ恐ラクハ非ナラン

第三

被害者タル人ノ死后ニ犯罪ノ生シタル場合ニ於テハ重モニ死者ヲ誹毀スル罪ニシテ刑法第三百五十九條ニ依レハ摘發シタル死者ノ惡事醜行ニシテ事實ニ適スルトキハ誹毀ヲ以テ處分セサルモノトス而シテ死者ニ對スル誹毀罪ニシテ敢テ誣罔ニ出サルモ歴史ノ爲ニスルニ非スシテ故意ニ相續人ヲ毀損セントスルニ出タルハ如何公然ノ演舌ニテ誹毀シタリト假定セシニ直接ニ誹毀セラレタルハ先人ナレモ其實重ニモ相續人ヲ

ヲ毀損シタルモノナレハ第三百五十九條ヲ適用スルヲ得サルモ三百五十八條ヲ適用スルヲ得同條人ヲノ二字ハ本人ノミナラス其惡事醜行ハ他人ニ係ルト雖モ以テ其人ヲ誹毀スルニ版スルハ尙該條ヲ適用スルヲ得可キナリ從テ相續人ハ其犯罪ヲ原因トシ自己ノ名義ニテ訴訟ヲ起スヲ得可キナリ

○正當防衛ヲ行ヒ以テ他人ニ損害ヲ加ヘ刑法上無罪ノ言渡ヲ受ケタルモノハ亦民事原告人ニ對シ損害ヲ賠償スルノ義務アリヤ

正當防衛ニ因リ他人ニ損害ヲ加フルハ不正ノ所爲ニ非スシテ各自ノ權利ニ從テ之ヲ行ヒタル者ナレハ決シテ其損害ヲ賠償ス可キノ義務ナキモノトス治罪法第八條ニ於テ被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムルノ云々トアレモ

治罪法

此條ノ指ス處ハ法律ニ正條ナクシテ無罪ノ言渡ヲ受ケタルモノナク云シモノナリ而シテ左ノ例外アリ

民事擔當人カ他人ノ所爲ヨリ生スル損害ヲ賠償スル義務アル所以ハ常ニ注意監督ヲナスハ其人ノ義務ナレハナリ然ルニ其注意ヲ怠リタルハ蓋シ自分ノ盡ス可キ注意ヲ盡サス即チ過失アルニ由レハナリ

○被害者ノ債主カ犯罪ニ因テ損害ヲ被リタル時ハ私訴ヲ起シ得ルヤ

例エハ俳者ノ給料前借ノ如キモノニシテ是場合ハ債主ハ負債主一身上ノ技藝ヲ擔保トシテ貸與ヘタルモノナレハ負債主ニシテ犯罪ノ爲メニ其技藝ヲ爲シ能ハサルニ到リシハ債主其人ハ自ラ損害ヲ被ムリタル者ナリ故ニ此場合ハ債主ハ民事原告人トナリテ私訴ヲ起シ得ルハ當然ノコナリトス

○民事擔當人カ損害ヲ賠償スルニ付テハ其義務ハ連帶ナリヤ  
民事擔當人トハ幼者ノ父母白痴瘋癲人ノ保管者等ノ如キ狂人ニ代リ民事賠償ノ責ヲ擔當ス可キモノニシテ其監督人タルノ職務ハ其幼者瘋癲人ニ注意スルノ義務アリ然ルニ他人ニ對シ損害ヲ加ヘタルモノ如キハ監督人カ懈怠ニ出タルモノナリ懈怠ハ分ツ可ラサルノ所爲ナリ則チ懈怠ノ一部ヲ爲シ他一部ヲナサスト云フ事ヲ得ス故ニ此場合保管人數名アルハ其保管ヲナスヘキノ全部ヲ怠リタル者故從テ損害全部ノ賠償ヲ爲スノ義務アルモノトス

○私訴ヲ刑事裁判所ニナスニ付テノ理由及利益  
社會ノ便益ノミナラス被告人民事原告人ノ便利トナルモノナリ故ニ法律ハ同一ノ裁判所ニ公私訴ヲ裁判スルコトヲ許セリ而シ民事裁判所ニ於テハ公訴ヲ裁判スルヲ得ス故ニ公私ノ兩訴ヲ裁判スルハ只刑事

裁判所ニ限ルナリ今其利益ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 檢察官ハ其犯罪証明ノ爲メニ證憑ヲ蒐集ス可ク又裁判所モ職權ヲ以テ證憑ヲ蒐集ス可シ而ルルハ民事原告人ハ檢察官及裁判官ノ蒐集シタル以外ノ證據ハイサ知ラス別ニ蒐集スルニ及ハサルノ利益ナリ

第二 私訴人ノ舉証ナルモノハ犯罪事件ヲ証明スルノ材料トナル者ニシテ檢察官ハ依テ以テ其請求ヲ擴張スルノ便利アリ然ルルハ從テ裁判官ノ心証ヲ固クシ公私ノ兩訴ニ付正確ナル裁判ヲ爲スヲ得可キナリ

第三 時日ヲ費ス事少ク且從テ費用ヲ減少スルノ利益アリ

第四 被告人ノ辨護民事原告人ノ陳述ノ重複ヲ省クノ便利アリ

○普通ノ損害賠償ト刑事附帶ノ私訴トハ其間ニ如何ナル差異

アリヤ

普通ノ損害賠償ハ其金額ノ多少ニ依リ其管轄ヲ異ニスレモ刑事ニ附帶シテ私訴ヲ要ムルノ場合ハ第四條ニ示スカ如ク金額ノ多寡ニ拘ハ

ザサルナリ  
玆ニ注意ヲ要スルノ點ハ違警罪裁判所ハ警察署若クハ分署ニ於テ管轄スルルハ損害ハ付帶シテ之ヲ要求スルヲ得サルナリ第四條ニモ言ヘル如ク刑事裁判所トハ違警罪裁判所重罪裁判所輕罪裁判所ナリト故ニ警察分署ノ如キハ民事ノ訟訴ニ付キ裁判スルヲ得サルハ明ナリトス尙ホ第八十四條ノ高等法院モ亦然リ故ニ違警罪ヨリ生シタル損害賠償ニ付テハ治安裁判所ニ訟求セサルヲ得サルナリ  
又民事訴訟事件ニ付テハ被告人住所ノ地ヲ以テ其管轄トスルヲ通例トスレモ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ起ス場合ニハ被告人住所ノ地ノ如何

治罪法

ヲ問ハス一ニ刑事裁判所ニ訴ヲ得ルナリ

○公訴ニ先チ私訴ノ裁判ヲ禁スル理由

公訴ヲ發生セシメタル處ノ犯罪ハ本ナリ損害ハ未ナリ故ニ事ノ順序  
ヲ正シクスルニ在リト論スル者アレハ此理由ニ依レハ假令公訴ノ裁  
判ヨリ先キニ私訴ノ裁判アリテ賠償返還ノ言渡ヲ爲ス事ナク公訴ノ  
裁判ノミ刑ノ言渡アリタル時ナリト雖共ニ無効タラサル可ラス何  
トナレハ事ノ順序ヲ顛倒シタル者ナレハナリ謂フニ第六條ノ精神ハ  
事ノ順序ヲ正シクスルニ非スシテ民事ノ裁判刑事ノ裁判ニ影響ヲ及  
スノ恐アレハナリ又前ニ言渡シタル民事裁判ト后ニ言渡シタル刑事  
ノ裁判ト抵觸ノ生スル患ヲ防クニ在リト今私訴ノ裁判ヲ以テ賠償返  
還ノ言渡ヲ爲シタル時即民事原告人ニ對シテ犯罪ニ依リ被リタル損  
害要償ノ權アルコトヲ言渡シタル片ハ其裁判ハ刑事ノ裁判官ノ心意ニ

幾分ノ影響ヲ及ホシ爲メニ無辜ノ被告人ヲ有罪視セシムルノ恐レア  
リ又例スルニ私訴ノ裁判ヲ以テ被告人ノ所爲ハ原告人ニ損害ヲ生セ  
シメタルモ故意ニ出タルモノニアラスト認メ其要求ノ賠償格ヲ減少  
スルコトアラン然ルニ其后公訴ノ裁判ニ於テハ被告人ノ所爲ヲ以テ故  
意ニ出タルモノト見認メ相當ノ刑ヲ科スル片ハ同シク社會ノ官吏タ  
ル裁判官ニシテ彼是抵觸スルノ判決ヲ爲スノ嫌アリ  
又刑事確定裁判ハ民事ノ裁判ニ多少影響ヲ及ホス者ナリ故ニ民事ヲ  
先キンスルヲ得ル者トスル片ハ却テ刑事ノ裁判ニ影響ヲ及ホスノ不  
都合ヲ生スヘシ

以上ハ公訴私訴ノ民事裁判ト刑事裁判トノ并上起リシ片ニ適切ナリ  
○民事裁判所ニ私訴ヲ爲シ檢察官ノ記訴アルヲ知リテ願ヒ  
下々之レヲ刑事裁判所へ訴へタルニ公訴已ニ結了ニ至リ



シテ以テ却下セラレタル時ハ再ヒ民事裁判所へ訴フル事ヲ得ルヤ

此場合ニ於テハ再ヒ訴フル事ヲ得可シ何トナレハ私訴ノ本案ヲ抛棄シタルニアラス止タ一時停止シタルニ過キス故ニ其希望外ニ出テハ訴權ヲ抛棄セシムルハ是レ公道正理ニ反スル者ト云ハサルヲ得サレハナリ

○願下ケト棄權トノ釋

願下トハ后日ヲ期シテ申立ツ可キ事件アルニ因ルカ或ハ其他ノ原由ニヨリ一時訴訟ノ却下ヲ請フニ止ル故ニ願下ケハ訴權ヲ抛棄シタルモノニ非サルナリ  
棄權トハ自己ノ意思ニ因リ明許又ハ黙許ヲ以テ訴權ヲ抛棄シ更ニ出訴スル事ヲ得サル者ヲ云フ

○免訴ト無罪トノ區別

免訴ノ言渡ニニアリ則チ第一ハ豫審ノ免訴是ナリ豫審ニ於テハ其所爲アルモ証憑充分ナラス若クハ公訴消滅ノ原因アル場合ニ於テス第二ハ公判ノ免訴ニシテ第三百五十八條第二項第四百條第二項ノ場合ニ於テス今詳ニ之ヲ示セハ左ノ如シ

一 豫審判事方免訴ノ言渡ヲ爲ス場合

一 犯罪ノ証憑充分ナラサル片

二 被告事件罪トナラサル片

三 公訴ノ期滿免除トナリタル片

四 確定裁判ヲ經タル片

五 大赦アリタル片

六 法律ニ於テ其罪ヲ全免スル片

治罪法

一公判ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合  
第三百三十五條第三百五十八條第四百條ヲ參照シ前項ノ三以下ノ場  
合タル可シ又第一第二ノ場合ハ公判ニ於テハ無罪ノ言渡ヲナス可キ  
場合トス

無罪ノ言渡トハ本案ノ審判ヲ盡シタルモ犯罪ノ證據ナク若クハ其責  
ナキト則チ被告事件罪トナラサルヲ云フ

○被害者ノ棄權私和ヲ以テ私訴權ヲ消滅スル所以  
私訴權ハ固ト被害者一己ニ屬ス故ニ被害者自由ニ之ヲ拋棄シ自由ニ  
ヲ爲スヲ得可シ既ニ被害者之ヲ承認シテ之ヲ拋棄シ又ハ私和ヲ  
爲シタルハ再ヒ之ヲ訴フルヲ得サルハ道理ノ然ラシムル所ニシテ  
全ク消滅スルモノナリ

○公訴ノ期滿免除ト私訴ノ期滿免除ト期限ヲ同一ニセシ理由  
通常民事期滿免除ノ期限ハ刑事ノ期滿免除ヨリ長キ者ナレトモ犯罪ヨ  
リ生スル民事ノ期滿免除ハ全ク公訴ノ期滿免除ト異ナルヲナシ何ト  
ナレハ公私兩訴共ニ同一ノ原因ニ因テ生シタルヲ以テ時日經久ニ由  
リ罪科有無ノ證據湮滅スレハ從テ民事ノ證據モ湮滅スレハナリ

○即時犯ト繼續犯トニ付期滿免除起算點ニ區別アル理由  
即時犯ニ在リテハ假令其責ハ繼續スルモ罪ハ即時ニ成立スルカ故ニ  
其犯罪ニ着手セシ日ヲ以テ之ヲ算ス繼續犯ハ之ニ反シテ犯罪最終ノ  
日ヲ以テ之レカ起點トナス其理由ハ繼續犯ハ最初罪ニ着手シタル日  
ヨリ最終ノ日迄ヲ以テ一個ノ犯罪ト做セハナリ

○繼續犯ト連續犯トノ差違  
繼續犯トハ例ハ一揆徒黨偽造貨幣及人ヲ監禁スル如キ幾日ヲ經ルト  
雖モ其所爲ト時間トヲ分別シ度數ヲ以テ計ルヲ能ハサル事件ヲ云フ

治罪法

連續犯トハ數日ニシテ同罪ヲ疊次犯ス者ニシテ其事件ハ各同一ナリト雖モ各一罪ト認ムルヲ得可キ事件ヲ云フ則チ規則ニ反キ醫術ヲ爲シタル者ノ如キ是ナリ故ニ連續犯ハ或ハ其最首ノ犯罪已ニ期滿免除ヲ過キテ最終ノ犯罪ハ未タ期滿免除ナラサル場合モアル可シ

○期滿免除ノ期限ヲ中斷スルノ理由

中斷トハ犯罪ニ公私兩訴ノ期滿免除ヲ與フ可ラストシテ期限ノ經過シ去ルヲ恐レ經過ニ至ラサル前即チ第十一條ノ期限内ニ其經過ヲ中斷スルヲ云フ若シ夫レ社會ハ未タ危念ノ全ク消盡セサル犯罪ニ對シ公訴ヲ爲スノ權ヲ期滿免除ニヨリテ消滅スル者ト概定セハ則チ大ニ其安寧ヲ害スルノ恐アルカ故ニ起訴ノ手續ヲ爲シテ以テ其期限ノ經過ヲ中斷シ危懼ノ迷惑ヲ駐メ證據ノ湮滅ヲ防クモノトス

×○訴訟手續ノ無効ニヨリ中斷ノ効ナキ理由

法律ニ定メタル法式ハ最モ簡易ニシテ之ニ循フモ最モ容易ナリ而ルニ之ニ違フルハ其手續不充分不規則ニシテ從テ不正ナレハナリ今此無効ニ屬ス可キ原因ヲ擧クレハ左ノ二箇トス

- 一 其訴訟手續ヲ行ヒ若クハ行ハシメタル官吏ノ支配違ノ片
- 二 裁判所ノ權限規則ニ背キタル事即管轄違ノ片

○司法官吏ニ對シ損害要償ヲ訴フルヲ許サ、ルノ理由及其例

外

罪ノ有無ヲ決スルハ裁判官ノ職務即チ義務ナリ其義務ヲ盡ス者ハ社會ノ爲メ危險ヲ除キ安寧ヲ維持センカ爲ナリ之ヲ訴ヘ之ヲ治シ以テ判決ノ局ヲ結ハスハ何ソ社會ノ安寧ヲ維持スルヲ得ン若シ夫レ是等ノ官吏ヲ其過失ヨリ生スル損害ヲ償フ可キノ責ニ任セサルヲ得サルトスル時ハ有罪ヲシテ法網ヲ脱セシムルノ弊アルノミナラス無

罪ヲシテ冤枉ヲ免レシメサルノ弊ヲ生スルニ至ラン故ニ職務上ヨリシテ義務アル官吏ノ其義務ヲ盡シタルニ因リ生スル過失ノ責ニ任スル事ナシト定メタル所以ナリトス

然レモ私意ヲ以テ故サラニ被告人ヲ損害シ又ハ陵虚ノ所爲ヲ加ヘ或ハ賄賂ヲ收受聽許シテ之ヲ陷害スル等ニテ不正不當ノ刑ヲ言渡シ其他法律ニ背キ人民ノ權利ヲ害スルコトアレハ假令官吏ト雖モ之ニ對シ要償ノ訴ヲ起スノ權アルモノトス

○第十八條ニ於テ期限ノ最終ノ日若シ休暇ニ當ルルハ之ヲ算入セスシテ期滿免除ノ期限ニ於テハ之レヲ算入スルノ理由何レノ場合ニ於テモ被告人及訴訟關係人等ノ便益ヲ圖ルニ在リ蓋シ最終ノ日休暇ニ當ルルハ之ヲ算入セサルハ實際訴ヲ爲シ得サルカ故ナリ又期滿免除ノ如キハ最終ノ日ヲ算入セサルルハ其期限タルヤ徒

ラニ一日ヲ遅延シ被告人ノ不便ヲ來スヲ以テナリ

○第二十條ニ於テ出訴期限ヲ定メタリ然レモ事實已テ得サル

ニ因リタルトノ証アレハ其權利ヲ保有スルヤ

縱令止テ得サルニ出ルト雖モ其權利ヲ保有スルヲ得サルナリ何トナレハ訴訟關係人ニ於テ巧ニ事實ヲ設ケ其証明ヲ爲スハ甚タ容易ナルヘキカ故ニ其申述ヲ聞キ是ヲ許ストスルルハ其弊害際涯ナキニ至ルヲ以テナリ然レモ左ノ場合ニ於テハ之ヲ許ス可シ

- 一 訴權ヲ行フ可キ管轄裁判所消失シタルル
- 二 本人又ハ代人ヲ以テ出スト雖モ其身体性命ヲ傷フニ非サレハ出頭スル能ハサルル

(第二百五十八條、三百十二條、三百十三條、三百十六條、二百五十八條)

○假住所ヲ定ムル理由

治罪法

假住所トハ訴訟中ノ假寓所ナリ今之ヲ裁判所々在ノ地ニ定ムルノ理由ハ書類送達ノ便益ト日時ノ遷延及裁判費用ノ減省ト手數トチ省クニ在リ然レモ最初ノ呼出狀ハ必ラス本住所ニ送達セサルヲ得サルナリ故ニ別ニ一戸ヲ構ヘサルモ旅人宿又ハ何某ノ宅ニ寓ストノ旨ヲ書記局ニ届ケ置ケハ可ナリ

○假住所ヲ定メ書記局ニ届ケ置カサル時ノ制裁

- 一 受取ル可キ書類ヲ送達ナシト雖モ送達アリタル者トシテ處分セラル可シ

- 二 裁判所々在ノ地ニ住スト雖モ其住所ヲ届置サレハ假住所ヲ届ケ置カサルモノト同一ノ制裁ヲ受可シ

○送達書ニ氏名場所日時ノ記入ヲ要スル理由

氏名ヲ記スルハ其受領者ノ本人タルト親族又ハ雇人ナル歟ヲ明知セ

シカ爲メナリ(第二四、第二六九等)ノ場合ニ於テ最モ其必要ヲ知ル可シ場所ヲ記スルハ遠近ノ里數ニ依テ與フル所ノ猶豫ニ關係アレハナリ(第十九條)日時ヲ記スル者ハ期限ニ關係アルヲ以テナリ

○送達書ハ本人之レカ反証ヲ學ケ正確ナラスト抗辨スルコトヲ得可キ乎

第二十三條五項ニ此規則ニ反キタルルハ無効トアリ故ニ其反對ヨリ之ヲ看レハ此規則ニ從フモノハ有効トセサル可ラス而シテ假令使丁ト雖モ裁判所ノ命ヲ奉スル官吏ナレハ贋造ノ訴アルマテハ真正ノモノト看做サ、ルヲ得サルナリ

○官吏ノ作りタル書類ノ無効ニ屬スル場合

- 一 所屬官署ノ捺印ハ官ノ確認ト公ケノ信憑トチ保ツノ爲ニシテ私造ニ係ラサルヲ示スニ足ルヲ以テ之ヲ缺ク可ラス

- 二 年月日ハ管轄官署又ハ其職ニ在ル官吏ナルコトヲ公認シ且期滿免  
除ノ期限ノ經過中斷ニ最モ必要ナレハ之ヲ缺ク可ラス
- 三 場所ハ管轄官吏ヲ証スルニ必要ナリ之ヲ缺ク可ラス
- 四 署名捺印ハ書類ヲ作りタル官吏ヲ証スル爲メナリ無名ノ書類ハ  
証トスルニ足ラス故ニ之ヲ缺ク可ラス
- 五 契印ハ后日紙葉ノ拔除又ハ交換ヲ防クニ必要ナレハ之ヲ欠ク可  
ラス
- 六 官署外ニ於テ書類ヲ作ルルハ官署ノ印ヲ用ユル能ハサル事ナシ  
トセス是レ止テ得サル場合ナリ故ニ其事由ヲ記載スルヲ以テ足  
レトス猶ホ署名捺印スルコト能ハサル者ニ付テハ其旨ヲ付記スル  
ヲ以テ足レリトス

○法律ハ効チ已往ニ遡ラサルチ原則トス然ルニ治罪法ハ豫審

又ハ公判ノ規則ヲシテ已往ニ係ル犯罪ニ適用スルノ理由

已往ニ遡ラサルノ原則ハ人民ノ已得權ニ對シテ適用スルモノニシテ  
訴訟ノ体裁及管轄ニ關シテ之ヲ適用ス可ラス何トナレハ事實ヲ發見  
シ及刑ノ適用ヲ正確ナラシムルハ決シテ訴訟ノ本案ニ影響ヲ及ホス  
モノニ非ラス從テ其被告人ノ已得權ヲ害スル事ナシ却テ被告人社會  
ノ利益タレハナリ

○民刑裁判權同一ノ理由

刑事裁判ト民事裁判トハ素ト其法ヲ異ニス然ルニ共ニ孤立分離セシ  
メスシテ同一ノ裁判所ニ屬セシムルハ裁判官ヲシテ法律ニ通貫セシ  
メ原被ノ間ニ公正明實ナラシムルノ一大利益アリ若シ之ニ反シ各個  
獨立セシムルトスルハ刑事ノ裁判官ハ民事ニ通セス民事ノ裁判官  
ハ刑事ニ通セサルノ弊害アリ且從テ法官ノ多數ヲ要スルカ故ニ自ラ

治罪法

其員數ノ少チ免カレス其判スル處或ハ權豪ニ抗抵スルノ力ナク或ハ信用ヲ失フノ恐アリ又總則ニ於テ公訴ノ裁判官ハ私訴ノ裁判官タルヲ決定メタル以上ハ同一ノ法廳ニ屬セシメサル可ラサルノ理アリ蓋シ之ヲ同一ノ裁判所ニ屬セシムルハ經費ヲ節減シ公平ヲ保チ行政權ノ壓制ヲ受クル事ナク且簡易便益ヲ主トスルニ在リ

○檢察官ヲ一体ト做シタルヨリノ効果

- 一 同一ノ裁判所ノ檢察官ハ其拜命受任ノ順序ニ拘ハラズ一体ナリ故ニ辨論數日ニ涉ル場合等ニ於テモ同一ノ檢察官ノ出席スルヲ要セサルナリ

- 二 何レノ裁判所ノ檢察官モ亦職務ノ差異アルニ拘ハラズ一体ナリ故ニ終審裁判ノ檢察官ハ始審裁判ノ檢察官ニ代リ上告事件ノ裁判ニ付テノ檢察官ハ終審裁判ノ檢察官ニ代ル可シ

- 三 同等ノ裁判所ノ檢察官モ亦場所ノ管轄違ナルニ拘ハラズ一体ナリ故ニ破毀ニ係ル事件ヲ他ノ同等ナル裁判所ニ移シタル片ハ其事件ヲ移サレタル裁判所ノ檢察官ハ原裁判所ノ檢察官ニ代テ其職務ヲ行フ可シ

○犯罪ノ種類ニ由リ裁判管轄ヲ異ニスルノ理由

犯罪ノ種類トハ重罪輕罪違警罪ヲ云フ其犯罪ノ種類ニ因リ各々之ヲ區別スルノ理由ハ左ノ如シ

- 一 輕キ罪ハ之ヲ犯ス者多シ故ニ裁判所モ其數多カラサルヲ得ス
- 二 重キ罪ハ之ヲ犯ス者少ナシ犯ス者少ナケレハ裁判所ノ數モ多キヲ要セス
- 三 罪輕キモノハ刑モ輕シ刑輕キモノハ訴訟ノ手續モ亦簡易ナリ

四 罪ノ重キ者ハ刑モ亦重シ刑ノ重キモノハ訴訟手續モ亦鄭重ナラサルヲ得ス

○正犯從犯ハ附帶犯ノ性質ト見做スヘキ乎  
正犯從犯ハ犯人ノ數ニ因テ立テタル區別ニシテ附帶犯トハ犯罪ノ數ニ因リ別チタルノ名稱ナリ故ニ數人相謀リ一罪ヲ犯セハ其犯罪ニ正犯從犯共犯アリト雖附帶犯ニハ如此ノ區別ナシ何トナレハ一罪ヲ犯セシモノナレハナリ之ニ反シ一人數罪ヲ同時ニ犯シタル時ハ其犯罪ハ附帶犯ナリ又正犯從犯カ其犯シタル一罪ヲ免レントシテ又一罪ヲ犯シタルルハ其犯罪タルヤ正犯從犯ニシテ且附帶犯ナリ

○商船内ノ犯罪ハ別ニ法律ヲ以テ定ムル理由  
會社ニ屬スル船舶ハ勿論官ニ屬スル者ト雖凡軍艦ニ非サル以上ハ假令日本形ト西洋形トナ問ハス商船ト見做ス夫レ商船内ニ在テ犯シタ

ルルハ犯罪地ハ海上タルヲ以テ別段ノ法律ヲ以テ管轄及訴訟手續ヲ定メサレハ何レヲ以テ管轄ト定ムルヤ知ル可ラス且亦船内ニハ司法警察官ナキヲ以テ證據ノ湮滅ヲ防カン爲メ船長ヲシテ訊問檢証處分等ヲ爲サシメ證據事實ノ參考ト爲ル事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船着港地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ引渡シ若シ外國ノ港埠ニ着セシトキハ其地駐劄ノ領事ニ引渡ス可シトノ特別法ヲ設ケシ所以ナリ

○同一ノ事件ニ付キ同一ノ裁判官再ヒ干豫スルヲ得サル理由  
過チアレハ之ヲ惡ミ之ヲ改メ善ヲ見レハ之ヲ賞シ之ニ遷ルハ人情ノ常ナリ況ンヤ公平ヲ秉リテ曲直ヲ判スル裁判官ニ於テ何ソ同事件ニ再ヒ干豫スルモ非テ遂ケ過チヲ飾ル事アランヤ而レ凡先入主トナリ其初見ヲ執拗シテ容易ニ變スルノ難キハ亦人情ノ最モ免レ難キ所ナ

治罪法



リ故ニ豫審ニ於テ有罪ト認メタル裁判官ハ公判ニ於テモ亦有罪ノ裁判ヲ爲スハ自然ノ勢ナリ故ニ再ヒ其裁判官ヲシテ更ニ本案ノ裁判ニ干豫セシムルハ裁判ノ公平ヲ失スルノ恐アレハナリ

○哀訴ト缺席裁判ニ限り前ニ干豫セシ裁判官ヲ許ス理由

哀訴トハ先キノ裁判ニ對シ其當否如何ヲ論スル者ニ非スシテ其判決法式ニ反キ或ハ中立タル條件ニ付キ裁判ヲ爲サス又ハ一個ノ裁判ニ付キ二個ノ條件齟齬シタルヲ原由トシテ哀シテ之ヲ更正セラレンコトヲ訴フルニアレハ前裁判官ハ能ク其事實ニ通シ其當否ヲ知ルモ又容易ナリ而シテ欠席裁判ニ於テハ被告人ノ出廷セサルニ際シテ止ヲ得ス之ヲ爲ス者ナルカ故ニ其故障ノ如キモ亦本案ノ當否ヲ論シテ上訴ヲ爲ス者ト異ナレハ前ノ裁判官ハ其情況ヲ熟知スルカ故ニ駿速ニ決スルノ資トモ爲ル可シ故ニ法律ニ於テハ却テ之ヲ欲スルノ意ヲ示セ

○判事試補カ判事ノ職務ヲ行フニハ一已獨立ノ名義ニテ行フ

ヤ又判事代理ノ名義ニテ行フヤ

判事補ナルモノハ即チ判事ノ補助員ナレハ通常獨行シテ裁判事務ヲ執ラサルモノトス然レトモ轉任疾病又ハ訴訟事件ノ輻輳スル等ニ因リ判事ノ差支アルカ爲メ訴訟人ノ困難損害想フ可キカ故ニ輕少事件ハ坐視スルヨリハ寧ロ判事補ヲシテ之レカ裁判ヲ爲サシムルノ優レルニ如カス故ニ治罪法第五十條二項ヲ設ケタル所以ナリ故ニ判事補ハ判事ノ代理ニ非スノ一已獨立以テ裁判權ノ一部ヲ行フモノトス

○證據証憑其他事實參考ト爲ル可キ事物

證據ハ事實ヲ詳明スルニ付キ効力ノ確固ナル者ヲ云フ即チ謀反ヲ爲シ付キ連名簿ニ血判シタル類証憑ハ少シク其効力少キモノヲ云フ盜

賊ノ足跡極ニ印スルノ類事實參考トハ直接ニ犯罪ノ証憑トナラスジ  
テ唯裁判官ノ思料ニ供ス可キモノヲ云フ事物トハ物件及單ニ見聞ニ  
屬スル事柄ヲ云フ

○大審院ノ性質

- 一 大審院ハ最上等ノ裁判所ニシテ其數ハ日本全國ニ唯一個ナリ其  
目的ハ全國ノ法律ヲ統一スルニ在リ
- 二 大審院ハ事實ヲ審判セスシテ只法律ノ當否ヲ裁判スルノミナリ  
故ニ破毀ス可キ事件ニシテ其錯誤タル法律ノミニ關スル時ハ其  
院ニ於テ直ニ之ヲ裁判ス若シ事實ニ關スルルハ他ノ裁判所ヲシ  
テ裁判セシム
- 三 大審院ハ法律ノ疑義ヲ辨明ス然レモ其疑義ノ辨明ハ判決ス可  
キ事件ニシテ辨明ノ効力モ亦判決シタル事件ノ外ニ及ハサル

ルモノトス

四 大審院ハ事實ノ審理ヲ爲ス事ナシ故ニ今日ニ於テハ大審院ノ  
主義ト反對ナリ佛法ニ徴セハ大審院ハ破毀院トシ高等法院ヲ  
大審院トセハ最モ適當ナル可シ然レモ事實ニ害アラサルヲ以  
テ舊慣ニ從ヒタルモノトス

○被告人ノ身分犯罪ノ性質ニ因テ其取扱ヲ區別シ高等法院ナ  
ル特別裁判所ヲ設ケタルノ理由

人ノ權利ナルモノハ同一ナリ然ルニ犯罪ノ性質被告人ノ身分ニ因リ  
取扱ヲ異ニスルノ理由ハ其目的裁判ノ公平ヲ保チ人民ノ嫌疑ヲ防ク  
ニ在リ夫レ皇族勅任官及國事犯ノ重罪ノ如キハ實ニ重大ノモノナリ  
之ヲ通常ノ裁判所ニ於テ管理セシメシカ世人或ハ思フ國事犯ハ其性  
質眞ニ重大ナルヲ以テ裁判官或ハ其當ヲ失スルコトアラシキ皇族勅任

官ハ身分高貴ナルヲ以テ其分平ヲ誤ラン乎ト常ニ胸中疑惑ヲ其間ニ介ミテ如何ニ公平ナルモ世人之ニ信ヲ措カヌ故ニ別ニ大審院判事ト元老院議官トヲ以テ一ノ高等法院ヲ設ケ裁判ノ公平ヲ保チ世人嫌感ヲ生セシメサル様鄭重ニセシナリ

○高等法院ノ裁判官ニ司法權ヲ有セサル元老院議官ヲ加フル

理由

國事犯又ハ皇帝ニ對スル罪等ハ其所爲多ク憲法ヲ犯スニ涉ルモノニ係ルヲ以テ立法ノ大權ヲ有スル元老院議官ヲ以テ之ニ關係ス可キ道理ナリ故ニ元老院議官ヲシテ之カ裁判官ノ一部タラシムル者ニテ其元老院議官ト法權ノ統一ヲ主持スル大審院判事トヲシテ之カ裁判官タラシムルハ又社會ト被告人ト對シテ裁判ノ公平ト信憑トヲ示ス爲メナリトス

○高等法院ノ裁判官任期ノ最終ニ至リ開廷シ翌年ニ涉ルルハ

新任裁判官ヲシテ之ヲ繼續スルヤ

第八十五條ノ文面ヨリ推スルハ或ハ然ルカ如シト雖モ夫ノ擧用サレシ裁判官カ嘗テ受理シタル事件ノ局ヲ結フハ敢テ妨ナキ而已ナラス却テ正當ト云フ可シ故ニ繼續シテ可ナリト

○高等法院ノ裁判ニ對シ上訴ヲ許サ、ル理由

高等法院職員ノ組織ト位置ニ就テ其理由ハ知り得可シ蓋審問ヲ精確ナラシムル爲メ法律ニ明達ナル元老院議官ニ裁判ニ老練ナル大審院ノ判事相集テ公廷ヲ組織シ殊ニ員數モ七名ノ多キヲ要シ最大無上ノ法廷ナリ是レ高等法院ニ上訴ヲ許サ、ル所以ナリ然レモ裁判官モ鬼神ニ非サレハ或ハ誤ナキヲ保シ難シ故ニ一ニ二ノ場合即チ缺席裁判ニ對スル故障及哀訴再審ノ訴ノ如キハ特ニ之ヲ許シ万一ニ救フノ戸門

治罪法

ヲ開キシナリ

○第九十二條ノ証憑及犯人ヲ搜索スルトハ其管轄地内ニ於テ  
犯ノ罪アラザル歟ヲ隱密探偵スルノ謂ナル乎

搜索トハ日夜犯罪ノ有無ヲ探偵スルノ云ニ非ス告訴告發現行犯等ニ  
依リ犯罪アルヲ思料認知シタル時ニ於テ其證據トナル可キモノヲ  
集取シ及犯人ノ誰タルヲ探求スルノ謂ナリ

○告訴告發ノ手續及其効力ノ差異

- 一 告訴ヲ爲スハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地トス
  - 二 告發ヲ爲スハ告發人所在ノ地若クハ犯罪ノ地トス
- 告訴人ハ九十五條末項ニ從ヒ告訴ヲ受ケタルノ証書ヲ求ムル事ヲ得  
百八條ニ從ヒ被告事件ノ結果ノ如何ヲ知ルヲ得  
告發ニ付テハ官吏其告發ヲ受ケタルノ証書ヲ與ヘ又ハ被告事件ノ結

果ヲ通知スルノ責ナシ畢竟告發ハ報知スルマテニテ其言渡ノ處分ニ  
吻ヲ容ル可キモノニ非ラス

○重罪輕罪ニ付テノ告訴ヲ司法警察官ニナスヲ得ルノ理由  
被害者ハ其告訴ヲ爲スニ當リ管轄ノ如何ヲ知悉セサルカ爲ニ其適從  
スル處ニ迷惑センヲ慮リ且告訴ノ爲メニ往復スルノ煩ヲ省カント  
欲シ以テ其權利ノ擴張ヲ易カラシメンカ爲メ司法警察官ニ告訴ヲナ  
スヲ許セシナリ

○告發ノ義務ヲ人民一般ニ負擔セシメサルノ理由  
告發ヲ以テ人民一般ノ義務トスルハ公安ノ防害ヲ爲スモノナリ何  
トナレハ若シ此義務ヲ行ハサレハ罰ナキ能ハス若シ罰アレハ常人ヲ  
シテ他人ノ犯罪ヲ見聞スル毎ニ自ラ罪ヲ犯シタルト同一ノ結果ヲ生  
セン

○命令

本廳長官ノ指批ト云フノ意ニシテ通常司法警察官及ヒ巡查ハ一己獨斷ノ權ヲ有セスシテ長上官ノ命令ヲ受ク可キモノナリ然レモ其指揮スル所豫審判事ノ令狀ニ據ルアリ檢察官ノ特權ニ在ルアリテ同一ナラサルトアルヲ以テ治罪法第百二條ノ例外ノ場合ニ於テ令狀又ハ命令云々ト記載シタルモノナリ

○現行犯ニ令狀ヲ要セサル理由

現行犯ノ場合ニハ檢証取調少シク後ル、亦ハ其犯罪ノ痕跡ヲ失ヒ或ハ犯罪ノ証料ヲ失フノ場合アリ故ニ法律ハ令狀若クハ命令ヲ要セス直チニ犯罪人ヲ逮捕スルトナリ

○違警罪ノ現行犯ヲ逮捕セサルノ理由

違警罪ナル者ハ其所爲極メテ輕微ナレハ犯人ノ自由ヲ拘束スルニ及ハス故ニ逮捕ヲ命セサルカリ然レモ住所姓名分明ナラス又逃亡ノ恐アルニ於テハ只其罪証ノ湮滅ヲ防ク爲メ止ヲ得スシテ引致ヲ許認スルモノナリ

○司法警察官ニ假リニ豫審處分ヲ爲スヲ許スノ理由

通常ノ場合ニ於テハ縱令豫審判事タリトモ檢事ノ請求ヲ待ツニ非サレハ檢証處分ニ取掛ル事ヲ得ス然レモ現行犯ノ場合ニ於テハ司法警察官モ第百二條以下ノ手續ニ從ヒ假リニ其犯罪事件ノ大畧ヲ訊問シ及ヒ犯所ニ臨ミ檢証處分ヲ爲スノ權ヲ與ヘリ蓋シ驗速ヲ要スル事件ナルヲ以テ便利ノ爲メ例外トシテ假リニ許ス所ナリ然レモ其處分タル固有ノ職權ヲ以テ爲スニ非サレハ命令ヲ發スルトナリ得ス又証人ノ陳述ヲ聞クニ宣誓ヲ爲サシムルトナリ得サルナリ

○起訴

治罪法

起訴ニ二アリ一チ檢察官ノ起訴トイヒ社會ニ代リ檢察官原告人トナ  
リ訴訟事件ヲ裁判官ニ提出スルヲ云フ一ハ其犯罪ニヨリテ直接ニ損  
害ヲ被リタルモノ之ヲ爲ス則チ民事原告人之ナリ裁判官ハ告者ナク  
ンハ受理セサルノ原則ニシテ此起訴ノ一アルニ非サレハ決シテ審問  
ニ係ル可ラサルモノトス

○公訴ノ起ル場合

- 一 檢事非現行ノ輕罪事件ニ附キ豫審ヲ求メス直チニ公判ニ附シ  
タル時
- 二 檢事非現行ノ重罪又ハ輕罪ノ事件ヲ豫審判事ニ送致シテ豫審  
ヲ求メタル時
- 三 檢事現行ノ重罪又ハ輕罪事件ニ付キ檢証シタル時
- 四 檢事司法警察官ノ檢証シタル現行ノ事件ニ付キ起訴ス可キ取

調ヲ爲シタル時

- 五 豫審判事現行ノ重輕罪ヲ檢証シタル時
- 六 被害者ヨリ直チニ豫審判事ニ私訴ノ申立ヲ爲シタル時
- 七 公判判事公庭内ノ犯罪ニ付取調ヲ爲シタル時

○公判ニ先チ豫審ヲ行フ所以

罪ノ未タ判然セサルニ先チ直チニ公然訟廷ニ於テ公判ニ附シ吟味ヲ  
遂タル時ハ被告人ノ榮譽ヲ害ス加フルニ豫審ヲ經サレハ公判ニ至リ  
テ淹滞ノ弊ヲ生ス故ニ法律ハ豫審ニ於テ事實ヲ推究シ其確的ナルニ  
至リテ始メテ公判ニ附スルモノナリ

○罪トナラサル事件ト公訴受理ス可ラサル事件トノ差違

法律ニ正條ナキモノハ何等ノ所爲ト雖モ罪トシ罰スルヲ得ス  
受理ス可ラサル事件トハ法律上ヨリシテ受理ス可ラサルモノニシテ

證據ノ不充分ヲ云フニ非サルナリ何トナレハ二百二十八條三項ニ受理ス可ラサルト證據充分ナラサル片トナ分記スルヲ見テモ明ナリ

○告訴ノ結果ヲ被害者ニ通知スルノ理由

告訴ノ結果ヲ被害者ニ通知スルハ附帶ノ私訴ヲ爲スニ便ナラシムルト又管轄違ナルニ依リ其事件ヲ管轄ノ檢察官ニ送致シタルニ於テハ其私訴モ其事件ヲ移サレタル裁判所ニ向テ之ヲ爲スニ付テノ利ト又被害者更ラニ單純ノ要償ヲ民事裁判所ニ訴フル等ニ付テ尤モ必要アレハナリ

○告訴ト私訴ノ區別

告訴私訴共ニ被害者ノ行フ所ナリ而シテ告訴トハ總發ト甚シキ選道アルモノニアラスシテ唯犯罪ニ因リ害ヲ被リタリト告ル者ナリ即チ大聲疾呼シ其趣向チ一ニシ僅カニ探查ノ發端ニ過キサレハ未タ以テ

公訴私訴ノ兩訴共ニ提起セシム可キノ力ナシ故ニ告訴人ハ之ヲ取捨ニ對シテ異議ヲ爲ス事ヲ得ス而シテ私訴ト告訴ト共ニ中立又ハ告訴ヲ爲シタル后ニ豫審判事ニ申立以テ公訴ヲ提起スルコトアリ又ハ公訴已ニ起リタル時ニ於テ贓物ノ返還損害ノ賠償ヲ必ス判事カ判決ヲナサハル可ラス若シ其判決原告ノ意ニ適セサルハ上訴ヲ訴ス是レ公訴私訴ノ區別ニシテ第一條第二條ノ原則ヨリ來ル者ナリ

○豫審判事ニ直チニ民事原告人トナル可キ申立ヲ受ケタル片ハ檢察官ノ起訴ナシト雖モ公私ノ兩訴ヲ併セテ受理シタルモノトナスノ理由

民事原告人ト爲ル可キ申立即チ私訴ヲ爲ス可キノ申立ヲ受ケタル片ハ假令檢察官未タ起訴セサル前ト雖モ裁判所ニ於テ公私ノ兩訴併セテ受理シタルモノト做シ必ス規則ニ從ヒ何レモ裁判ヲ爲サハル可ラ

ス抑モ私訴即チ賠償返還ノ起因スル所ハ犯罪事件ニアレハ其主件タル犯罪事件ノ如何ヲ決セサレハ附帶私訴ノ義務ノ有無ヲ判定スル能ハサルナリ

○第百十一條ニ於テ裁判言渡アルマテ何時ニテモ私訴ヲ爲スルヲ許ス理由

被害者ハ公訴ノ初ノニ於テ私訴ヲナス事ヲ得ル而已ナラス公訴ノ本案ニ付キ始審ノ裁判言渡アルマテ又ハ公訴ヲ爲シタル後ハ終審ノ裁判言渡アルマテ何時ニテモ私訴ヲ爲シ又ハ已ニ要求シタル所ヲ變更増減スルヲ許スノ理由ハ他ナシ被害者公判取掛リノ始メヲ知得スルノ難キ力故ニ爲ノニ被害者ノ權利ヲ害セサランコトヲ恐レテ公判ノ裁判アルマテハ何時ニテモ之ヲ爲シ之ヲ變更スルコトヲ許セシナリ

○一旦願下ヲ爲シ更ニ中立變更ヲナスヲ許スノ理由

被害者カ一旦民事原告人トナリタル后或ハ証據ノ不備及其他ノ理由アルニ依リ暫テ爲シタル所ノ訴ヲ願下クルモ敢テ其訴權ヲ拋棄スルニ非スシテ一旦端緒ヲ開キタル訴訟ヲ一時停止スルニ過キサルヲ以テ更ニ証據ヲ備具スル等ニ因リ再ヒ其申立ヲ爲シ又ハ要ムル所ヲ變更シテ申立ヲナス事ヲ得セシム蓋シ法律ハ被害者ニ就テハ極メテ寛補ヲ旨トスルモノナリ

○無能力者告訴私訴ヲ爲スニ付テノ手續ニ差異アリヤ  
幼者自ラ告訴ヲ爲スヲ得サルルハ馳急ノ際証據ヲ湮滅シ或ハ甘シテ危險ニ陥ルノ恐アリ

本來告訴ハ犯罪ノ搜索ヲ助ク可キ方法中ノ一ニシテ法律ニ於テハ告訴人ノ如何ヲ問フニ暇アラサルナリ故ニ幼者自ラ告訴シ若クハ法律ニ定メタル代人又ハ通常ノ代人ニ委託シテ之ヲ爲ス事ヲ許セリ



凡ソ私訴ハ通常民事ト同一ニシテ多ク財産上ニ關スルモノナレハ無能力者ハ固ト財産ヲ管理スル能ハサルヲ以テ其訴ヲ爲ス事ヲ得ス必ス法律ニ定メタル代人之ヲ爲スヘキモノトス

○豫審ノ性質

豫審トハ被告事件ノ有罪無罪ヲ判決スル者ニ非ス只タ其事件ヲ公判ニ提出ス可キヤ否ヤヲ秘密ニ取調フルモノナリ抑モ重罪又ハ重難ナル輕罪ニ豫審ヲ要スル所以ハ我法律顧問佛國法律博士ボアソナード氏ノ法律ニ於テ犯罪ノ證據盡ク備ハルノ前被告人ノ公判裁判所ニ付スルコトヲ欲セス若シ證據不充分ナレハ則チ有罪者モ法網ヲ免ル、ニ至ルモ未タ知ル可ラス故ニ豫審ヲ行ヒ以テ此弊害ノ生スルヲ防カントス是レ第一ノ目的ナリ

法律ニ於テハ僅カニ犯罪ノ嫌疑アル者ヲ公然刑事裁判所ニ付スルヲ欲セス假令之ヲ公判ニ付スルモ吟味ノ末無罪ノ言渡ヲ爲スヤ知ル可ラス其時ニ當リ之ヲ放釋スルモ榮譽財産ニ重大ノ損害ヲ被ラシメ又之ヲ償フ能ハサルノ弊害アリ是レ第二ノ目的ナリ此二ノ弊害ヲ去ラント欲セハ公判ニ付スル前豫審ヲ行ヒ豫メ證據ノ有無等ヲ判シ之レカ處分ヲ爲ス可キナリ

○豫審判事被告事件ヲ受理ス可キ場合

- 一 檢察官ノ起訴アリタル片
- 一 民事原告人ノ起訴アリタル片
- 一 自ラ犯罪ヲ檢証シタル片
- 一 第二百五十五條ノ場合ニ於テ會議局ヨリ委任ヲ受ケタル片
- 一 第三百六十條ニ從ヒ其裁判所ヨリ送付ノ言渡アリタル片
- 一 大審院ヨリ送付ノ言渡アリタル片

〇令狀

令狀トハ判事ヨリ被告人ニ對シ發スル處ノ命令ノ証狀ナリ之ヲ分チテ四トナス即チ召喚狀拘引狀拘留狀収檻狀是ナリ

召喚狀

召喚狀トハ被告人ニ於テ其辨解ノ爲メ豫審判事ノ面前ニ出席ス可シトノ命令ニ外ナラス故ニ引立留置キノ如キ方法ニ涉ルヲナク其出席シタル片ハ即時訊問ヲ受ク可キ者ニシテ換言セハ被告人ナシテ隨意ニ出廷セシムルヲ云フ又出廷スルモ遅クモ退席出廷ノ日ヲ越ル事ヲ得ス又之ヲ執行スル爲メ公力ヲ用ユル事ナシ

拘引狀

拘引狀ハ召喚狀ヨリ稍々嚴ナル者ニシテ即チ公力ヲ以テ引致スル者ヲ云フ

拘留狀

拘留狀ハ拘身ト豫防囚置ノ二質ヲ兼有スルモノニシテ輕罪禁錮以上ノ刑ニ該當ス可キ者ト思料スル犯罪ニ非サレハ之ヲ發スルヲ許サス

収檻狀

収檻狀ハ拘留狀ト同質ノ者ニシテ効果モ又同一ナリ然レモ拘留狀ト比較スレハ拘留狀ハ十日間以上拘身留置スルヲ得ス収檻狀ハ期限ナシ又之ヲ發スルニハ檢事ノ意見ヲ要ス且其方式拘留狀ヨリ一層ノ嚴ヲ加フ

〇令狀ヲ設ケシ理由

第一 令狀ナクハ被告人タル者正當ノ命令ナルヤ否ヤヲ知ル能ハサル

治罪法

第二 人民ノ自由ヲ保護スル爲メニシテ何人ト雖モ獨立無私ノ地位

ヲ占メタル法官ノ令狀アルニ非サレハ敢テ身体ノ拘束ヲ受ク  
ルコトナシ

○召喚狀ノ送達ト被告人出廷トノ間少クモ二十四時間ノ猶豫

ヲ與フル理由

召喚急速ニ過クルキハ時ニ際シ或ハ被告人ノ不在ナルモ知ル可ラス  
加之何等ノ事件ニ關シ召喚ヲ受ケタル義ナルヤ被告人ニ於テハ其事  
ニ付キ答辯ノ豫備ヲ爲サ、ルヲ得サルヲ以テ其不意ヲ襲ハレ爲メニ  
權利ノ伸長ニ關スレハナリ

○召喚狀ニ應セサル被告人ニ對シテ拘引狀ヲ發スル理由

一度召喚狀ヲ發シ猶出頭セサル片ハ其被告人ハ官命ヲ避クルノ意ア  
ルモノナリト推測ス官命ヲ避クルノ意アル者ニ對シ更ニ召喚狀ヲ發

スルモ復其効ナカル可ナリ故ニ之ヲ引致スルニ非サレハ豫審ノ目的  
ヲ達シ難シ是レ拘引狀ヲ發スル所以ナリトス

○第二百一十一條ニ於テ被告人定マリタル住處ナキハ豫審判

事ハ直チニ拘引狀ヲ發スルヲ得ルノ理由

被告人定マリタル住所アラザルトハ必スシモ本籍ヲ有セサルニ非ス  
シテ其身元ノ分明ナラス一定ノ住居ナクシテ漂泊流寓スル者ヲ云フ  
是等ハ多クハ無資無産孤獨ニシテ逃亡頗ル易シ之ニ對シ假令召喚狀  
ヲ發スルモ其目的ヲ達スルハ頗ル難シトス故ニ徒勞ヲ省キ初メヨリ  
拘引狀ヲ發スル事ヲ許セリ

○拘引狀ノ効力

一 被告人拘引ニ應セサルノ恐アル片ハ其身体ノ自由ヲ奪フ可キ取  
締ノ處分ヲ爲シ之ヲ引渡ス事ヲ得

二 引致ス可キ路程ノ時日及引渡シタルヨリ四十八時間ハ被告人ヲ留置スル事ヲ得

○被告人管外ニ在ル場合其地ノ豫審判事ニ取調ヲ求ムル事ヲ得可キ理由

未タ証據モ充分ナラス僅カニ嫌疑ノ爲メニ被告人ヲ遠ク往來スルノ煩ヲナサシメサルハ法律ノ原則ナリサレハ本條ハ素ト被告人便益ノ爲メニ定メラレタル規則ナリ

○拘引狀及假拘留狀ノ結果

管轄豫審判事ノ發シタル拘引狀ハ其所在ノ地ノ豫審判事ニ引致シタル而已ニテハ未タ其執行ヲ盡シタリト認ム可ラス其理由ハ拘引狀ニ記載シタル拘引スヘキ場所ハ其所在ノ地ノ豫審廳ニ非スシテ管轄違ナレハナリ

被告人所在地ノ豫審判事ノ發シタル假ノ拘留狀ハ少シク之ヲ發スルノ法式ヲ缺キタル而已ニテ眞ノ拘留狀ノ効力ト異ナルトナシト雖モ眞ノ拘留狀ナル片ハ被告人ヲ管轄裁判所ニ送致スル日數ヲ除クノ外十日間ノ効力ヲ有シ且檢事ノ請求アル片ハ更ニ十日間ノ効力ヲ繼續スルヲ得然ルニ假ノ拘留狀ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事ヨリ管轄豫審判事ニ被告人中其所在ノ地ニテ取調ヲ要ムルノ申立ヲ爲シタルトヲ通知シタルヨリ其回答アルマテノ日數ヲ除クノ外拘留十日ヲ經過スルニ至ル可キハ直ニ管轄豫審判事ニ放免ス可キヤ否ヲ照會ス可シ其照會ノ日數モ亦十日ノ期限内ニ算入スルニ及ハサル可シ若シ収檻狀ヲ發ス可キモノナル片ハ前ニ發シタル拘引狀ニ依リ直ニ被告人ヲ管轄豫審判事ニ送致ス可シ總テ被告人ヲ送致ス可キ場合ハ當然假ノ拘留狀ヲ取消シタルモノトス

○被告人令狀ニ應スル能ハサル事由ノ制限  
 被告人己ニ拘留セラレタル以上ハ未決中ナリト雖モ保釋ノ外別ニ方法ナカル可シ故ニ拘引セラル可キ被告人タリトモ一時モ其場ヲ離ル、  
 一能ハサル事由アルニ非サレハ正當ノ申立ト認ムルヲ得ス  
 疾病者ニシテ其身体ヲ動カスモ非常ノ苦惱ヲ覺エ又ハ危篤ニ陥ル可キヲ醫師ノ診斷書ニテ証明スヘシ  
 二等親以上及ヒ同居ノ親族ノ疾病但シ看病スヘキ親族ナク且看護人ヲ雇入ル可キ資力ナキハ醫師ノ診斷書ヲ以テ証明ス可シ然レモ時宜ニ依リ別段看護ノ手當ヲ爲シ強テ拘引スルヲ得  
 公務ノ差支但別人ヲ以テ其事務ヲ充ツル能ハサルヲ及ヒ一時其事務ヲ停止スル能ハサルヲ所屬長官ノ證書ヲ以テ証明スルヲ  
 會社ノ差支但別人ヲ以テ其職業ヲ充ツル能ハサルヲ及ヒ一時其職

業ヲ停止スルキハ社員又ハ他人ノ爲メ非常ナル損害ヲ生スル事ヲ社長ノ證書ヲ以テ証明ス可シ一村一郡ノ爲メ事業ニ従事スル者ニ付テハ其管理人又ハ郡長戸長ノ證書ヲ以テ証明ス可シ

○拘留狀ノ効力ヲ十日ニ限リタル所以

拘留トハ身體ヲ拘束シテ通謀ヲ絶シ證據ノ湮滅ヲ禦キ遁逃ヲ爲サシメサルモノニシテ寫ニ止テ得サルノ手段ニ出ルモノトス然レモ罪ニ輕重ノ別アリ宜シク之ニ應スルノ等差ナカル可ラス爰ヲ以テ之ヲ俟テ即チ茲ニ拘留狀収檻狀ノ名ヲ分ツ己ニ此別アリ宜シク其効力ノ分ツ所ナカル可ラス是レ收監狀ハ身體ノ拘束ニ期限ヲ定メス拘留狀ハ十日ヲ限リタル所以ナリ但シ其日限長短ノ如キハ只立法者ノ考定ニ在テ別ニ確據アルモノニ非サル可シ

○拘留十日ヲ過キタルカ爲メ之レヲ収檻狀ニ換ユルト被告人

ヲ責付スルトノ處分ニ於テ其間如何ナル差異アリヤ

拘留十日ニ及フモノハ必スヤ其事件錯雜スルカ爲ナル可クシテ而シテ豫審判事ニ於テ未タ之カ證據ヲ詳カニセサル時ノ如キハ素ヨリ永ク拘束ス可キノ權ナシ然レモ亦未タ罪ナシトスルヲ得サルナリ如此場合ニ於テハ宜ク之ヲ第二百十九條ニ照シテ責付ス可シ若シ證據未タ充分ナラサルモ尙ホ罪ノ歸スル所ヲ想定スルニ足ル者ハ之ヲ収檻狀ニ換ユル事ヲ得可シ而シテ此處分ハ一ニ豫審判事ノ思料如何ニ在リト雖モ檢事ニ於テ事件ノ模様若クハ輕重等ニ據リ必要ナリトスル時ハ之ヲ責付スル事ナク更ニ數日ノ拘留ヲ求ムル事ヲ得セシメサル可ラス是レ本條第二項ノ設ケアル所以ナリ而シテ此間ノ差異如何ハ只其被告事件若クハ取調ノ模様トニ因リテ之ヲ觀ル可キナリ

○収檻狀ヲ發スルニ檢事ノ意見ヲ聞クヲ必要トスル理由

収檻狀ナル者ハ令狀中最モ重大ナルモノニシテ拘留狀ニ比スレハ被告人ノ自由ヲ束縛スルヲ永遠ニ及ヒ最モ慎重セサル可ラサルヲ以テ檢事ノ意見ヲ聞キタル后ニ非サレハ収檻狀ヲ發スル事ヲ得ストセシナリ但シ檢事ノ意見ヲ聞クハ被告人ノ權利ニ管スル事ニ限り只事實ヲ審明スルニ過キサレハ豫審判事必スシモ之ニ從フ可キノ義務ナシ只其意見ヲ聞テ斷定スルヲ要スル而已

○家宅ニ於テ被告人ヲ搜索スルニ戸長若クハ隣居ノ立會ヲ要スル理由

家宅ハ猶ホ國ノ城塞ノ如シ只其大小ノ差アルノミニシテ人得テ犯ス事ヲ許サス之レ國民ノ權利ニシテ法ノ一大原則ナリ然ラハ斷シテ家宅搜索ヲ禁センカ若シ之ヲ禁スルトスルモハ被告人ヲ獲ル能ハス證據ヲ取ルヲ得スシテ警察及豫審ノ目的ヲ達シ難シ故ニ我治罪法第百

三十三條ニ於テ公益ヲ保護スル爲メ止テ得ス之ヲ行フモ決シテ爲メニ其道理ヲ破ルノ原由ト爲スヲ得サルナリ茲ニ於テ戸長若クハ隣居ヲシテ之ニ立會セシメ敬重ノ意ヲ表シ兼テ搜索ヲ行フヲ妨ケナカラシメ其兩者互ニ相害セサラシムル者ナリ

○刑法治罪法ヲ未決囚人ニ貸與スルノ理由

事實上ト法律上トニ拘ハラズ豫審ト公判トヲ問ハス被告人ノ請求ニ應シ刑法治罪法ヲ貸與スルハ法律ノ注意頗ル密ナリト云フ可シ夫レ被告人ハ充分辨護ヲ爲スノ權利アリ辨護ヲ爲スニハ法律ヲ知ラスンハアル可ラス換言セハ被告人ヲ保護スル所以ナリトス

○密室檻禁法ヲ設ケタルノ旨意

被告人其共犯人ト雜居シ又ハ親戚朋友若クハ代言人ト接交スル事ヲ得ルルハ姦詐相謀リ或ハ共犯シ情意ヲ通シ証據ヲ湮滅シ或ハ其罪惡

ヲ掩蔽センカ爲メ偽証ノ申立ヲ豫備シ爲メニ重大ノ弊害ヲ生ス故ニ法律ハ豫審判事ハ自己ノ職權或ハ檢事ノ請求ニ依リ被告人ヲ密室ニ檻禁スルノ言渡ヲ爲ス事ヲ規定セリ

○豫審處分ニ書記ノ立會ヲ要スルノ理由

豫審判事豫審處分ヲ爲スニ付キ書記ノ立會ヲ要スル所以ニニアリ一ハ記録ヲ司ル一ハ處分ヲ監証ス蓋シ一人ニシテ處分ヲ爲ス或ハ專横ニ涉ルノ恐アレハナリ

○豫審判事カ豫審ニ取掛ル前必先ツ被告人ヲ訊問スル理由

被告人ノ訊問ヲ爲スハ豫審ノ第一處分ニシテ判事ハ之ニ因テ犯罪ノ有無ヲ察知スルヲ得被告人ハ之ニ因テ嫌疑ノ不當ナル事ヲ証明スルヲ得

凡ソ犯罪アル可シト思料セラレシモノハ悉ク不其惡奸ニシテ果シテ

其豫定ニ違ハサルカ時トシテ嫌疑ノ原ト錯誤等ニ出テ、竟ニ白日青天ヲ仰クモノ世ニ其例ナキニ非ス然ルニ一應ノ糾問ヲモ遂ケスシテ輕々之ヲ信シ直チニ先ツ檢証ヲ爲シ又ハ証人ヲ糾問スルニ至テハ漫リニ惡事ヲ人ニ歸スル者ト云フヘシ豈如此理アラシヤ

又眞ノ犯人ニシテ讎テ已レノ惡事ヲ蔽フテ裁判所ノ監察ヲ漏脱セン爲メ故ヲニ詐欺ノ告發ヲナスモノナキニモ非ス之ニ反シ被告人ハ直チニ其所爲ノ全部又ハ幾部ヲ白狀シテ裁判所ノ事務ヲ簡易ナラシムルヲアラン

○豫審ハ秘密ノ取調ヲ以テ主義トス然ルニ治罪法第百五十四條ニ對質ヲ許セリ其理由ヲ問フ

被告人審問ノ際已レ其共犯人ニ非サルコト又ハ己レハ其事件ニ關係ナシ杯ノ申立ヲ爲シタル時ハ之ヲ証スル爲メ又ハ事實ヲ蔽フ場合ニ於テ被告人ハ他ノ被告人証據人ト對質セシムルハ事實ヲ得ル一大活處置ナリ何トナレハ彼是皆眞實ヲ吐露スルニ利害ノ關係アルヲ以テ各其供述ヲ異ニシ遂ニ事實ヲ隱蔽スルコト能ハサルニ至リ又ハ被告人ト被告人若クハ死休ニ對スル片ハ或ハ悔悟シ或ハ羞慚シ或ハ心神感動スルニ因リ遂ニ白狀ヲ爲スニ至ルノ利益アレハナリ

○搜索權ノ制限

- 一 檢察ノ爲メニ皇居ニ入ルニハ政府ノ允許ヲ要ス
- 一 外國公使館モ亦同一ノ手續ニ依ル可シ
- 一 各官署ニ屬スル家宅ハ所屬長官ニ照會シタル上ニアラサレハ搜查スルコトヲ得ス
- 一 被告人ノ家宅ニ非サルモ藏匿ノ推測アル時ハ搜索ヲ得但シ何レモ日出前日没后ハ搜索ヲ得ス



○不參ノ証人ヲ罰シ及ヒ拘引スル理由

証人ヲ要スル所以ハ犯罪ノ事實ヲ證明シ又ハ無辜ヲ罪スル事ヲ避ク  
ルカ爲メナリ蓋シ証人トシテ裁判官ノ面前ニ出テ之カ陳述ヲ爲スヤ  
國民公權ノ一部ニシテ社會ニ對スル一大義務ナリ此義務ヲ行フヲ拒  
ムルハ即チ判事ノ命ニ違フナリ宜シク之ヲ罰セサル可ラス故ニ此場  
合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聞キ罰金ヲ科シ其言渡ト共ニ再度ノ呼出狀  
ヲ送達シ猶應セサル時ハ二倍ノ罰金ヲ加シ其次ニ至テハ公力ヲ以テ  
拘引スルヲ得

○正實ナル陳述ハ幼者ノ口ヨリ出ツト蓋シ畏懼愛憎ノ念ナク

又憚ル處ナク有ノ儘ヲ以テナリ然ルニ第百八十二條ニ於テ  
ハ此口証ヲ直接ニ採用セサル理由

法律ニ於テハ幼者ハ世事經驗ノ功少ナク又充分ノ識別力ヲ有セサル

者ト見做シ幼者ノ口証ハ直接ノ証在トシテ採用セサルモノト規定セ  
リ然レモ實際ニ於テハ或ハ識別力アル者ナシトセス故ニ裁判官ハ其  
教育及ヒ成長ノ度ニ從ヒ之ヲ間接ノ証トナシ其資料トナス事ヲ許セ  
リ若シ夫レ幼者ヲシテ誠實ヲ陳スル者ト假定シ其証人ノ一部トナサ  
ンカ名譽ヲ思フノ意ナキヨリ人ノ囑托ニ出ツル虛証ヲ爲シ或ハ事實  
ヲ誤リテ錯誤ノ陳述ヲナシタル場合ニ宣誓ヲ爲シタルカ故ヲ以テ僞  
証ノ責ニ任セシメンカ是レ法律ノ忍ヒサル所ナリ故ニ訴訟關係人ノ  
異議ナキモ之ヲ許サ、ル所以ナリ

○現行犯ト非現行犯トニ付豫審ノ差異

一 豫審判事第百十三條ノ原則ニ反シ請求ヲ俟タスシテ被告事件ノ  
取調ニ着手スルヲ

二 豫審判事第二章ノ規則ニ依ラスシテ公訴ヲ受理スルヲ

- 三 檢事口ラ豫審處分ノ幾部ヲ行フ
- 四 檢事モ亦臨檢調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ起ス
- 五 司法警察官モ亦檢事ニ許シタル職務ノ幾部ヲ履行スル
- 六 檢事司法警察官ヨリ送致シタル事件ニ付訊問調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ起ス

○忌避ヲ許ス理由

裁判官ハ當ニ無私公平不羈獨立ノ自由ヲ心裡ニ存シ以テ是非ヲ審判スルニ非サレハ焉ソ正明無私ノ裁決ヲ爲スヲ得ンヤ然レモ自己ノ親シキヲ愛シ疎キヲ憎ムハ人ノ通常ナレハ或ハ親族タルノ愛ニ絆サレ亦ハ后見タルノ情ニ拘ヒ又ハ利ノ爲メニ良心ノ自由ヲ減少サレテ遂ニ公平ヲ枉クルノ恐ナキ能ハス故ニ我治罪法ニ於テハ檢事被告人又ハ民事原告人ヨリ其裁判ヲ受クルヲ拒ミ他ノ判事ヲシテ之ニ代ハ

ラセラレンヲ請求スルノ權ヲ許セリ

○檢察官ヲ忌避スル事ヲ許サハル理由

檢察官ハ刑事ノ原告人トナリテ犯罪ヲ證明シ刑ノ適用ヲ要メ公益保護官トナリ意見ヲ陳述スルヲ以テ其職トスル者ニシテ判決ノ處分ニ干預セサルヲ以テ不羈公平ヲ失スルノ弊アル可ラス故ニ如何ナル場合如何ナル關係アリトモ訴訟關係人ニ利害ヲ及ボス事ナシ故ニ民事原告人及ヒ被告人ヨリ忌避スルヲ得ルノ理ナシ然レモ自己ノ親族或ハ自ラ后見人トナリ居ル幼者ノ犯罪等ニ付テハ刑事原告ノ位置ニ立チ公訴ヲ爲スニ忍ヒサルノ情ナシトセス故ニ此場合ニ限り檢察官ハ何時ニテモ回避ヲ許ストセシナリ

○豫審終結ノ言渡ニ對シ故障ヲ爲ス可キ人及ヒ故障ヲ爲ス可キ場合ニ付テノ制限

一 檢事ハ刑事ノ原告人及ヒ裁判ノ鑑定人タル二個ノ性質ヲ有ス故  
ニ刑事ノ原告人トシテハ被告人ノ利益ナル言渡ニ對シテ上訴ヲ  
爲シ裁判ノ監察人トシテハ被告人ノ不利益ナル言渡ニ對シテ上訴  
ヲ爲スヲ得即チ治罪法第二百四十六條第一項凡テ豫審終結ノ  
言渡ニ對シ故障ヲ爲スヲ許ス所以ナリ

二 民事原告人ハ豫審ノ關係甚ク薄シ何トナレハ豫審ニ於テハ賠償  
返還ノ取調ヲ必要トセサルヲ以テ終結ノ言渡ノ如何ニ拘ハラス  
私訴ニ付キ越權ノ處分アリタル場合ノミ故障ヲ爲ス事ヲ許ス民  
事擔當人ノ如キ未ダ豫審ニ於テ其ノ訴訟關係人ト看做ス可ラス  
故ニ上訴ヲ許サ、ルハ言ヲ俟タサルナリ

三 被告人ハ自己ノ爲メ不利益ナル場合ニ非サレハ豫審終結ノ言渡  
ニ對シ故障ヲ爲スヲ許サス且不利益ナル場合ト雖モ輕罪裁判

所又ハ違警罪裁判所ニ移スノ言渡ニ對シテハ更ニ制限アリ第一  
言渡ヲ爲シタル豫審判事ノ管轄違ナルル越權アルル又ハ送付セ  
ラル可キ輕罪裁判所又ハ違警罪裁判所ノ擔當ナラサル時ノミ故  
障ヲ爲ス事ヲ許セリ

一〇豫審中ノ故障ト終結ノ言渡ニ對スル故障ト重要ナル差異  
故障ヲ爲ス可キ理由ノ差異

但シ豫審中ノ故障ハ法律ニ於テ爲ス可ラサル處分ヲ爲シタルト  
爲ス可キ處分ヲ爲サ、ルニ限ル即チ治罪法第二百三十四條第一  
第二第三ニ定メタル場合其他越權ノ處分アリタルヲ以テ故障ノ  
原因トス故ニ豫審ノ處分規則ニ反キタルト無キ時ハ事實ノ錯誤  
ヲ理由トシテ故障ヲ爲スヲ得ス終結ノ言渡ニ對スル故障ハ檢  
事ニ付テハ其言渡ノ如何ニ拘ハラス法律ノ錯誤ノミナラス事實

ノ錯誤ヲ以テ故障ノ原因ト爲ス事ヲ許セリ譬エハ豫審判事ハ証  
憑充分ナラサル者トシテ免訴ノ言渡アルモ檢事ハ証憑充分ナル  
ニ依リ送付ノ言渡ヲ爲ス可キモノトシテ故障ヲ爲ス事ヲ得可シ  
被告人ニ付テハ重罪裁判所ニ送付スルノ言渡アリタル片ハ事實  
錯誤ト雖モ故障ノ原因ト爲ス可キ事ナリ

二 故障ヲ爲ス可キ期限ノ差異

但豫審中ノ故障ハ時日ノ長短ニ拘ハラス終結ノ言渡アルマテ其  
申立ヲ爲ス可キ得終結ノ言渡ニ對スル故障ハ言渡書ノ送達アリ  
タル日ヨリ一日内ニ非サレハ之ヲ爲ス可キ得ス

○被告人ニ送達ス可キ言渡書ニ上訴スルヲ得可キ事及ヒ其期

限ヲ記載スルノ理由

被告人法律ニ通セサルヨリシテ上訴即チ故障及ヒ上告ヲ爲スノ權ア

ルヲ知ラス爲メニ上訴ノ權ヲ失フ事アリ是ヲ以テ法律ニ於テハ其言  
渡ニハ豫審判事ノ言渡ト會議局ノ言渡トヲ問ハス總テ豫審ノ言渡ニ  
ハ上訴スル可キ得可キ及ヒ其故障シ得ル期限ヲ記載スヘシト規定  
セリ是レ被告人ノ有益ノ規則ニシテ復タ正當至正ナルモノナリ

○公判

公判トハ豫審ニ對スル語ニシテ裁判廳ニ於テ苟クモ公安ヲ害シ又ハ  
風俗ヲ害スルノ恐アル所ノ外ハ公衆ノ傍聽ヲ許シ公然ノ判決ヲ爲ス  
モノヲ云フ

○公判ノ順序ヲ變更スルヲ得可キ場合

- 一 未決拘留ノ日數ヲ減縮ス可キ時但シ被告人永ク拘留ヲ受ケタル  
事件ニ付テハ被告人拘留ヲ受ケス及ヒ保釋責付ヲ得タル事件ノ  
ミナラス被告人暫時拘留ヲ受クル事件ニ先チ之ヲ公判ニ付スル

治罪法